

車載型デジタル簡易無線機

IC-D6005



この無線機をご使用の際には、総務省総合通信局への無線局の登録申請が必要です。
必ず登録申請をして、登録状が手元に届いてからご使用ください。

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた登録局対応の車載型デジタル簡易無線機です。

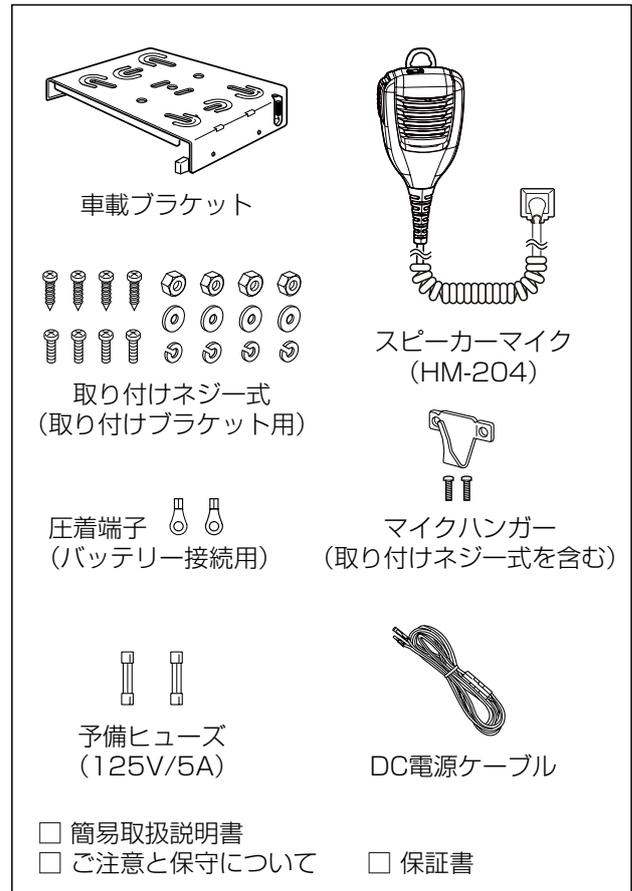
ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本機の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

本製品の概要について

- ◎IP54(防塵形と防まつ形)^{★1}の性能に対応できるように設計されています。
- ◎付属のスピーカーマイク(HM-204)についても、IP54の性能があります。
- ◎通話チャンネル番号や個別番号などの代わりに、漢字、英数字、記号、外字^{★2}を使用した名称で表示できます。
- ◎弊社製携帯型デジタル簡易無線機(IC-D50、IC-D60)と組み合わせて、簡単なデジタル無線システム運用ができます。
- ◎別売品の卓上電源装置(PS-230A)と組み合わせて、簡易基地局が構築できます。
- ◎デジタル通信によりクリアな音質で通話できます。
- ◎秘話を設定することで、他局に通話内容を傍受されるのを防止できます。
- ◎個別呼び出し機能を使用しない場合、種別コード「3R」の他社製デジタル簡易無線機と通話互換があります。^{★3}

- ★1 「IP表記について」(Pii)をご覧ください。
- ★2 別売品のHM-206 #02(コマンドマイク)を接続しているときは、外字を表示できません。
- ★3 AMBE+2TM方式を採用している機種に対応しています。

付属品について



チャンネルについて

- ◎CH1～CH14、CH16～CH30 :通話用チャンネル
- ◎CH15(呼出CH)^{★1} :呼出用チャンネル
- ◎CHS1～CHS5^{★2} :上空用チャンネル
- ★1 一時的な呼び出しをするとき使用します。(P2-2)多くの局が呼出用チャンネルを使用しますので、呼び出し後の通話は、空いている通話チャンネルに切り替えてから通話をつづけてください。
- ★2 上空用チャンネルでは送信できません。上空用チャンネルの設定は、販売店にご依頼ください。

取扱説明書の内容について

本書に記載の操作や機能は、お買い上げの販売店であらかじめ設定をご依頼いただくことにより使用できる機能も含まれています。

登録商標/著作権について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴ、ポケットビーブ、コマンドマイクは、アイコム株式会社の登録商標です。その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。本書の内容の一部、または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。

はじめに

電波法上のご注意

- ◎無線局の運用に当たっては、電波利用料を納付する必要があります。(納入告知書により、納付期限内に納付)
- ◎登録局の有効期間は、登録日から数えて5年間です。再登録の申請は、有効期間満了の3ヵ月前から1ヵ月前のあいだに手続きをしてください。
- ◎本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。分解や改造をしないでください。
- ◎本製品でご使用いただけるアンテナは、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けたものに限定されます。技術基準適合証明(工事設計認証)で登録されていないアンテナを使用すると、電波法違反で罰せられることとなりますので、ご注意ください。ご使用いただけるアンテナについては、弊社ホームページ <http://www.icom.co.jp/> をご覧ください。
- ◎他局の通信を妨害することや、通話の内容をほかにもらし、これを窃用することは、かたく禁じられています。
- ◎本製品は、日本国内における陸上、および日本周辺海域で運用する無線機です。上空での運用はできませんのでご注意ください。無線局登録状の範囲を超えた運用は、1年以下の懲役又は100万円以下の罰金に処せられることとなります。

IP表記について

機器内への異物の侵入に対する保護性能を表すための表記です。

IPにつづけて保護等級を示す数字で記載され、1つ目の数字が防塵等級、2つ目が防水等級を意味します。

また、保護等級を定めない場合は、その等級の表記に該当する数字部分を[X]で表記します。

【本書で記載する保護の程度について】

IP5X(防塵形) : 試験用粉塵を1m³あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのち取り出して、無線機として機能すること

IPX4(防まつ形) : いかなる方向からの水の飛まつを受けても有害な影響がないこと

防塵/防水性能について

マイクロホンを無線機本体に接続することで、IP54の防塵/防水性能があります。

次のような使いかたをすると、防塵/防水性能を維持できませんので、ご注意ください。

- ◎雨の中や水滴が付着、またはぬれた手で、マイクロホンや外部スピーカーを付けたり、はずしたりしたとき
- ◎コマンドマイク(HM-206 #02)、または防水スピーカーマイク(HM-204)が接続されていない、または正しく接続されていない
- ◎落としたりして、強い衝撃が加わったとき
- ◎本製品を分解、または改造したとき
- ◎水や湯を水道の蛇口から直接当てたとき
- ◎水や海水につけたとき
- ◎-20℃~+60℃以外の環境で使用したとき

別売品の使用による防塵/防水性能について

防水スピーカーマイク(HM-204)、コマンドマイク(HM-206 #02)を無線機本体に接続することで、IP54の防塵/防水性能があります。

※上記以外の別売品(※8章)については、防塵/防水構造になっていませんので、ご注意ください。

はじめに

音声圧縮(符号化)方式について

本製品は、米国DVS社の開発したAMBE (Advanced Multi-Band Excitation) 方式を採用しており、AMBE+2™方式に対応しています。

The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to extract, remove, decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form U.S. Patent Nos. #5,870,405, #5,826,222, #5,701,390, #5,715,365, #5,649,050, #5,630,011, #5,581,656, #5,517,511, #5,491,772, #5,247,579, #5,226,084 and #5,195,166.

基本的な運用手順について

各手順の操作方法については、本書2章をご覧ください。

【通話チャンネルが決まっている場合】

- ①相手と同じ通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)に合わせます。
- ②【PTT】(送信)スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけ、【PTT】(送信)スイッチをはなします。

【通話チャンネルが決まっていない場合】

- ①「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)に合わせます。
※空いている通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)を事前に確認しておきます。
- ②【PTT】(送信)スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。
- ③通話チャンネルを通話相手に伝えて、【PTT】(送信)スイッチをはなします。
- ④通話相手に伝えた通話チャンネルに切り替えます。

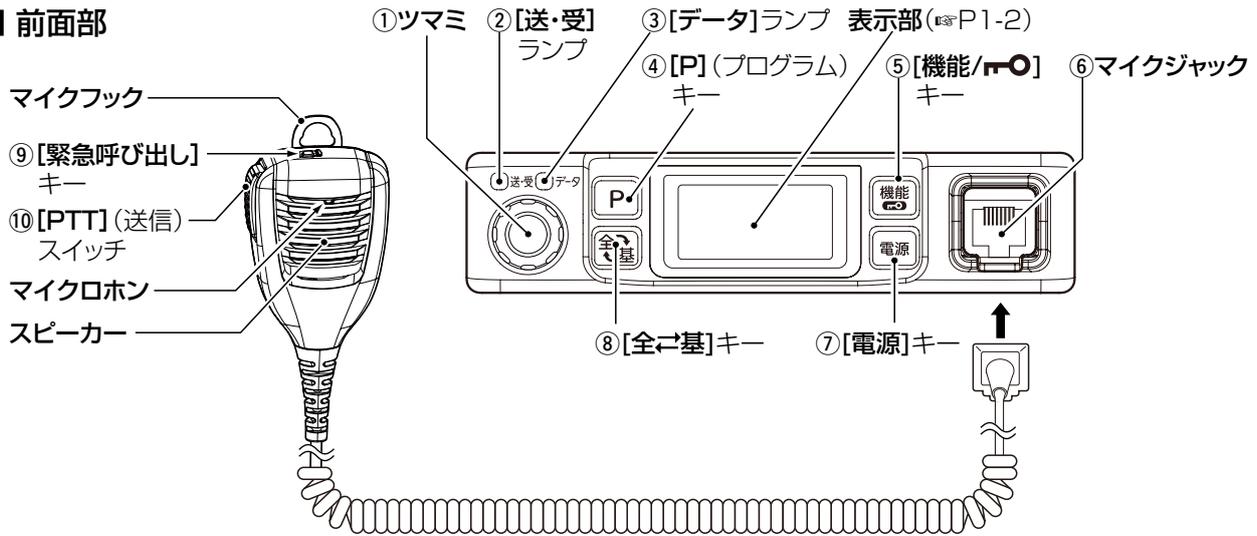
【通話チャンネルに設定できる便利な機能】

- ◎通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)には、ユーザーコード★(☎P3-1)、および秘話キー★(☎P4-1)を設定できます。
★同じ設定の相手とだけ通話できます。
- ◎プライベートチャンネル機能(☎P6-3)を使用すると、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)と通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)の切り替えに便利です。
- ◎プライベートチャンネルスキャン機能(☎P6-3)を使用すると、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)と通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)の通信を交互に受信(監視)できます。

もくじ

| | | | |
|-----------------------------|-----|------------------------|-----|
| はじめに | i | 6.そのほかの機能について | 6-1 |
| ■ 本製品の概要について | i | ■ ロック機能 | 6-1 |
| ■ チャンネルについて | i | ■ 受信電波強度通知機能 | 6-1 |
| ■ 登録商標/著作権について | i | ■ モニター機能 | 6-1 |
| ■ 付属品について | i | ■ 拡声器機能 | 6-1 |
| ■ 取扱説明書の内容について | i | ■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー) | 6-2 |
| ■ 電波法上のご注意 | ii | ■ プライベートチャンネル機能 | 6-3 |
| ■ IP表記について | ii | ■ プライベートチャンネルスキャン機能 | 6-3 |
| ■ 防塵/防水性能について | ii | ■ メモリーチャンネルスキャン機能 | 6-4 |
| ■ 別売品の使用による防塵/防水性能について | ii | ■ ポケットビープ機能 | 6-4 |
| ■ 取り扱い上のご注意 | iii | ■ 呼び出しメロディー機能 | 6-4 |
| ■ 電磁ノイズについて | iii | ■ 着信表示 | 6-4 |
| ■ 自動車運転時のご注意 | iii | ■ 発信履歴機能 | 6-5 |
| ■ 車両に取り付けるときのご注意 | iii | ■ 送信出力の切り替え機能 | 6-5 |
| ■ 放熱について | iii | 7.各種機能の設定 | 7-1 |
| ■ 音声圧縮(符号化)方式について | iv | ■ 設定一覧 | 7-1 |
| ■ 基本的な運用手順について | iv | ■ 設定モードに移行するには | 7-1 |
| 1.各部の名称と機能 | 1-1 | ■ 詳細設定モードに移行するには | 7-1 |
| ■ 前面部 | 1-1 | ■ 設定のしかた | 7-2 |
| ■ 表示部 | 1-2 | ■ 設定項目について | 7-2 |
| ■ 後面部 | 1-3 | 8.別売品とその使いかた | 8-1 |
| 2.通話のしかた | 2-1 | ■ 別売品についてのご注意 | 8-1 |
| ■ 通話するときのアドバイス | 2-4 | ■ ホームページに掲載 | 8-1 |
| 3.簡単なグループ通話のしかた | 3-1 | ■ 別売品一覧表 | 8-1 |
| ■ ユーザーコードを設定して通話するには | 3-1 | ■ AM-5 (アーム型マイクロホン) | 8-1 |
| ■ チャンネル毎にユーザーコードを設定して通話するには | 3-2 | ■ SM-28 (デスクトップマイクロホン) | 8-2 |
| ■ OPC-2330 (マイク分岐BOX) | | ■ OPC-2330 (マイク分岐BOX) | 8-3 |
| 4.盗聴防止を設定するには | 4-1 | 9.保守について | 9-1 |
| ■ 秘話機能を設定するには | 4-1 | ■ 日常の保守と点検について | 9-1 |
| ■ 秘話機能を使用して通話するには | 4-2 | ■ 初期状態に戻す(リセットする)には | 9-1 |
| 5.個別呼び出し機能による通話 | 5-1 | ■ ヒューズの交換について | 9-1 |
| ■ 呼び出しかたの種類について | 5-1 | ■ 従来製品との相互使用について | 9-1 |
| ■ 個別呼び出し機能を設定するには | 5-2 | ■ 故障かな?と思ったら | 9-2 |
| ■ 個別呼び出し機能で通話するには | 5-4 | ■ アフターサービスについて | 9-3 |

■ 前面部



① ツマミ

音量を調整します。

※**[全モード]**キー、**[機能/電源]**キーを押したあとに回すと、チャンネル番号、個別番号、グループ番号を選択できます。
 ※設定モードや詳細設定モード(☞P7-1)では、選択した設定項目の設定値を変更するときに使用します。

② [送・受]ランプ

電波を受信しているあいだは緑色に点灯します。
 電波を送信しているあいだは赤色に点灯します。
 着信表示*1を「ON」に設定しているときに、着信があると、橙色に点滅します。

★1 設定はお買い上げの販売店にご依頼ください。

③ [データ]ランプ

データを送受信しているあいだは橙色に点灯します。

④ [P](プログラム)キー

◎短く押すと、通話チャンネルを表示します。

◎押し続けているあいだは、モニター機能*2が動作します。

★2 音を聞きながら音量を調整するとき、ユーザーコードが異なる他局の通話や秘話機能を使用しない他局の通話を聞くときにも使用します。

※**[P](プログラム)**キーは、詳細設定モードで、短く押したときと、長く押したときの機能を割り当てできます。

⑤ [機能/電源]キー

◎短く押すごとに、通話チャンネル、ユーザーコード、個別番号をツマミで変更できる状態になります。

ツマミを回すと、選択できます。

◎長く押すごとに、ロック機能がON/OFFします。

※ロック中でも**[電源]**キーと**[PTT](送信)**スイッチは、操作できます。(☞P6-1)

⑥ マイクジャック

防水スピーカーマイク(付属品:HM-204)、またはコマンドマイク(別売品:HM-206 #02*3)を接続します。

★3 HM-206 #02接続時の操作方法については、弊社ホームページ掲載の「IC-D6005取扱説明書(HM-206 #02編)」をご覧ください。

※別売品のAM-5、またはSM-28を接続するときは、外部スピーカが必要です。

無線機後面の外部スピーカージャックに外部スピーカ(別売品:SP-30、SP-35)を接続してください。

⑦ [電源]キー

電源の「入」/「切」を切り替えます。

⑧ [全モード]キー

押すごとに、「全体」→「基地」→「個別」→「グループ」の順に呼び出せる局を切り替えます。

ツマミを回すと、個別、グループとして、設定された番号が選択できます。

⑨ [緊急呼び出し]キー

緊急呼び出し機能(☞P6-2)が設定されている場合、長く(5秒以上)押すと、緊急呼び出しを開始します。

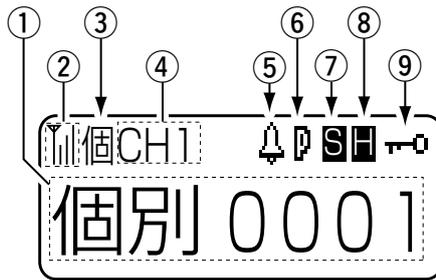
⑩ [PTT](送信)スイッチ

[PTT](送信)スイッチを押すと送信状態、はなすと待ち受け状態になります。

※電波法により、「連続送信(通話状態)」が5分を超えると、通話を自動的に切断します。(☞P2-4)

1 各部の名称と機能

■ 表示部

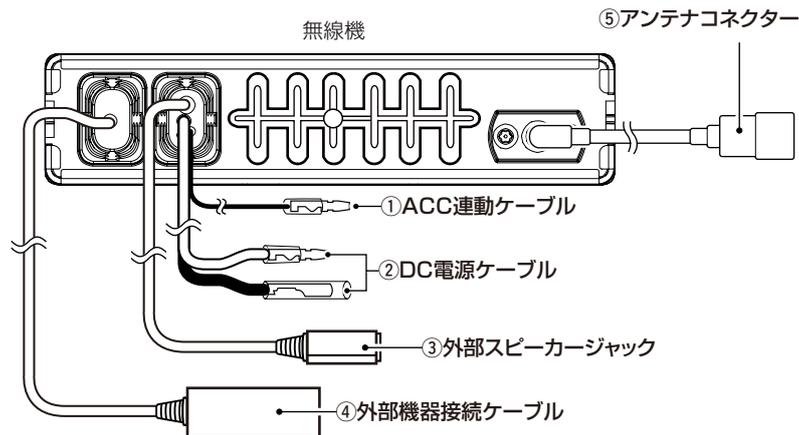


| | | |
|---|-----------------------|---|
| ① | [個別番号/ 設定内容] 表示 | 音量、チャンネル番号、個別番号などを表示します。 ※設定モード、または詳細設定モードのときは、選択した設定項目を表示します。(P7-1) また、ツマミを回すと、音量(0~32)を表示します。 ※チャンネルや個別番号に名称を設定する場合、またショートメッセージを表示させる場合はお買い上げの販売店にご依頼ください。 |
| ② | | 受信している電波の強度を、下図の3段階(目安)で表示します。 ※「P」は、電源が入っているときは常に表示されています。 |
| ③ | 個 | 運用中の各モードを表示します。 個:個別 全:全体 基:基地 グ:グループ ※グループメンバー時は、[×]が白黒反転表示します。 |
| ④ | CH1 | 待ち受け中は、現在のチャンネル番号や秘話設定状態を表示します。 秘話設定時は、「CH」が白黒反転表示します。 また、画面によりショートメッセージ番号や「設定」(設定モード、詳細設定モード時)を表示します。 |

| | | |
|---|--|--|
| ⑤ | | 個別呼び出しを受けたとき点滅します。ポケットビープ機能が設定されているとき点灯します。 |
| ⑥ | | Pベル機能を「ON」に設定したとき表示します。 |
| ⑦ | | スキャン機能が動作中に点滅します。(P6-3) |
| ⑧ | | 各通話チャンネルの送信出力設定を表示します。(P6-5) : ハイパワー (5W) 選択時に点灯 : ローパワー (1W) 選択時に点灯 : 上空用チャンネル(受信専用: S1 ~ S5)、または送信禁止*が設定された通話チャンネルを選択時に点灯 ★送信禁止の設定については、お買い上げの販売店にご依頼ください。 |
| ⑨ | | ロック機能が動作しているとき、表示します。(P6-1) |

1 各部の名称と機能

■ 後面部



① ACC連動ケーブル(青色)

自動車の鍵(エンジンスイッチ)の操作に連動して、本製品の電源を「入」/「切」できるようにするときは、鍵をACC(アクセサリ)の位置で12V、または24Vになり、OFFの位置で0Vになるラインに接続します。

※ ACCと連動させないときは、接続の必要はありません。
ほかの機器の端子などに接触しないように、ACC連動ケーブル先端の保護キャップ(黒色)を付けた状態でご使用ください。

② DC電源ケーブル

DC電源ケーブル(付属品)を使用して、12V/24V系のバッテリーと接続します。

※ 入力電圧に応じて、12V/24Vを自動認識します。
※ 卓上電源装置(別売品:PS-230A)と接続することもできます。(P8-1)

【低電圧表示について】

供給されるDC電源電圧が低い場合は「低電圧」と表示され、警告音が鳴ります。

「低電圧」と表示されているあいだは、動作しません。

※ 動作範囲の電圧に戻るまで、無線機としての動作をしません。

③ 外部スピーカージャック

外部スピーカー(別売品:SP-30、SP-35)、または卓上電源装置(別売品:PS-230A)のスピーカーと接続します。

(ϕ 3.5mm/4 Ω /モノラル)

※ AM-5(別売品)、またはSM-28(別売品)のマイクロホンを使用するときは、外部スピーカー(別売品:SP-30、SP-35)を接続してください。

④ 外部機器接続ケーブル

マイク分岐BOX(別売品:OPC-2330)接続用のケーブルです。

※ 将来的な機能拡張用(シリアルデータ通信など)にも使用します。

データ通信を使用するには、お買い上げの販売店で、設定する必要があります。

⑤ アンテナコネクタ

アンテナと接続します。(M型:50 Ω)

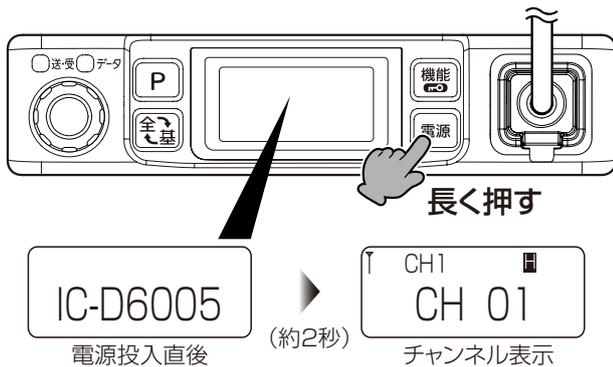
相手と同じ通話チャンネルに合わせるだけの簡単な通話のしかたについて説明しています。

1 電源を入れる

【電源】キーを長く(約1秒)押します。

- ビープ音が「ピー」と鳴ります。

【電源を入れたときの表示】

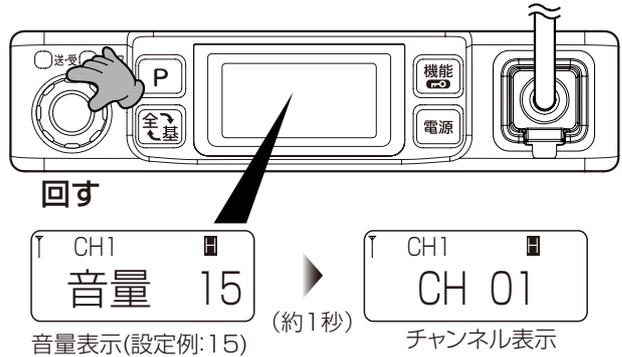


2 音量を調整する

ツマミを回すと、音量を調整できます。

相手の音声聞きやすい音量レベルに調整してください。

- 調整範囲: 0~32



詳細設定モードで、【P】(プログラム)キーの動作を「P長 モニタ」(P7-6)に設定することで、【P】(プログラム)キーを押しているあいだ、【送・受】ランプが緑色に点灯します。「ザー」という音が出ますので、この音を聞いて調整できます。(P6-1)

【ご注意】

音量が最小のときは、操作音(ビープ音)、通話チャンネル番号案内の音声や受信した音声は、聞こえません。

【ご参考】チャンネル番号音声案内機能について

電源を入れたときや、チャンネル番号を変更したとき、選択された通話チャンネル番号を読み上げます。

※使用しないときは、詳細設定モードの[チャンネル番号音声案内]項目で設定を「OFF」にできます。

2 通話のしかた

3 通話チャンネルを合わせる

①【機能/PTT】キーを短く押します。

- 表示(例:CH5)が点滅します。

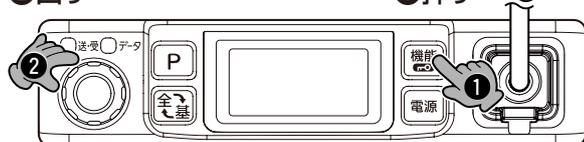


②ツマミを回して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。

- 選択範囲:01~14、16~30

②回す

①押す



※通話チャンネルとは、通話に使用する周波数のことです。

相手と通話チャンネルが異なるときは、通話できません。

【呼出用チャンネルについて】

呼出用チャンネル(CH15)は、「呼出CH」と表示します。

このチャンネルは、一時的な呼び出しにだけ使用しますので、

グループ通話(☞P3-1)や秘話機能(☞P4-1)、個別呼び出し機能(☞P5-1)による通話に使用できません。

「呼出CH」で呼び出した相手と通話をつづける場合は、空いている通話チャンネル(CH01~CH14、CH16~CH30)に変更してから通話してください。



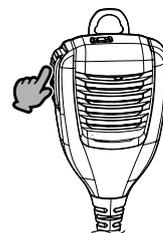
呼出用チャンネル表示

4 【PTT】(送信)スイッチを押す

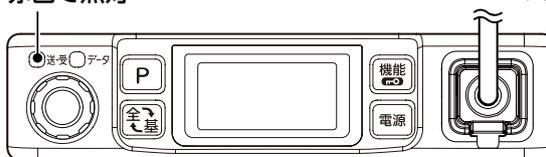
【PTT】(送信)スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。

押しつづける

- 【PTT】(送信)スイッチを押しているあいだは、【送・受】ランプが赤色に点灯します。



赤色で点灯



【マイクロホンの使いかた】

マイクロホンと口元を約5cmはなし、普通の大さの声で通話してください。

マイクロホンに口を近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって相手に聞こえにくくなりますのでご注意ください。

【ご参考】

- ◎【送・受】ランプが緑色に点灯中は、混信防止機能(☞P2-4)によって送信できない場合があります。
- ◎【PTT】(送信)スイッチを押したとき、「ピッ」と鳴ったら、通話相手に呼びかけてください。

2 通話のしかた

5 相手の音声を受信する

[PTT] (送信) スイッチをはなすと待ち受け状態になり、相手局が送信すれば、受信した音声聞こえます。

受信中は、[送・受] ランプが緑色に点灯します。

また、電波の受信状態(☞P1-2)を表示部に表示します。

待ち受け状態のときは、[送・受] ランプが消灯しています。



通話相手以外の電波(同じ通話チャンネルで誰かが通話中)を受信しているときも、[送・受] ランプが緑色に点灯し、電波の受信状態を表示します。

6 通話をつづける

送信と受信は交互にします。

※相手が送信しているときは、[PTT] (送信) スイッチを押しても混信防止機能(☞P2-4)が動作して、「プップッ…」と鳴りつづき、送信できません。

相手の通話が終了してから、送信してください。

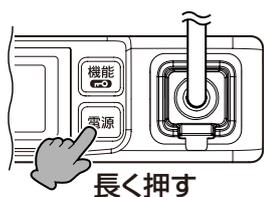
※送信の終わりに「どうぞ」を付け加えると、互いの会話がスムーズになります。



7 電源を切る

[電源] キーを長く(約1秒)押します。

- 電源を切る前の通話チャンネルを記憶して電源が切れます。



※ 表示内容を変更後に電源を切るときは、2秒以上経過してから電源を切ってください。

電源を切る前の状態が記憶されないことがあります。

2 通話のしかた

■ 通話するときのアドバイス

1. 送信時間制限装置について

1回の送信で連続して通話できる時間は、「5分以内」と電波法で定められています。

制限時間の10秒前になると、ビープ音が「ピッ」と鳴ります。

連続通話時間が5分になると、警告音が「ブッ」と鳴って、自動的に送信を停止します。

※送信を自動停止すると、1分間は通話できません。

通話を再開する場合は、1分後に[PTT] (送信) スイッチを押してください。

2. 混信防止(キャリアセンス)機能について

無線局の運用では、同じ通話チャンネルで自分が送信中のときにほかの人が送信すると混信を受け通話ができない場合があります。

また、逆にほかの人が通話中のチャンネルで送信すると、その通話を妨害することになります。

このような混信を防止するために、同じチャンネルで一定レベルの電波を本製品が受信している場合は、通話中とみなし、送信できないよう、自動的に制御する機能をキャリアセンスといいます。

キャリアセンスは、本製品が送信を開始するときに動作します。

3秒以上通話が途切れた場合、本製品が通話を終了したと判断し、次の送信開始時からキャリアセンスの機能が動作します。

なお、ほかの電子機器からの電波を受信した場合(混信や妨害波を含む)についてもキャリアセンスが動作し送信できないことがあります。故障ではありません。

本製品は、電波法によりこのキャリアセンスの搭載が義務付けられています。

3. 電波干渉について

比較的せまいエリアで、多くの局が通話するような状態では、電波の干渉(相互変調)による混信が発生することがあります。

このような混信は、グループごとに[通話チャンネル]の組み合わせを適切に設定することで防止できます。

4. 通話範囲について

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信しにくくなる場合があります。

◇通話範囲は、周囲の建物などの状況により異なりますので、下記の数値を目安に通話してください。

(送信出力:5W時)

見通しのよい場所 :約10km

市街地や建物内 :約1~3km

◇通話範囲であっても、山や建物などが障害物となつて、通話しにくくなる場合があります。

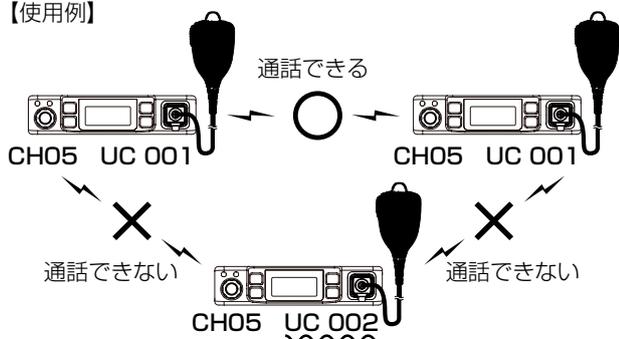
そのときは、場所を少し移動して通話してください。

また、テレビやラジオなどの家電製品、パソコン、および電話機などの近くで使用すると、雑音が発生したり、誤動作したりすることがありますので、はなれてご使用ください。

3 簡単なグループ通話のしかた

複数の通話相手と同じユーザーコード(UC)を設定するだけで、通話グループが簡単に構成できます。
通話チャンネル(☞P2-2)とユーザーコードが一致したすべての相手と通話できます。

【使用例】



※秘話機能や個別呼び出し機能とも併用できます。
※「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)選択時は、ユーザーコードを使用できないため、本章の操作はできません。

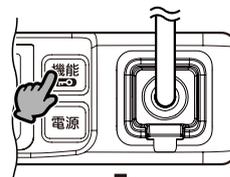
【ご参考】ユーザーコードの設定方法変更について
通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)ごとに異なるユーザーコードを使用する場合は、「■ チャンネル毎にユーザーコードを設定して通話するには」(☞P3-2)でユーザーコードの設定を変更してください。

■ ユーザーコードを設定して通話するには

1 通話チャンネルを合わせる

①【機能/電源】キーを短く押します。

●表示(例:CH5)が点滅します。

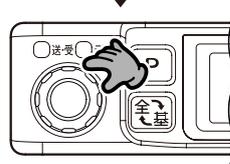


②ツマミを回して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。

●選択範囲:01～14、16～30

※CH01からCH30を選択したとき、またはCH30からCH01を選択したときに、ビープ音が「ピピッ」と鳴ります。

※ユーザーコードは、表示しません。



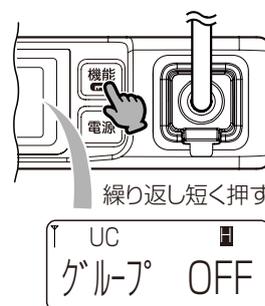
2 UC(ユーザーコード)表示にする

【機能/電源】キーを繰り返し短く押して、「グループ OFF」(初期設定時)表示を選択します。

●「CH 05」(CH5点滅)→「グループ OFF」→「CH 05」の順に切り替わります。

※表示を切り替えてから、何も操作しない状態(約10秒)になると、「通話チャンネル」表示に戻ります。

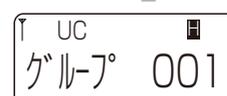
※「グループ OFF」の場合、ユーザーコードを使用して通話する相手の音声は聞こえますが、自分の音声は、ユーザーコードを設定している相手には聞こえません。



3 ユーザーコードを設定する

ツマミを回して、通話する相手と同じユーザーコード(例:001)を設定します。

● 選択範囲:OFF(000)、
001～511



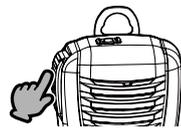
3 簡単なグループ通話のしかた

■ ユーザーコードを設定して通話するには
(つづき)

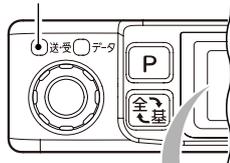
4 [PTT] (送信) スイッチを押す

[PTT] (送信) スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。

- [PTT] (送信) スイッチを押しているあいだは、[送・受] ランプが赤色に点灯します。



押しつづける
赤色で点灯



5 相手の音声を受信する

[PTT] (送信) スイッチをはなすと待ち受け状態に戻ります。相手局が送信した電波を受信すれば、音声聞こえます。受信中は、[送・受] ランプが緑色に点灯します。

また、電波の受信状態 (P1-2) を表示部に表示します。待ち受け状態のときは、[送・受] ランプが消灯します。
※通話相手以外(同じ通話チャンネルで、異なるユーザーコードを使用して通話している)の電波を受信しているときも、[送・受] ランプが緑色に点灯し、電波の受信状態を表示します。



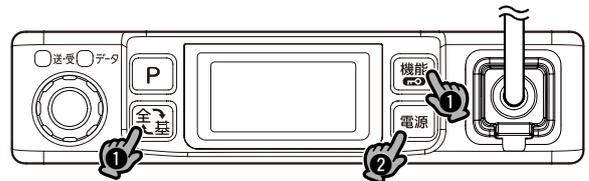
受信中の表示例

■ チャンネル毎にユーザーコードを設定して通話するには

通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用できます。

1 詳細設定モードにする

- ① 本製品の電源を切ります。
- ② [全⇄基] キーと [機能/電源] キーを同時に押しながら、[電源] キーを押しつづけます。



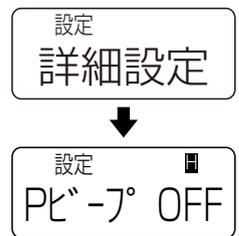
①を同時に押しながら、②を長く押す

- ③ 「詳細設定」と表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。

- 「Pビープ」が表示されます。

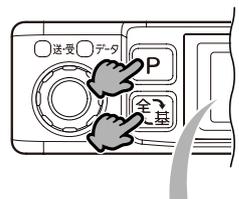
※ 詳細設定モードに移行しているときは、呼び出しを受信できません。

※ この章の説明で使用する設定値は、3-1 ページの図の【使用例】に記載の値を使用しています。

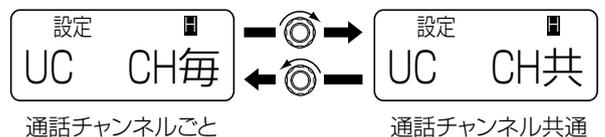


2 「UC CH毎」を選択する

- ① [P] (プログラム) キー、または [全⇄基] キーを繰り返し短く押して、「UC CH共」(初期設定時) 表示を選択します。



- ② ツマミを回して、「UC CH毎」を選択します。



通話チャンネルごと

通話チャンネル共通

3 簡単なグループ通話のしかた

■ チャンネル毎にユーザーコードを設定して通話するには(つづき)

3 ユーザーコードを設定する

① [P] (プログラム) キーを短く押し、「01 OFF」(初期設定時)表示を選択します。

- チャンネル番号が点滅します。

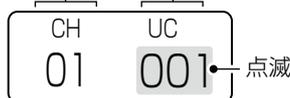
② ツマミを回して、チャンネル番号を選択します。

- 選択範囲: 01~30

③ [P] (プログラム) キーを短く押し、ユーザーコードの編集状態になります。

- ユーザーコードが点滅します。

チャンネル番号 ユーザーコード



[P]キーを短く1回押したとき

④ ツマミを回して、ユーザーコードを選択します。

- 選択範囲: OFF(000)、001~511

※ほかのチャンネル番号のユーザーコードも編集するときには、①~④を繰り返します。

※[全基]キーを押すと、チャンネル番号編集状態に戻ります。

4 選択した設定方法に変更する

[PTT] (送信) スイッチを押します。

- 詳細設定モードが解除され、ユーザーコードが変更されます。



5 通話チャンネルを合わせる

① [機能/電源] キーを短く押します。

- 表示(例: CH5)が点滅します。

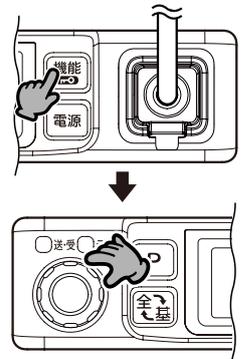


通話チャンネル表示
(表示例: 5チャンネル)

② ツマミを回して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。

- 選択範囲: 01~14、16~30

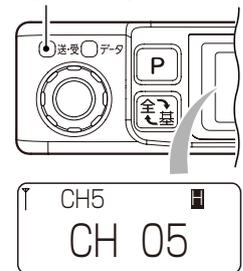
※CH01からCH30を選択したとき、またはCH30からCH01を選択したときに、ピープ音が「ピピッ」と鳴ります。



6 [PTT] (送信) スイッチを押す

[PTT] (送信) スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。

- [PTT] (送信) スイッチを押しているあいだは、[送・受] ランプが赤色に点灯します。



7 相手の音声を受信する

[PTT] (送信) スイッチをはなすと待ち受け状態に戻ります。相手局が送信した電波を受信すれば、音声聞こえます。

受信中は、[送・受] ランプが緑色に点灯します。

また、電波の受信状態(電波P1-2)を表示部に表示します。待ち受け状態のときは、[送・受] ランプが消灯します。

※通話相手以外(同じ通話チャンネルで、異なるユーザーコードを使用して通話している)の電波を受信しているときも、[送・受] ランプが緑色に点灯し、電波の受信状態を表示します。

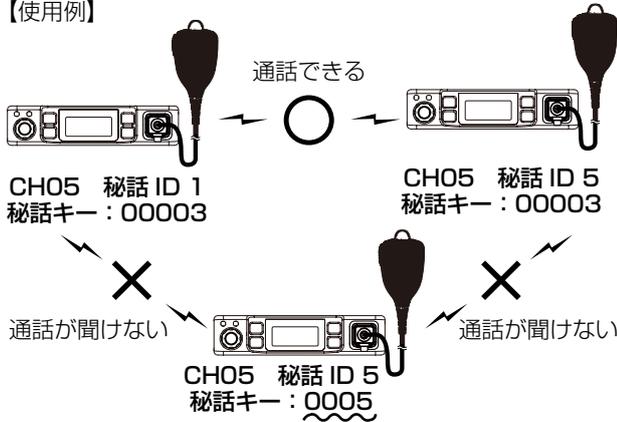


4 盗聴防止を設定するには

秘話機能を使用すると、ほかの相手に通話内容が傍受されるのを防止できます。

通話チャンネルと秘話IDに設定された秘話キーが一致した相手と通話できます。

【使用例】



※秘話ID(1~20)ごとに異なる秘話キー(00001~32767)を設定できます。

※秘話キーが同じ相手であれば、秘話IDが異なる場合でも通話できます。

※ユーザーコードや個別呼び出し機能による通話時も併用できます。

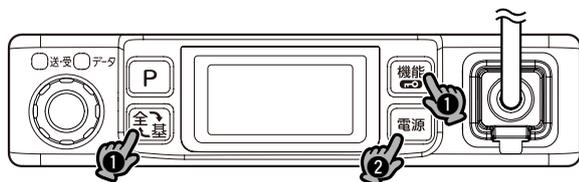
【「呼出CH」選択時のご注意】

「呼出CH(CH15)」は、呼出用チャンネルのため、設定した秘話機能が無効になります。

■ 秘話機能を設定するには

1 詳細設定モードにする

- ① 本製品の電源を切ります。
- ② [全⇄基]キーと[機能/電源]キーを同時に押しながら、[電源]キーを押しつづけます。



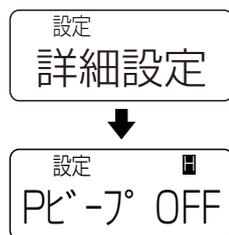
①を同時に押しながら、②を長く押し

- ③ 「詳細設定」と表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。

●「Pビープ」が表示されます。

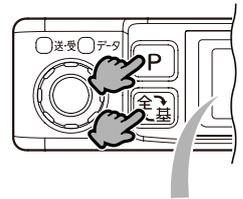
※詳細設定モードに移行しているときは、呼び出しを受信できません。

※この章の説明で使用する設定値は、上図の【使用例】に記載の値を使用しています。



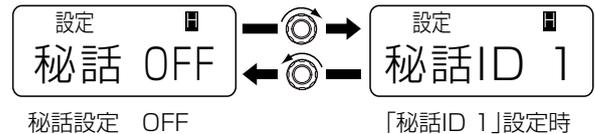
2 秘話IDを選択する

- ① [P] (プログラム) キー、または [全⇄基] キーを繰り返し短く押して、「秘話 OFF」(初期設定時) 表示を選択します。



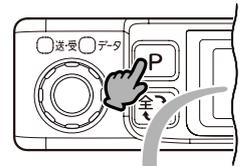
- ② ツマミを回して、秘話IDを選択します。

● 選択範囲：OFF、ID1~ID20



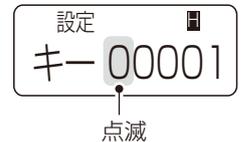
3 秘話キーを設定する

- ① [P] (プログラム) キーを長く押して、「キー 00001」(初期設定時) 表示を選択します。



● 秘話キーを表示して、編集できる桁が点滅します。

- ② ツマミを回して、秘話キーを選択します。



● 選択範囲：00001~32767

※ほかの桁も編集するときには、[P] (プログラム) キー、または [全⇄基] キーを短く押すと編集できる桁が点滅します。

- ③ [P] (プログラム) キーを長く押して、内容を確定します。

● 「秘話 ID」表示に変わります。

4 選択した設定を有効にする

[PTT] (送信) スイッチを押します。

● 詳細設定モードが解除され、秘話機能の設定が有効になります。

● 「ピッ」と鳴って、「CH」表示になります。



CH 表示に変化



通話チャンネル表示
(表示例：5チャンネル)

4 盗聴防止を設定するには

■ 秘話機能を使用して通話するには

秘話機能を使用して通話をする手順です。

※4-1ページで、秘話IDに設定した秘話キーを下記で選択した通話チャンネルに使用できます。

【ご注意】

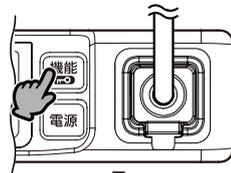
機密を要する重要な通話にご使用になることは、おすすめできません。

また、無線機間の通話は、電波を使用している関係上、第三者による盗聴を完全に阻止できませんので、ご注意ください。

1 通話チャンネルを合わせる

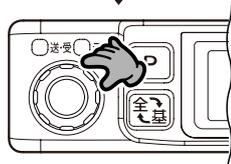
①【機能/PTT】キーを短く押します。

- 表示(例:CH5)が点滅します。



②ツマミを回して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。

- 選択範囲:01~14、16~30
- ※CH01からCH30を選択したとき、またはCH30からCH01を選択したときに、ピープ音が「ピピッ」と鳴ります。



2 【PTT】(送信)スイッチを押す

【PTT】(送信)スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。

- 【PTT】(送信)スイッチを押しているあいだは、【送・受】ランプが赤色に点灯します。



押しつづける
赤色で点灯



秘話機能ONのチャンネル



3 相手の音声を受信する

【PTT】(送信)スイッチをはなすと待ち受け状態に戻ります。

自分と同じ秘話キーの相手局、または秘話機能を使用しない他局が送信した電波を受信すれば、音声聞こえます。

受信中は、【送・受】ランプが緑色に点灯します。

また、電波の受信状態(電波P1-2)を表示部に表示します。

待ち受け状態のときは、【送・受】ランプが消灯します。



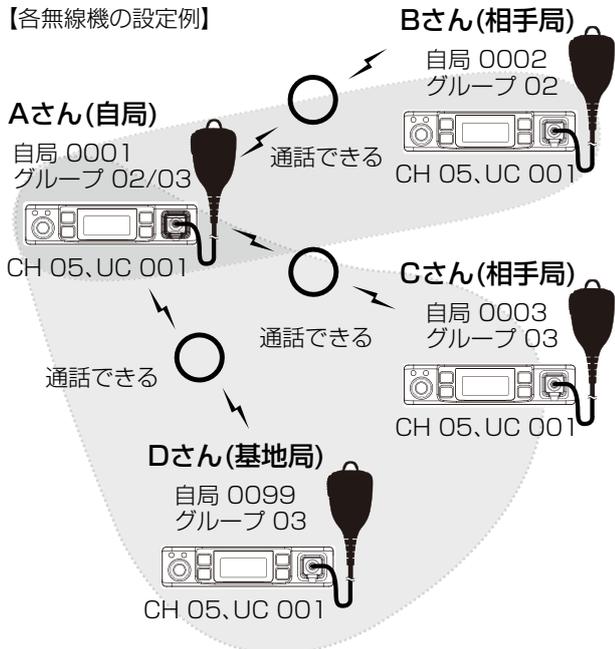
通話相手以外(同じ通話チャンネルで、異なる秘話キーを使用して通話している)の電波を受信しているときも、【送・受】ランプが緑色に点灯し、電波の受信状態を表示します。

※他局が自分と異なる秘話キーを使用している場合は、秘話処理された電子音が聞こえます。

■ 呼び出しかたの種類について

個別呼び出し機能を使用した呼び出しかたの種類について、下図を例に説明します。

【各無線機の設定例】



図の■は、Aさん(自局)が呼び出しできるグループを意味します。

呼び出しかたには、次の4種類の方法があります。

◎全体呼び出し



全体呼び出し表示

通話チャンネル(使用例:CH 05)とユーザーコード(使用例:UC 001)が同じ相手局(使用例:Bさん/Cさん/Dさん)を一斉に呼び出します。

◎基地局呼び出し



基地局呼び出し表示

通話チャンネル(使用例:CH 05)とユーザーコード(使用例:UC 001)が同じで、呼び出す基地局(使用例:Dさん)の自局番号(使用例:0099)を指定して呼び出します。

◎個別呼び出し



個別呼び出し表示

通話チャンネル(使用例:CH 05)とユーザーコード(使用例:UC 001)が同じで、呼び出す相手局(使用例:Bさん)の自局番号(使用例:0002)を指定して呼び出します。

◎グループ呼び出し



グループ呼び出し表示

通話チャンネル(使用例:CH 05)とユーザーコード(使用例:UC 001)が同じで、メンバー指定(☞P7-4)されたグループ番号(使用例:グループ 03)に所属するすべての相手(使用例:Cさん/Dさん)を呼び出します。

【「呼出CH」表示での機能制限について】



呼出用チャンネル表示

CH15は、呼出用チャンネルで、「呼出CH」と表示されます。

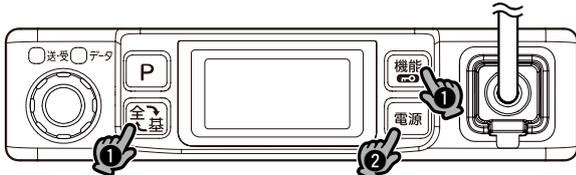
「呼出CH」表示のときは、グループ通話(☞P3-1)や秘話機能(☞P4-1)、個別呼び出し機能による通話に使用できません。

5 個別呼び出し機能による通話

■ 個別呼び出し機能を設定するには
通話に使用するすべての無線機で設定が必要です。

1 詳細設定モードにする

- ① 本製品の電源を切ります。
- ② [全⇄基]キーと[機能/電源]キーを同時に押しなが
ら、[電源]キーを押しつづけます。



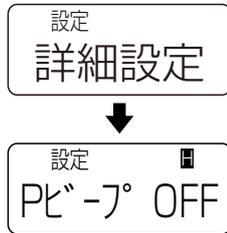
①を同時に押しなが
ら、②を長く押し

- ③ 「詳細設定」と表示され、「ピ
ピッ」と鳴ったら、すべての
キーから手をはなします。

● 「Pビープ」が表示されます。

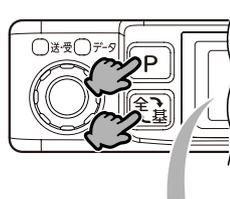
※ 詳細設定モードに移行している
ときは、呼び出しを受信できません。

※ この章の説明で使用する設定
値は、5-1ページの【使用例】に記
載の値を使用しています。

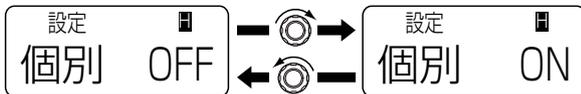


2 個別呼び出し機能を「ON」にする

- ① [P] (プログラム) キー、または
[全⇄基] キーを繰り返し短く
押して、「個別 OFF」(初期設
定時) 表示を選択します。



- ② ツマミを回して、「個別 ON」
を選択します。



個別呼び出し機能OFF

個別呼び出し機能ON

※ 個別呼び出し機能で使用するすべての無線機(使用
例:Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)に設定してくださ
い。

3 自局番号を設定する

自局番号とは、自分が個別呼び出しを受けるための番号
です。

- ① [P] (プログラム) キー、または
[全⇄基] キーを繰り返し短く
押して、「自局 0001」(初期
設定時) 表示を選択します。
- ② ツマミを回して、自局番号を
設定します。



自局番号表示
(表示例: 0001)

● 選択範囲: 0001~0245

【設定例】

個別呼び出し機能で使用するすべての無線機(使用例:A
さん/Bさん/Cさん/Dさん)に設定してください。

Aさん(自局) : 0001 Bさん(相手局) : 0002
Cさん(相手局) : 0003 Dさん(基地局) : 0099

4 基地局番号を設定する

基地局番号とは、基地局として指定された局の番号です。

- ① [P] (プログラム) キー、または
[全⇄基] キーを繰り返し短く
押して、「基地 0099」(初期
設定時) 表示を選択します。
- ② ツマミを回して、基地局番号
を設定します。



基地局番号表示
(表示例: 0099)

● 選択範囲: 0001~0245

5 個別呼び出し機能による通話

■ 個別呼び出し機能を設定するには(つづき)

5 グループ呼び出しを設定する

ここで指定したグループ番号の相手から呼び出しがあったとき、着信を許可するグループ番号を指定します。

- ① **[P]**(プログラム)キー、または**[全⇄基]**キーを繰り返し短く押し、「グループ 0001」(初期設定時)表示を選択します。



- ② ツマミを回して、指定するグループ番号を選択します。

- 選択範囲:0001~0010

- ③ 選択したグループ番号(例:グループ 0002)を表示した状態で、**[機能/⇄O]**キーを長く押しします。



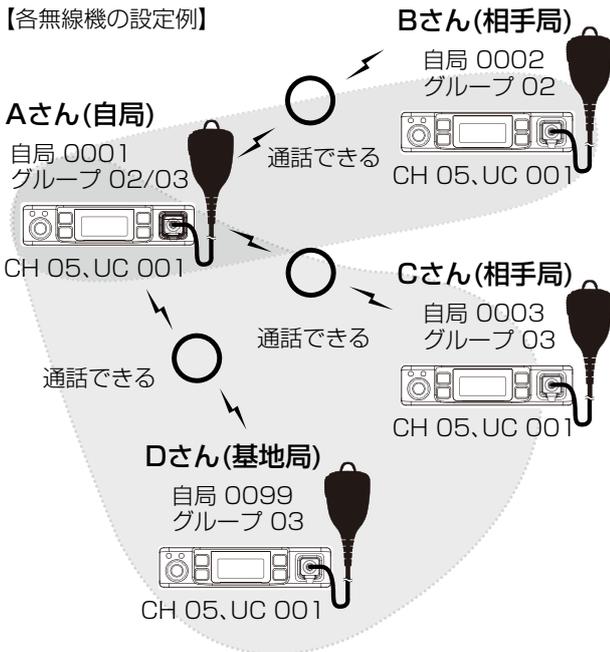
- メンバー指定を意味する を表示します。
- ※ 複数のグループからの呼び出しを受けるときは、②と③の操作を繰り返します。

【メンバー指定するグループ番号の例】

グループ呼び出しで使用するすべての無線機(使用例:Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)にメンバー指定してください。

- Aさん(自局) :グループ0002/グループ0003
 Bさん(相手局) :グループ0002
 Cさん(相手局) :グループ0003
 Dさん(基地局) :グループ0003

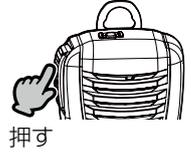
【各無線機の設定例】



図の■は、Aさん(自局)が呼び出しできるグループを意味します。

6 変更した設定値を確定する

2~5のステップで変更した設定値を確定するために、**[PTT]**(送信)スイッチを押します。



- 詳細設定モードが解除され、「IC-D6005」が表示されたあと、設定した自局番号(約1秒)が表示されます。
- ※ 設定変更後、**[P]**(プログラム)キー、または**[全⇄基]**キーを押して、電源を入れなおしても、設定値が確定されます。

【自局番号表示例】



★自局番号表示後に表示される内容は、電源を切る前の表示(通話チャンネル/個別番号/グループ番号)によって異なります。

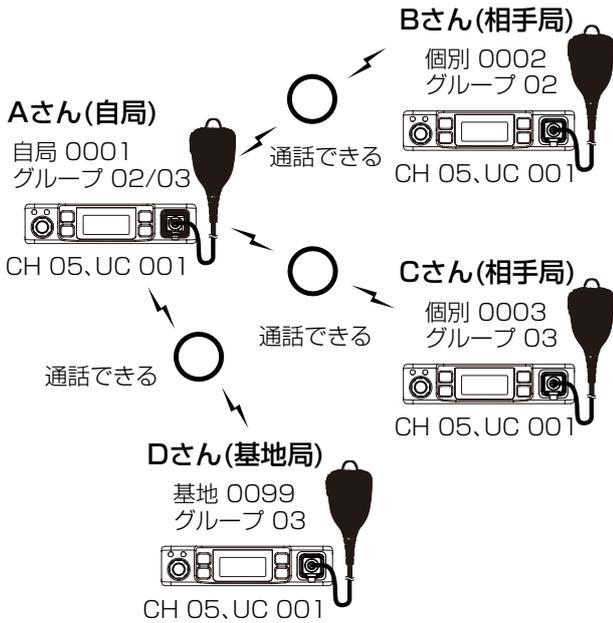
5 個別呼び出し機能による通話

■ 個別呼び出し機能で通話するには

個別番号(相手の自局番号)やグループ番号を指定して相手局と通話する方法について、説明します。

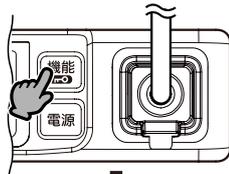
※個別呼び出し機能がすべての無線機に設定(※P5-2～P5-3)されているものとして説明しています。

【Aさんから呼び出す場合の設定例】

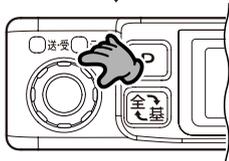


1 通話チャンネルを合わせる

- ①【機能/電源】キーを短く押します。
●表示(例:CH5)が点滅します。



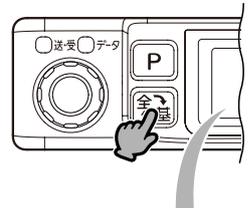
- ②ツマミを回して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。
●選択範囲:01~14、16~30



2 個別番号を合わせる

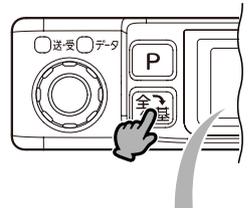
▶全体を呼び出すときは

【全⇄基】キーを繰り返し短く押し、「全体」表示を選択します。
※左図に記載されたBさん/Cさん/Dさんを一斉に呼び出すとき、選択します。



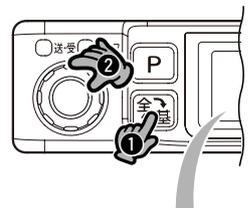
▶基地局を呼び出すときは

【全⇄基】キーを繰り返し短く押し、「基地局番号」表示(例:基地0099)を選択します。
※左図に記載されたDさん(基地局)を呼び出すとき、選択します。



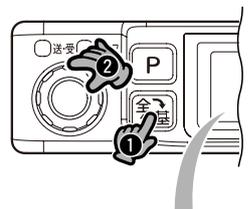
▶1局を呼び出すときは

- ①【全⇄基】キーを繰り返し短く押し、「個別番号」(例:個別0002)表示を選択します。
- ②ツマミを回して、相手の自局番号(例:0002)に合わせます。



▶グループを呼び出すときは

- ①【全⇄基】キーを繰り返し短く押し、「グループ番号」(例:グループ0001)表示を選択します。
- ②ツマミを回して、呼び出しをする相手のグループ番号(例:グループ0002)に合わせます。



5 個別呼び出し機能による通話

■ 個別呼び出し機能で通話するには(つづき)

3 呼び出す

① 呼び出す相手の番号が選択されていることを確認します。

- ◎ 全体呼び出しをする場合
「全体」表示(例:CH 05)



- ◎ 基地局呼び出しをする場合
「基地局」表示
(例:基地0099)



- ◎ 個別呼び出しをする場合
「個別番号」表示
(例:個別0002)



- ◎ グループ呼び出しをする場合
「グループ番号」表示
(例:グループ 0002)



② [PTT] (送信) スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。

- [送・受] ランプが赤色に点灯します。



【グループ呼び出しの特長】

同じグループ番号でメンバー指定(☑)を設定している受信局だけが、送信局からの音声聞こえます。

呼び出しを受けると、個別番号とグループ番号を交互に点滅します。

グループ呼び出しに応答するには、グループ番号と個別番号が交互に点滅しているあいだに、[PTT] (送信) スイッチを押します。

終話するまでのあいだに、送信と受信を交互にすることで、通話をつづけられます。

- 呼び出されたときの表示

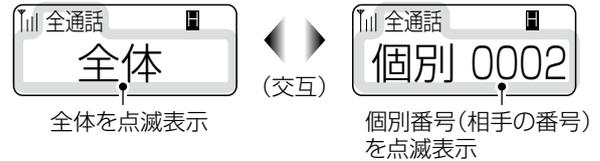


4 呼び出しを受ける

呼び出しを受けたときは、下図の表示状態で[PTT] (送信) スイッチを押すと、応答できます。

- ◎ 全体呼び出しを受けたとき

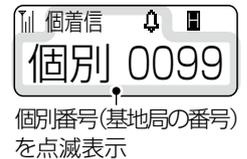
全体と個別番号を交互に点滅表示します。



- ◎ 基地局から呼び出しを受けたとき

基地局番号を点滅表示します。ポケットビープ機能や呼び出しメロディー、または呼出着信音が設定されているときは、設定されたビープ音やメロディー音が鳴ります。(☞P6-4、P7-3)

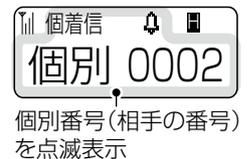
※応答すると、「着信」→「通話」表示に変わります。



- ◎ 個別呼び出しを受けたとき

個別番号を点滅表示します。ポケットビープ機能や呼び出しメロディー、または呼出着信音が設定されているときは、設定されたビープ音やメロディー音が鳴ります。(☞P6-4、P7-3)

※応答すると、「着信」→「通話」表示に変わります。



- ◎ グループ呼び出しを受けたとき

個別番号とグループ番号を交互に点滅表示します。



■ ロック機能

電源を入れなおしたり、不用意に無線機のキーやツマミに触れたりしても、設定や表示が変わらないようにします。

【操作のしかた】

【機能/電源】キーを長く(約1秒)押します。

- ビープ音が「ピピッ」と鳴って、を表示します。

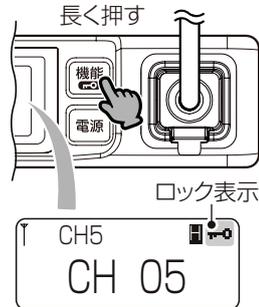
※同じ操作をすると、解除できます。

〈ロック中にできる操作〉

- ◎ ロック機能の解除
- ◎ 送信/受信の切り替え
- ◎ 電源のON/OFF

※ロック中の音量調整については、詳細設定モードでロックを解除できます。(☞P7-7)

※エマージェンシーの設定が「ON」の場合は、キーロック中でも緊急呼び出しの操作ができます。



■ 受信電波強度通知機能

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信信号の強度が弱くなり、相手の音声が届かない状態になると、ビープ音が「ピンポン」と鳴ります。

※警告音が鳴ったときは、場所を少し移動して通話してください。

受信信号の強度が強くなり、ふたたび信号を受信できるようになると、ビープ音(ピンポン)は止まります。

※工場出荷時やユーザーリセット時の状態では、使用できません。

詳細設定モードから設定を変更できます。(☞P7-1)

■ モニター機能

モニター機能は、次のような場合に使用します。

◎ 受信音がない状態で、「ザー」という音を聞きながら音量を調整するとき

◎ ユーザーコード、個別番号、グループ番号が異なる他局の通話を聞くとき

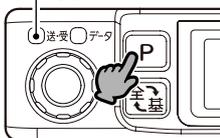
※他局が秘話機能を使用している場合は、秘話処理された電子音が聞こえるだけです。

※モニター機能を使用しない場合は、詳細設定モードで、【P】(プログラム)キーの動作を変更できます。

【操作のしかた】

【P】(プログラム)キーを押しているあいだ、動作します。

【P】キーを押しているあいだ緑色で点灯
押しつづける



■ 拡声器機能

【P】(プログラム)キーに拡声器機能が設定されていると、本製品を拡声器として使用できます。

※拡声器機能をお使いになるには、必ず外部スピーカー(別売品:SP-30、SP-35)を無線機に接続してください。

また、付属のスピーカーマイクをお使いください。

※拡声器機能がONの状態では、自局宛での呼び出しを受信したときは、拡声器機能が解除され、通常の通話ができます。

※呼び出しを受信したとき、相手の音声が無線機に接続されたマイクロホンから聞けるように、設定モードの【スピーカー出力】項目を「ON」、または「FMIC」に設定することをおすすめします。(☞P7-7)

【操作のしかた】

詳細設定モードで「P短」(【P】(プログラム)キーを短く押したときの設定)を「拡声」に設定したものと説明します。(「P長」での設定もできます。)

① 【P】(プログラム)キーを短く押します。

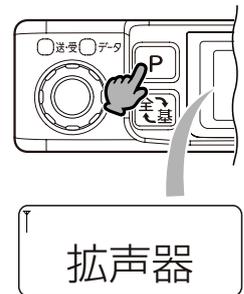
- 「拡声器」を表示します。

② 【PTT】(送信)スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって話します。

- 【送・受】ランプは点灯しません。

- 外部スピーカーから、音声が出力されます。

※音声は、送信されません。



押しつづける

【マイク分岐BOX使用時】

マイク分岐BOX(別売品:OPC-2330 ☞P8-3)に接続しているマイクロホン(HM-204)からも拡声器の音声聞こえます。

※マイク分岐BOXに接続したマイクロホンは、拡声器のマイクとして使用できません。

③ 無線で呼び出したい場合は、【P】(プログラム)キーを短く押します。

- 拡声器が解除されます。

※拡声器の使用中は、呼び出しができません。

6 そのほかの機能について

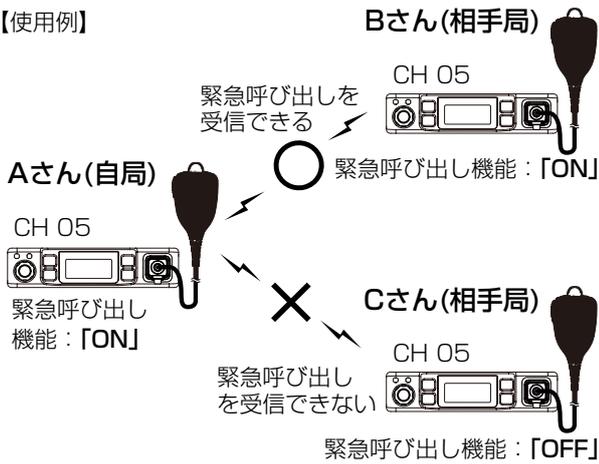
■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)

個別呼び出し機能による通話で、迅速な連絡が必要な場合、自分と同じ通話チャンネルで緊急呼び出し機能が設定された相手に、緊急表示と警告音で通知できます。

※工場出荷時やユーザーリセット時の状態では、使用できません。

緊急呼び出し機能の設定は販売店にご依頼ください。

【使用例】



⚠警告

緊急呼び出し機能(エマージェンシー)は、大きな音量の警告音が連続で鳴ります。
ツマミを回して、音量が適切な位置になっていることを確認してください。

【緊急呼び出し機能を正しく使用するには】

個別呼び出し機能(☎P5-1)と緊急呼び出し機能の両方を送信側と受信側の無線機に設定してください。
設定されていないときは、緊急呼び出しの受信、または応答ができません。

下記のような場合、正しく設定されていても緊急呼び出しが通知されなかったり、通知されても警告音が鳴らなかったりすることがあります。

- ◎音量が最小に設定されている場合
- ◎電波状況の悪化により電波が届かない場合
- ◎「呼出CH(CH15)」を選択している場合
- ◎「上空用チャンネル(S1~S5)」を選択している場合
- ◎混信防止機能(☎P2-4)により送信制限された場合
- ◎メモリーチャンネルスキャン機能が動作中の場合

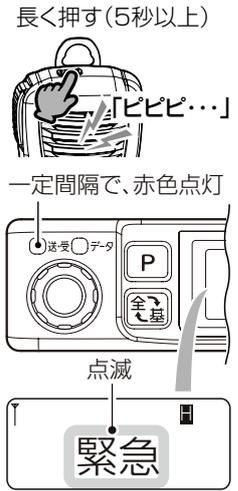
【マイク分岐BOXを使用しているときは】

マイク分岐BOX(別売品:OPC-2330)に接続しているマイクロホン(HM-204)からも緊急呼び出しができます。
動作について詳しくは、本書8-3ページをご覧ください。

【緊急呼び出しのしかた】

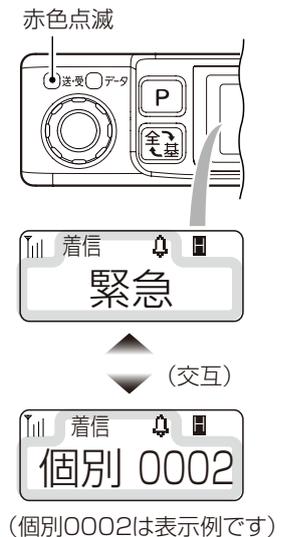
下記の操作をすると、個別呼び出し機能が設定された自分と同じ通話チャンネルの相手へ一斉に緊急呼び出しします。

- ①緊急呼び出しをする相手と同じ通話チャンネル番号を選択します。
- ②「緊急」が表示されるまで、マイクロホンの**【緊急呼び出し】**キーを長く(5秒以上)押しします。
 - 「緊急」表示の点滅と同時に、警告音が「ピピピ…」と鳴って、一定の間隔ごとに**【送・受】**ランプが赤色に点灯します。
- ③その状態で、相手局から応答があるのを待ちます。
 - 応答があると、「緊急」表示が消え、警告音が停止して、**【送・受】**ランプが緑色に点灯します。
- ④通話をつづけます。
 - 終話すると、緊急呼び出しをする前の状態に戻ります。



【緊急呼び出しを受けたときは】

- ①警告音が「ピピピ…」と鳴って、**【送・受】**ランプが赤色に点滅します。
また、「緊急」と「相手局番号」を交互に表示します。
- ②**【PTT】**(送信)スイッチを押して、応答します。
 - 応答すると、「相手局番号」表示が変わり、警告音が停止します。
- ③通話をつづけます。
 - 終話すると、緊急呼び出しを受信する前の状態に戻ります。



※緊急呼び出しを受けても応答しない場合は、電源を切ると緊急呼び出しが停止します。

6 そのほかの機能について

■ プライベートチャンネル機能

特定の通話チャンネルをプライベートチャンネル(例:呼出CH)に設定することで、よく利用する通話チャンネル(例:CH 05)との切り替えが簡単になります。

※工場出荷時やユーザーリセット時の状態では、使用できません。

操作をする前に、詳細設定モードで、**[P]**(プログラム)キーの動作(☞P7-6)を「P短 P-CH」、または「P長 P-CH」に設定してください。

※工場出荷時やユーザーリセット時、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)がプライベートチャンネルに設定されています。

詳細設定モードから設定を変更できます。(☞P7-1)

※プライベートチャンネル番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、**[P]**(プログラム)キーの操作は無効です。

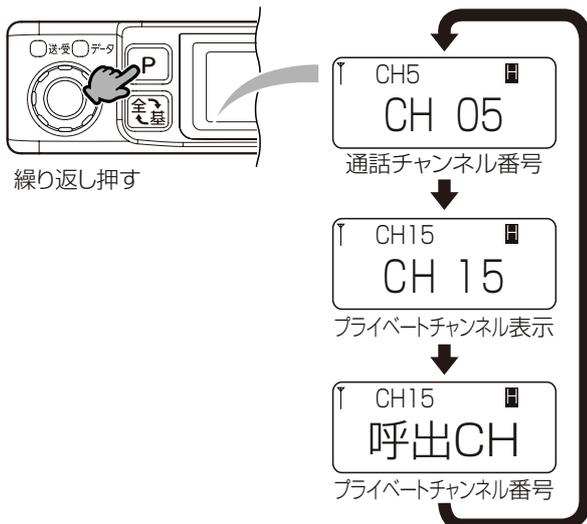
【操作のしかた】

◎「P長 P-CH」に設定した場合

[P](プログラム)キーを長く(約1秒)押すごとに、通話チャンネル(例:CH 05)とプライベートチャンネル(例:呼出CH)が切り替わります。

◎「P短 P-CH」に設定した場合

[P](プログラム)キーを短く押すごとに、通話チャンネル(例:CH 05)とプライベートチャンネル(例:呼出CH)が切り替わります。



■ プライベートチャンネルスキャン機能

よく利用する通話チャンネル(例:CH 05)を受信しながら、プライベートチャンネル番号(例:呼出CH)を一定の時間ごとに受信(監視)できます。

※工場出荷時やユーザーリセット時の状態では、使用できません。

操作の前に、詳細設定モードで、**[P]**(プログラム)キーの動作を「P短 PRI」、または「P長 PRI」に設定してください。(☞P7-6)

【操作のしかた】

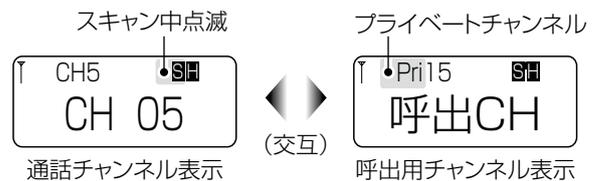
◎「P長 PRI」に設定した場合

[P](プログラム)キーを長く(約1秒)押します。

◎「P短 PRI」に設定した場合

[P](プログラム)キーを短く押します。

「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)をプライベートチャンネルに設定したときは、下記のように切り替わります。



【プライベートチャンネルスキャンを解除するには】

[全☞基]キー、または**[機能/☞O]**キーを押します。

※スキャン開始と同じ操作でもスキャンを解除できます。

※電源を入れなおしても、解除されません。

【プライベートチャンネルスキャンの動作について】

◎プライベートチャンネルスキャン中は**[S]**が表示され点滅します。

◎プライベートチャンネル番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、スキャンしません。

◎スキャン中は、通話チャンネルで待ち受け中、2秒ごとにプライベートチャンネルをスキャンします。スキャン中に緊急呼び出しをすると、スキャン動作を解除して、通話チャンネルで緊急信号を送信します。

◎電波を受信中は、詳細設定モードのスキャン停止時間とスキャン再開時間の設定にしたがってスキャンします。(☞P7-6、P7-7)

このとき、緊急呼び出しをすると、スキャン動作が解除されます。

◎プライベートチャンネル(☞P7-6)に上空用チャンネル(S1~S5)が設定されている場合は、上空用チャンネルをプライベートチャンネルスキャンの対象にできます。※上空用チャンネルの設定は販売店にご依頼ください。

◎スキャン中に呼び出す場合は、通話チャンネルで送信します。

6 そのほかの機能について

■ メモリーチャンネルスキャン機能

よく利用する通話チャンネルと、詳細設定モードで設定したチャンネルを順次切り替える機能です。

※工場出荷時やユーザーリセット時の状態では、使用できません。

操作の前に、詳細設定モードで、[P] (プログラム) キーの動作(☞P7-6)を「P短 MC」、または「P長 MC」に設定してください。

※メモリーチャンネルスキャンをお使いになる前に、「スキャンするチャンネルの設定」(☞P7-6)でスキャンの対象にする通話チャンネルを設定してください。

【操作のしかた】

◎「P長 MC」に設定した場合

[P] (プログラム) キーを長く(約1秒)押しします。

◎「P短 MC」に設定した場合

[P] (プログラム) キーを短く押しします。

【メモリーチャンネルスキャンのイメージ】



【メモリーチャンネルスキャンを解除するには】

[全☞基] キー、または [機能/☞O] キーを押します。

※スキャン開始と同じ操作でもスキャンを解除できます。

※電源を入れなおしても、解除されません。

【メモリーチャンネルスキャンの動作について】

◎設定したチャンネルが1件だけで、その番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、スキャンしません。

◎スキャン中に緊急呼び出しをすると、スキャン動作を解除して、通話チャンネルで緊急信号を送信します。

◎電波を受信中は、詳細設定モードのスキャン停止時間とスキャン再開時間の設定にしたがってスキャンします。

(☞P7-6、P7-7)

このとき、緊急呼び出しをすると、スキャン動作が解除されます。

◎上空用チャンネル(S1～S5)が設定されている場合は、上空用チャンネルをメモリーチャンネルスキャンの対象に設定できます。

※上空用チャンネルの設定は販売店にご依頼ください。

◎スキャン中に呼び出す場合は、通話チャンネルで送信します。

■ ポケットビープ機能

下記の呼び出しを受けたとき、有効になる機能です。

このときに鳴るビープ音は、いずれかのキーやスイッチの操作で、停止できます。

※工場出荷時やユーザーリセット時の状態では、使用できません。

詳細設定モードから設定を変更できます。(☞P7-1)

【ユーザーコードによる呼び出しを受けたとき】

☞の点滅とビープ音でお知らせします。

【個別呼び出しによる呼び出しを受けたとき】

個別番号と☞の点滅とビープ音でお知らせします。

※ユーザーコードと併用したときも同じです。

※ポケットビープ機能が設定されていない状態で呼び出しを受けたときは、ビープ音は鳴らず、個別番号と☞の点滅だけになります。

■ 呼び出しメロディー機能

個別番号、グループ番号で呼び出しを受けたときにPベル機能、ポケットビープ機能、呼出着信音機能の呼び出し音をメロディー音(9種類)に設定できます。

このときに鳴るビープ音は、いずれかのキーの操作で、停止できます。

※Pベル機能、ポケットビープ機能のメロディーを変更する場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

呼出着信音機能のメロディーを変更する場合は、詳細設定モードで変更できます。(☞P7-5)

※呼び出しを受けたときの表示は、ポケットビープ機能と同じです。

【呼出着信音を使用すると】

個別番号(0001～0010の10局)、グループ番号(01～10の10局)で、異なる呼び出し音が設定できます。

(☞P7-5)

■ 着信表示

「着信表示」が設定されていると、個別呼び出しを受けたときだけ、[送・受]ランプが橙色に点滅します。

[全☞基] キーを押すと、点滅が停止します。

※設定はお買い上げの販売店にご依頼ください。

6 そのほかの機能について

■ 発着信履歴機能

個別呼び出し、およびグループ呼び出しを送受信したとき、個別番号(相手の自局番号)やグループ番号が記憶されます。

記憶された個別番号は、呼び出しに利用できます。

※工場出荷時やユーザーリセット時の状態では、使用できません。

発着信履歴機能をご使用になるには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【発着信履歴の確認と呼び出しについて】

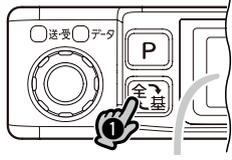
①【全⇄基】キーを繰り返し短く押し、「発歴1」、または「着歴1」表示を選択します。

②発信、または着信履歴が2件以上の場合は、「発歴1」、または「着歴1」表示の状態で、ツマミを回すと、確認できます。

※「1」から順に最新の履歴となるように記憶します。

【着信履歴の場合】

①繰り返し短く押す

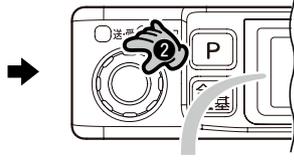


1件目着信履歴



個別番号履歴

②回す



2件目着信履歴



グループ番号履歴

③呼び出す相手、またはグループの番号を表示した状態で、【PTT】(送信)スイッチを押しながら、相手に呼びかけます。

- 【送・受】ランプが赤色に点灯します。

【発着信履歴の内容や件数に異常があるときは】

詳細設定モードの発着信履歴消去(☞P7-5)から履歴を消去してください。

それでも改善しない場合は、全設定を初期化(☞P9-1)してください。

【発着信履歴件数と履歴の消去について】

※最大10件の発着信履歴を記憶できます。

10件を超えると、古い履歴から削除されます。

※全体呼び出しの場合は、着信履歴を記憶しません。

※発着信履歴の消去(☞P7-5)は、詳細設定モードからできます。

■ 送信出力の切り替え機能

無線機の送信出力を切り替えできる機能です。

※送信出力の切り替え機能をご使用になるには、設定が必要です。

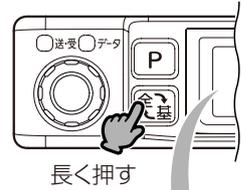
設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【操作のしかた】

「ピピッ」と鳴るまで、【全⇄基】キーを長く(約1秒)押します。

※長く(約1秒)押しすごとに、ハイパワー(5W:【H】)とローパワー(1W:【L】)が切り替わります。

※【R】(☞P1-2)が表示されている通話チャンネルを選択したときは、送信出力を切り替えできません。



送信出力表示

7 各種機能の設定

「設定モード」、または「詳細設定モード」から、本製品の各機能を変更する方法について説明します。

■ 設定一覧

設定モード、詳細設定モードによって、設定できる項目が異なります。

以下の一覧表を参考に、必要な項目を設定してください。

□欄は、設定モードでも変更できる設定項目です。

| 機能名称 | 名称表示 | 初期値 | 参照 |
|------------------------------|---------|--------------|-----|
| Pベル ^{*2} | Pベル | OFF | 7-2 |
| ポケットビープ | Pビープ | OFF | 7-3 |
| 秘話 | 秘話 | OFF | 7-3 |
| 秘話キー ^{*8} | キー | 00001 | 7-3 |
| 送信出力 | 出力 | 5W | 7-3 |
| マイクゲイン | マイクG | 0 | 7-3 |
| ユーザーコード | UC | CH共 | 7-3 |
| CH毎ユーザーコード ^{*1} | O1 | OFF | 7-3 |
| 個別呼び出し | 個別 | OFF | 7-4 |
| 自局番号の設定 ^{*2} | 自局 | 0001 | 7-4 |
| 基地局番号の設定 ^{*2} | 基地 | 0099 | 7-4 |
| グループ設定 ^{*2} | グリスト | グループ 0001 | 7-4 |
| 終話後表示 ^{*2} | 終表 | 全体 | 7-4 |
| 優先個別番号 ^{*2*4} | 個別 | 0099 | 7-5 |
| 発着信履歴消去 ^{*2} | 履歴 | --- | 7-5 |
| 呼出着信音 ^{*2*7} | 個別/グループ | 0001 | 7-5 |
| プライベートチャンネル | PvCH | OFF | 7-5 |
| プライベートチャンネルの設定 ^{*3} | PvCH | 呼出 | 7-6 |
| [P](プログラム)キー短押し | P短 | ホーム | 7-6 |
| [P](プログラム)キー長押し | P長 | モニタ | 7-6 |
| スキャンするチャンネル ^{*5} | CH | O1 | 7-6 |
| スキャン停止時間 ^{*6} | 停止 | 10S | 7-6 |
| スキャン再開時間 ^{*6} | 再開 | 5S | 7-7 |
| 通話後スキャン動作 ^{*6} | 話後 | 解除 | 7-7 |
| キーロック時の音量操作 | ロック | 全キー | 7-7 |
| スピーカー出力 | EXSP | AUTO | 7-7 |
| チャンネル番号音声案内 | 案内 | ON | 7-7 |
| 受信電波強度通知機能 | 受通 | OFF | 7-7 |
| 妨害波アラーム | 妨アラ | OFF | 7-8 |
| LCDコントラスト | LCD | 12 | 7-8 |
| LCDバックライト | ライト | ON | 7-8 |
| LCDバックライト輝度 | 輝度 | 4 | 7-8 |
| ユーザーリセット | リセット | NO | 7-8 |

*1ユーザーコードの設定が「CH毎」の場合だけ表示されます。

*2個別呼び出しの設定が「ON」の場合だけ表示されます。

*3プライベートチャンネル機能の設定が「ON」の場合だけ表示されます。

*4終話後表示の設定が「終表優先」の場合だけ表示されます。

*5[P](プログラム)キー短押し、または[P](プログラム)キー長押しの設定が「MC」のとき、設定できます。

*6[P](プログラム)キー短押し、または[P](プログラム)キー長押しの設定が「PRI」または「MC」のとき、設定できます。

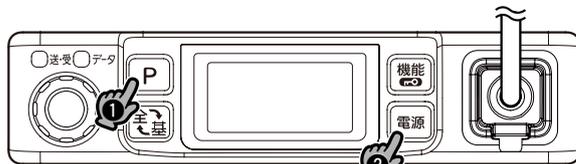
*7ポケットビープの設定が「OFF」のとき、設定できます。

*8秘話が「ID1」～「ID20」のとき、表示されます。

■ 設定モードに移行するには

【操作のしかた】

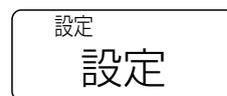
- ①本製品の電源を切ります。
- ②[P](プログラム)キーを押しながら、[電源]キーを押しつづけます。



①を押しながら、②を長く押す

- ③「設定」と表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。

●「出力」が表示されると、設定モードに移行しています。



- ※設定モードに移行しているときは、呼び出しを受信できません。

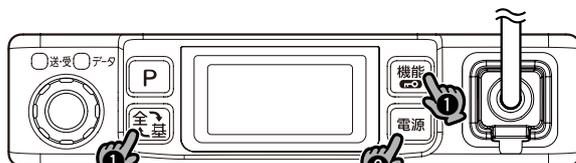


- ④「設定のしかた」(次ページ)の操作をすると、設定値を変更できます。

■ 詳細設定モードに移行するには

【操作のしかた】

- ①本製品の電源を切ります。
- ②[全⇄基]キーと[機能/⇄O]キーを同時に押しながら、[電源]キーを押しつづけます。
- ③「詳細設定」と表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。



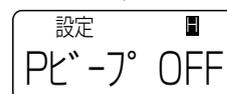
①を同時に押しながら、②を長く押す

- 「Pビープ」が表示されると、詳細設定モードに移行しています。

- ※詳細設定モードに移行しているときは、呼び出しを受信できません。



- ④「設定のしかた」(次ページ)の操作をすると、設定値を変更できます。



7 各種機能の設定

■ 設定のしかた

設定モード、または詳細設定モードに移行後、下記の手順で各機能の設定を変更できます。

【操作のしかた】

① **[P]** (プログラム) キー、または **[全⇄基]** キーを繰り返し短く押し、設定項目を選択します。

② **ツマミ** を回して、設定を変更します。

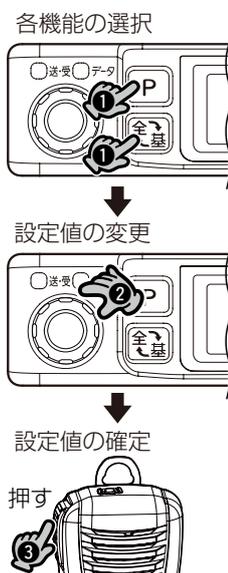
※ほかの機能も変更するときは、①と②の操作を繰り返します。

③ **[PTT]** (送信) スイッチを押します。

● 選択した設定値を確認し、設定モード、または詳細設定モードが解除されます。

※設定値を変更後に、電源を切った場合でも、設定値が確定されます。(ユーザーリセットを除く)

※設定モード、または詳細設定モードを解除するまで通話できません。



■ 設定項目について

Pベル (初期設定値: OFF)



Pベル機能を設定します。

Pベル機能を使用すると、呼び出し(全体/個別/グループ)を受けたとき、応答するまで相手の音声をミュート(聞こえないように)します。

※この項目は個別呼び出しの設定が「ON」の場合だけ表示されます。

- OFF : Pベル機能を使用しない
- BON : 個別、グループ、または全体呼び出しを受信したとき、音声をミュートしてブザーが鳴る
- MON : 個別、グループ、または全体呼び出しを受信したとき、音声をミュートしてメロディーが鳴る
- BOF : 個別、グループ、または全体呼び出しを受信したとき、音声をミュートするがブザーは鳴らない

【BON、MON、BOFに設定した場合】

◎無線機の表示部には、が表示されます。

◎ポケットビープ機能と併用する場合、基地局/個別呼び出しを受けたとき、Pベル機能のブザー(ピー音、3回)、またはメロディー音(1回)が鳴ったあとに、ポケットビープ機能で設定された呼び出し音、またはメロディー音(3回)が鳴ります。

また、「BOF」に設定すると、基地局/個別呼び出しを受けても、ポケットビープ機能で設定された呼び出し音やメロディー音は鳴りません。

7 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

設定方法については、本書P7-1～P7-2をご覧ください。

ポケットビープ (初期設定値:OFF)



ユーザーコードによる呼び出し、または個別呼び出し機能による個別呼び出しを受けたとき、呼び出し音のパターンを設定します。

- OFF : ポケットビープを使用しない
 - 30回 : 「トルルル」と音が30回連続で鳴る
 - 3回 : 「トルルル」と音が3回連続で鳴る
 - 1分 : 「トルルル」と音が3回連続で鳴ったあと、1分ごとに1回鳴る
 - 連続 : 「トルルル」と音が3回連続で鳴ったあと、2秒ごとに1回鳴る
 - PIー : 「ピー」と音が1回鳴る
 - PPP : 「ピピピ」と音が1回鳴る
 - MELO : あらかじめ設定されたメロディー音が鳴る
- ※グループ、または全体呼び出しを受けたときは、ポケットビープが「OFF」以外に設定されていても鳴りません。

秘話 (初期設定値:OFF)



通話を他者に聞かれないようにする秘話機能を設定します。

【秘話IDの設定】

- OFF : 秘話機能を使用しない
- ID1～ID20 : 秘話機能を使用し、秘話キーが設定された[秘話ID1～ID20]のメモリーを選択する

【秘話キーの設定】

[P](プログラム)キーを長く押しすごとに、「秘話ID」と「秘話キー」の表示が切り替わります。

- 選択範囲: 00001～32767



※呼出用チャンネル(15チャンネル)では、秘話通信が禁止されています。

呼出用チャンネルを選択した場合、秘話機能が一時的に「OFF」になります。

【ご注意】

送信側と受信側に異なるIDを設定していても、それぞれの[ID1～ID20]にメモリーされている秘話キーが同じ場合は音声が届きます。

送信出力 (初期設定値:5W)



送信出力を設定します。

- 5W : 送信出力を5Wに設定する
 - 1W : 送信出力を1Wに設定する
 - CH : チャンネルごとに送信出力を設定する
- ※チャンネルごとに送信出力を設定するには、お買い上げの販売店にご依頼ください。

マイクゲイン (初期設定値:0)



マイクロホンの感度を設定します。

- 選択範囲: -15(低)～0(中)～9(高) 3dB単位
- ※周囲の騒音が大きい場所では、低い値に設定し、大きめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。
- また、周囲の雑音が少ない場所では、高い値に設定し、小さめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。

ユーザーコード (初期設定値:CH共)



通話チャンネル共通のユーザーコードを使用するか、通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用するかを設定します。

- UC共 : 通話チャンネル共通のユーザーコードを使用する
- UC毎 : 通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用する

CH毎ユーザーコード (初期設定値:OFF)



※この項目はユーザーコードの設定が「CH毎」の場合だけ表示されます。

チャンネルごとのユーザーコードを設定します。

- CHの選択範囲: 01～30
- ※15チャンネルはユーザーコードを設定できません。
- UCの選択範囲: OFF、001～511

7 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

設定方法については、本書P7-1～P7-2をご覧ください。

個別呼び出し (初期設定値:OFF)

設定
個別 OFF

同じ通話チャンネルを使用する相手のうち、通話したい相手だけを呼び出す機能を設定します。

- OFF : 使用しない
- ON : 使用する

自局番号の設定 (初期設定値:0001)

自局
自局 0001

この項目で設定する自局番号で個別呼び出しを受けると着信します。

- 選択範囲:0001～0245
- ※ 9999まで設定したい場合は、販売店にご依頼ください。
- ※ [個別](個別呼び出し)を「ON」に設定したとき表示されます。

基地局番号の設定 (初期設定値:0099)

基地
基地 0099

個別呼び出しに使用する基地局の個別番号を個別番号設定の内容から設定します。

- 選択範囲:0001～0245
- ※ 9999まで設定したい場合は、販売店にご依頼ください。
- ※ [個別](個別呼び出し)を「ON」に設定したとき表示されます。

グループ設定 (初期設定値:0001)

グリスト
グループ 0001

個別呼び出しに使用するグループの参加/不参加を設定します。

- 選択範囲:0001～0010
- ※ 9999まで設定したい場合は、販売店にご依頼ください。
- ※ [個別](個別呼び出し)を「ON」に設定したとき表示されます。

グループを選択して【機能/ON】キーを長く押しすごとに「グループID」、「メンバーとなるグループID」の切り替えができます。

- グリスト:グループID
このグループ番号の呼び出しは受けません。
(このグループ番号を選択して、呼び出すことはできます。)
- グリスト☒:メンバーとなるグループID
このグループ番号を呼び出すことも、呼び出しを受けることもできます。
- ※ 「メンバーとなるグループID」選択時、表示部に「☒」が点灯します。

終話後表示 (初期設定値:全体)

設定
終表 全体

通話が終わった(待ち受け状態)とき、表示部の表示をどの状態にするかを設定します。

- 話前 : 通話前に表示していた内容を、再度表示する
- 話中 : 通話中に表示していた内容を、そのまま継続して表示する
- 全体 : 全体呼び出し表示[全体]を表示する
- 基地 : [基地局番号]で表示された個別番号を表示する
- 個別 : [個別番号]を表示する
- GRP : [グループ番号]を表示する
- 着歴 : 着信履歴を表示する
- 発歴 : 発信履歴を表示する
- 優先 : [優先個別番号]で表示された個別番号を表示する
- ホーム : 通話チャンネルを表示する

※ [個別](個別呼び出し)を「ON」に設定したとき表示されます。

7 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

設定方法については、本書P7-1～P7-2をご覧ください。

優先個別番号 (初期設定値: 個別0099)



同じ通話チャンネルを使用する相手のうち、通話したい相手だけを呼び出す機能を設定します。

通話が終わった(待ち受け状態)とき、表示部に表示する個別番号を設定します。

- 選択範囲 : 個別0001～0245
 : グループ0001～0010

※ 9999まで設定したい場合は、販売店にご依頼ください。
※ [個別] (個別呼び出し) を「ON」に設定し、終話後表示を「優先」に設定したときに表示されます。(P7-4)

発着信履歴消去 (初期設定値: ---)



自局番号の設定/基地局番号の設定/グループ設定を変更したとき、この機能で発着信履歴を削除してください。

- --- : 何もしない
- CLR : 履歴を削除する

※ [個別] (個別呼び出し) を「ON」に設定したとき表示されます。(P7-4)

※ [CLR] を選択後、[PTT] (送信) スイッチを押さない状態で、ほかの設定項目に移動したときは、発着信履歴を消去して「---」に切り替わります。

呼出着信音 (初期設定値: OFF)

個別番号、グループ番号ごとに、異なる呼び出し音のパターンを設定します。

- OFF : 使用しない
- 30回 : 「トルルル」と音が30回連続で鳴る
- 3回 : 「トルルル」と音が3回連続で鳴る
- 1分 : 「トルルル」と音が3回連続で鳴ったあと、1分ごとに1回鳴る
- 連続 : 「トルルル」と音が3回連続で鳴ったあと、2秒ごとに1回鳴る

- PI- : 「ピー」と音が1回鳴る
- PPP : 「ピピピ」と音が1回鳴る

● X0デ1～9 : 設定した番号のメロディー音が鳴る
※ [Pビープ] (ポケットビープ) を「OFF」に設定したとき表示されます。

※ 全体呼び出しを受けたときは、呼び出し音が「OFF」以外に設定されていても鳴りません。

【設定のしかた】

① ツマミを回して、個別番号、またはグループ番号を選択します。

- 選択範囲: 個別0001～個別0010、グループ0001～グループ0010

② [機能/ON] キーを短く押します。

- 「OFF」(初期設定値) が表示されます。

③ ツマミを回して、呼出着信音を選択します。

④ [機能/ON] キーを短く押します。

- ※ ほかの番号も設定するとき、①～④を繰り返します。

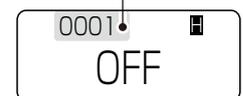


相手局番号(選択例)

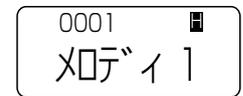


グループ番号(選択例)

↓
選択した番号の表示



↓



着信音(設定例)

プライベートチャンネル (初期設定値: OFF)



プライベートチャンネル機能を設定します。

- ON : 使用する
- OFF : 使用しない

※ 「ON」に設定すると、[P] (プログラム) キーによるプライベートチャンネルへの切り替え操作が有効になります。

7 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

設定方法については、本書P7-1～P7-2をご覧ください。

プライベートチャンネルの設定 (初期設定値:呼出)



通話チャンネルからプライベートチャンネルにする番号を設定します。

- 選択範囲:01～14,呼出、16～30、S1～S5*
- ※ [PvCH](プライベートチャンネル)を「ON」に設定したとき表示されます。(☞P7-5)
- ★ 上空用チャンネル(S1～S5)の設定は、販売店にご依頼ください。

[P](プログラム)キー短押し (初期設定値:ホーム)



[P](プログラム)キーを短く押したときの動作を設定します。

[P](プログラム)キー長押し (初期設定値:モニタ)



[P](プログラム)キーを長く押したときの動作を設定します。

- 無効 :動作しない
- PRI :プライベートチャンネルスキャンの開始
- MC :メモリーチャンネルスキャンの開始
- 案内 :通話チャンネル番号の読み上げ
- CH :通話チャンネル番号表示と周波数表示を切り替える
- P-CH :通話チャンネル番号表示とプライベートチャンネル番号表示を切り替える
- 拡声 :拡声器の動作開始/停止を切り替える
- ホーム :通話チャンネル表示に戻す
- モニタ :押しているあいだけモニター機能(☞P6-1)が動作する([P](プログラム)キー長押しに対して設定できます。)

※ [PRI]選択時、プライベートチャンネル番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、スキャンしません。

※ [MC]選択時、設定したチャンネルが1件だけの場合、そのチャンネル番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、スキャンしません。

スキャンするチャンネル (初期設定値:01)

メモリーチャンネルスキャンの対象にする通話チャンネルを設定します。

※ [P](プログラム)キー短押し、または[P](プログラム)キー長押しを、「MC」に設定したとき表示されます。

【設定のしかた】

① **ツマミ**を回して、スキャンの対象にする通話チャンネル番号を選択します。

- 選択範囲:01～14,呼出、16～30、S1～S5*



通話チャンネル番号選択

② **[機能/⇄O]**キーを長く押すごとに、指定と解除が切り替わります。

- 指定すると、**[S]**が点灯します。



スキャンチャンネル指定

★ 上空用チャンネル(S1～S5)の設定は、販売店にご依頼ください。

スキャン停止時間 (初期設定値:10S)



電波を受信中、プライベートチャンネルスキャン、またはメモリーチャンネルスキャンを停止する時間を設定します。

- 選択範囲:2S～20S(2秒単位)、保持
- ※ [P](プログラム)キー短押し、または[P](プログラム)キー長押しを、「PRI」、または「MC」に設定したとき表示されます。

※「保持」を選択したときは、受信信号がなくなるまで、スキャンを停止します。

※受信信号がなくなると、[スキャン再開時間]の設定にしたがって、スキャンを再開します。

7 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

設定方法については、本書P7-1～P7-2をご覧ください。

スキャン再開時間 (初期設定値:5S)



スキャン停止時間が経過する前に電波が途切れたとき、スキャンが再開するまでの時間を設定します。

- 即時 : すぐにスキャンを再開
- 1S～5S : 設定時間(秒)後にスキャンを再開
- シナイ : スキャン停止時間が経過する前に電波が途切れたとき、スキャンを再開しない

※【P】(プログラム)キー短押し、または【P】(プログラム)キー長押しを、「PRI」、または「MC」に設定したとき表示されます。

通話後スキャン動作 (初期設定値:解除)



スキャン中、【PTT】(送信)スイッチを操作したときのスキャン動作を設定します。

- 再開 : 数秒後、スキャンを再開
 - 解除 : スキャンを解除
- ※【P】(プログラム)キー短押し、または【P】(プログラム)キー長押しを、「PRI」、または「MC」に設定したとき表示されます。

キーロック時の音量操作 (初期設定値:全キー)



ロック機能動作中の音量操作についての設定です。

- 全キー : 音量操作を無効にする
- VOL : 音量操作を有効にする

〈ロック中にできる操作〉

- ◎ ロック機能の解除
- ◎ 送信/受信の切り替え
- ◎ 電源の「入」/「切」

※エマージェンシーの設定が「ON」の場合は、キーロック中でも緊急呼び出しの操作ができます。

【設定変更時のご注意】

ロック機能が「ON」で電源を切り、詳細設定モードに移行して、「キーロック時の音量操作」の設定を変更したときだけ、ロック機能が「OFF」になります。

スピーカー出力 (初期設定値:AUTO)



外部スピーカーを接続したとき、スピーカーマイク(弊社製)から受信音出力するかしないかの設定です。

- AUTO : 外部スピーカーだけに音を出す
- ON : 外部スピーカーとスピーカーマイクの両方に音を出す
- FMIC : スピーカーマイクだけに音を出す

【ご注意】

市販の外部スピーカー(ステレオプラグ)を接続した場合、外部スピーカーから音が出ないことがあります。

※別売品(※8章)のスピーカーをご使用ください。

チャンネル番号音声案内 (初期設定値:ON)



通話チャンネル番号を読み上げる機能の設定です。

- OFF : 使用しない
 - ON : 電源を入れたときや、チャンネルを変更したときに、選択されたチャンネル番号を読み上げる
- ※「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)選択時は、「呼び出し」と読み上げます。

※上空用チャンネル(CH S1～CH S5)選択時は、チャンネル番号の前に、「上空」を付けて読み上げます。

受信電波強度通知機能 (初期設定値:OFF)



受信電波強度通知機能の設定です。

- OFF : 警告音で通知しない
- ON : 通話がつづけられない状態まで受信信号の強度が弱くなると、ビープ音(ピンポン)が鳴る

7 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

設定方法については、本書P7-1～P7-2をご覧ください。

妨害波アラーム (初期設定値:OFF)

設定
妨害波アラーム OFF

妨害波アラームの設定です。

- OFF :使用しない
- ON :使用する

※下記の電波を受信したとき、妨害波とみなして、警告音(ブツ)が鳴ります。

警告音は、妨害波を受信しているあいだ1秒間隔で鳴りつづけます。

- ◎自局とユーザーコードが異なる電波を受信したとき
- ◎自局と秘話機能ON/OFFの設定が異なる電波を受信したとき

LCDコントラスト (初期設定値:12)

設定
LCD 12

表示部のコントラスト(濃淡)を調整します。

- 選択範囲:0(淡)～25(濃)

※【機能/Ⓜ-○】キーを長く押し続けると、初期設定値に戻ります。

LCDバックライト (初期設定値:ON)

設定
ライト ON

送信以外の操作をすると、表示部とキーの照明を自動点灯させるかさせないかを設定します。

- OFF :点灯しない
- AUTO :送信以外の操作すると、照明が約5秒点灯する
- ON :電源を切るまで消灯しない

LCDバックライト輝度 (初期設定値:4)

設定
輝度 4

表示部と各キーの照明の明るさを設定します。

- 選択範囲:1～7

ユーザーリセット (初期設定値:NO)

設定
リセット NO

すべての設定を工場出荷時の状態に戻す(リセット)ときの設定と操作です。

- NO :[PTT](送信)スイッチを押しても、初期化しない
 - YES :[PTT](送信)スイッチを押すと、初期化する
- ※「YES」を選択後、[PTT](送信)スイッチを押さない状態で、ほかの設定項目に移動したときは、初期化しないと認識され、「NO」に切り替わります。

【ご注意】

設定値がリセットされ再起動するまでの2秒間は、無線機の電源を切らないでください。
※リセットの途中で電源が切れると、故障の原因になることがあります。

■ 別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。

弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障、または動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

■ ホームページに掲載

別売品一覧については、弊社ホームページ <http://www.icom.co.jp/> でもご覧いただけます。

■ 別売品一覧表

★: IP54の防塵/防水性能があります。

上記、防塵/防水性能は、「IP表記について」(※Pii)をご覧ください。

外部スピーカー

- SP-30 :外部スピーカー(20W/4Ω)
※ケーブル長:約2.8m
- SP-35 :外部スピーカー(5W/4Ω)
※ケーブル長:約2m

外部電源

- PS-230A :卓上電源装置(スピーカー内蔵:7W/8Ω)

マイクロホン関係

- AM-5 :アーム型マイクロホン(磁石付き基台)
- SM-28 :デスクトップマイクロホン
- HM-204★ :防水スピーカーマイク
※OPC-647を使用したときは、本製品、およびHM-204の防塵/防水性能を維持できません。
- HM-206 #02★ :コマンドマイク
※OPC-647を使用したときは、本製品、およびHM-206 #02の防塵/防水性能を維持できません。
- OPC-647 :マイクロホン延長ケーブル(約2.5m)
※AM-5、SM-28、HM-204、HM-206 #02、OPC-2330のいずれかでお使いになれます。
※最大2本まで接続してお使いになれます。
- OPC-2330 :マイク分岐BOX
※接続できるマイクロホンは、HM-204です。

■ AM-5(アーム型マイクロホン)

エレクトレット形コンデンサーマイクロホンです。

※外部スピーカー(別売品:SP-30、SP-35)と併せてご用意ください。

底面に強力な磁石を使用しています。

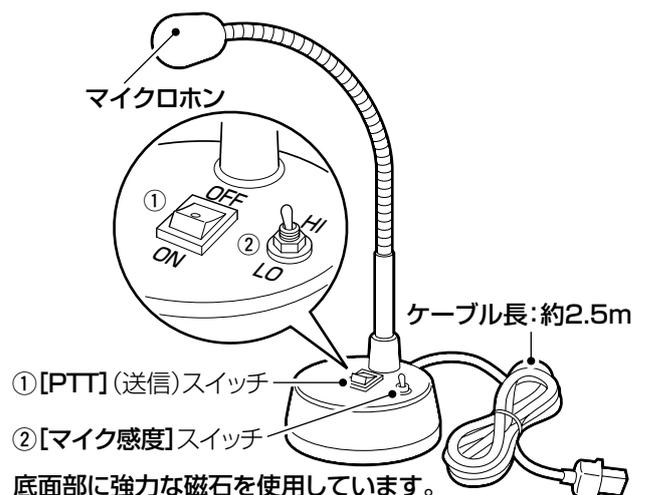
△警告

心臓ペースメーカーなど電子医療機器をお使いのかたは、心臓ペースメーカーなどの植え込み部位の上にマイクロホンの底面を近づけたり、当てたりしないでください。

電子医療機器などの動作に影響を与え、生命の危険があります。

△注意

時計、コンパスや精密機器、キャッシュカードやクレジットカードなどの磁気/ICカードを近づけないでください。製品の誤動作の原因になったり、磁気/ICカードの内容が消去されたりすることがあります。



① [PTT] (送信) スイッチ

② [マイク感度] スイッチ

底面に強力な磁石を使用しています。

① [PTT] (送信) スイッチ

「ON」にすると送信、「OFF」にすると待ち受け状態になります。

② [マイク感度] スイッチ

「HI」にすると感度が高くなり、「LO」にすると低くなります。

※マイクロホンとの距離、声の大きさ、周囲の騒音など、環境に応じて、切り替えてください。

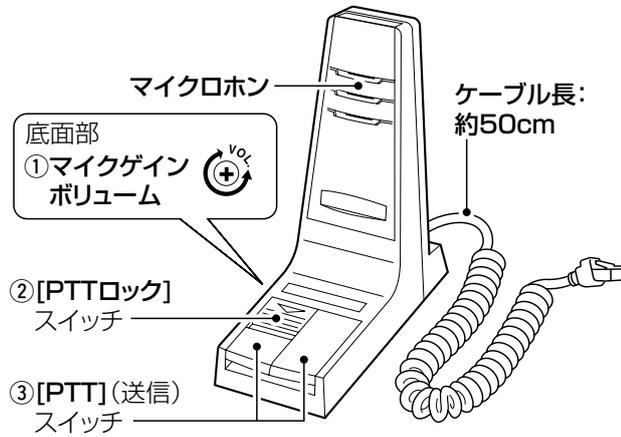
※本製品の設定モードでも調整できます。(※P7-1)

8 別売品とその使いかた

■ SM-28(デスクトップマイクロホン)

マイクアンプ内蔵の単一指向性ダイナミックマイクロホンです。

※外部スピーカー(別売品:SP-30、SP-35)と併せてご用意ください。



①マイクゲインボリューム

マイクロホンとの距離、声の大きさ、周囲の騒音など、環境に応じて、マイクロホンの感度を調整します。

※ボリュームを左に回すと、感度が高くなります。

②[PTTロック]スイッチ

押しながら三角印の方向にスライドすると、[PTT](送信)スイッチ(③)がロックされ、ハンズフリーで送信できます。

ロックを解除するときは、反対方向にスライドします。

③[PTT](送信)スイッチ

押し続けている間は送信状態、はなすと待ち受け状態に戻ります。

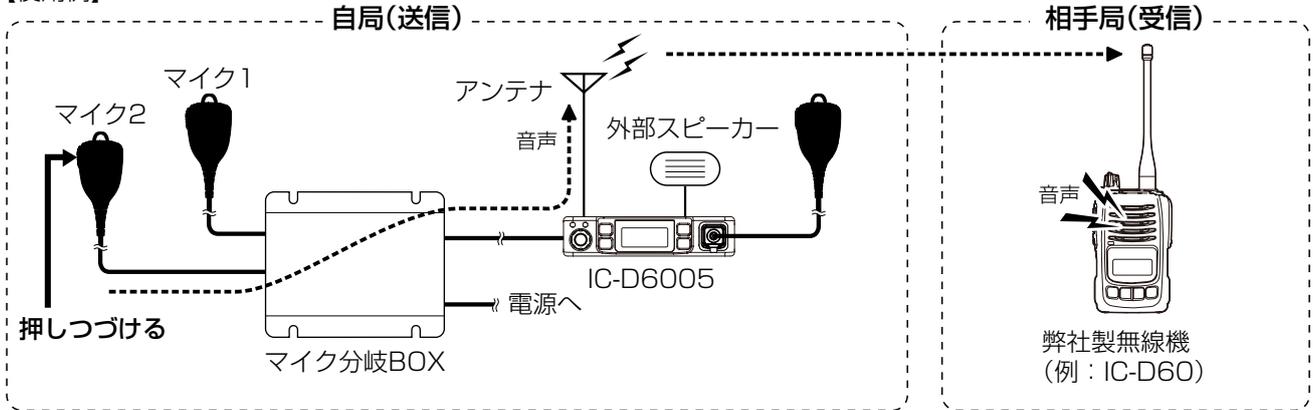
8 別売品とその使いかた

■ OPC-2330(マイク分岐BOX)つづき

【呼び出しをしたときの動作】

最初に【PTT】(送信)スイッチを押しつづけた自局のマイクロホン(例:マイク2)から音声を送信されます。
 送信中は、別のマイクロホンから送信できません。

【使用例】

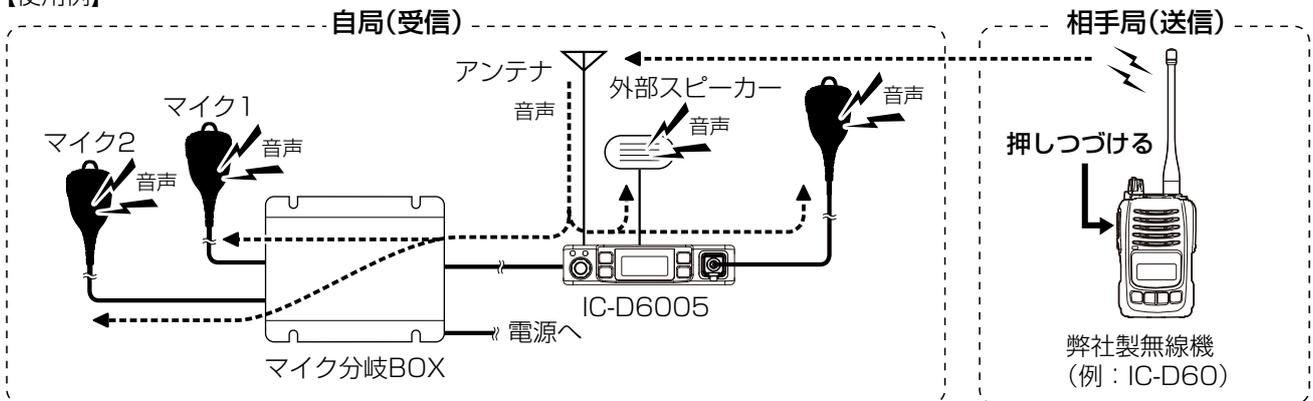


【呼び出しを受けたときの動作】

相手局から受信した音声は、設定モードの[スピーカー出力]項目(☞P7-7)を「ON」に変更すると、自局のすべてのスピーカーから出力されます。

最初に【PTT】(送信)スイッチを押しつづけた自局のマイクロホンから応答できます。

【使用例】



【拡声器機能を使用したときの動作】

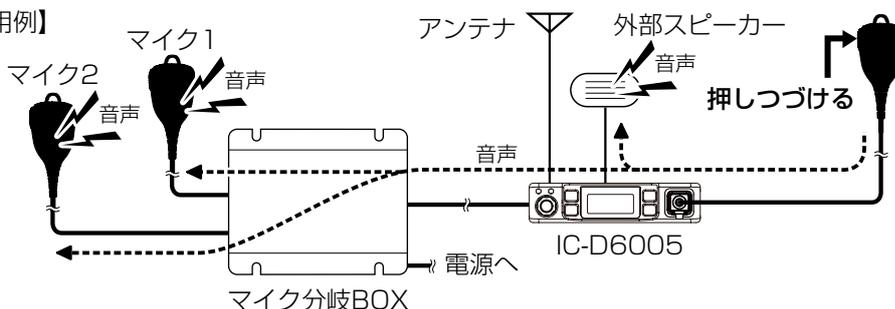
マイク分岐BOXに接続しているマイクロホン(HM-204)からも、拡声器の音声が聞こえます。

※マイク分岐BOXに接続したマイクロホンは、拡声器のマイクロホンとして使用できません。

※拡声器機能がONの状態では、【PTT】(送信)スイッチを押しつづけても、音声を送信されませんので、【送・受】ランプは点灯しません。

※【PTT】(送信)スイッチを押ししていない状態で、自局宛での呼び出しを受信すると、拡声器機能が解除され、呼び出しを受けたとき(上図)と同じ動作になります。

【使用例】



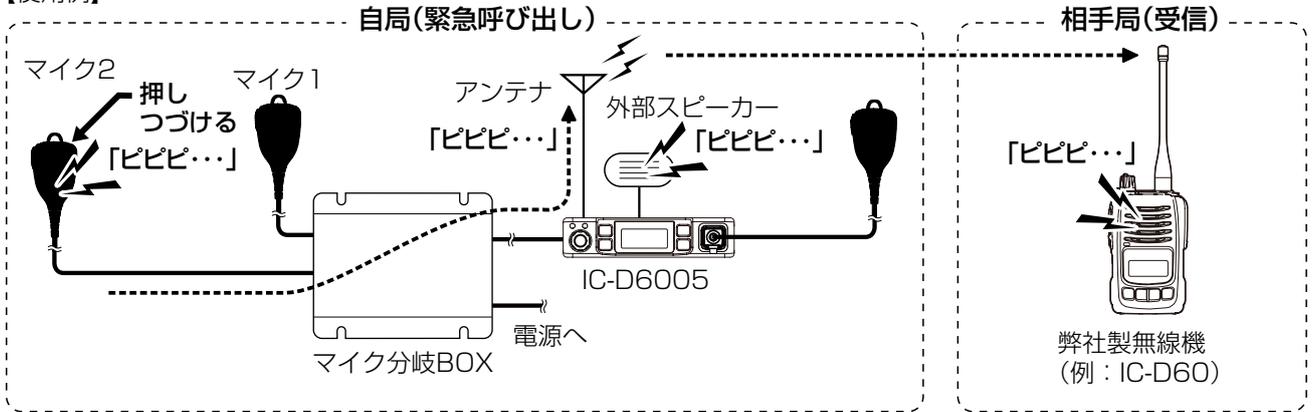
8 別売品とその使いかた

■ OPC-2330(マイク分岐BOX)つづき

【緊急呼び出しをしたときの動作】

無線機、またはマイク分岐BOXに接続されたマイクロホン(例:マイク2)の【緊急呼び出し】キーを長く(5秒以上)押しつづけると、緊急呼び出しを開始します。

【使用例】

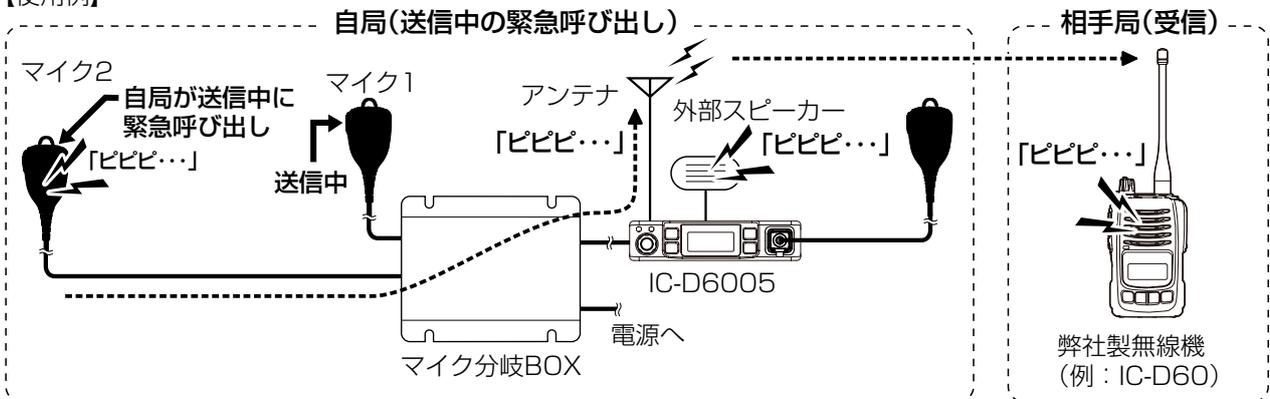


【送信中に、緊急呼び出しをしたときの動作】

自局(例:マイク1)が送信中に、別のマイクロホン(例:マイク2)の【緊急呼び出し】キーを長く(5秒以上)押しつづけると、緊急呼び出しに切り替わります。

※緊急呼び出しに切り替わっても、別のマイクロホン(例:マイク1)を使用して、送信はできますが、【緊急呼び出し】キーが押されているあいだだけ、マイクロホン(例:マイク1)の感度が低下します。

【使用例】

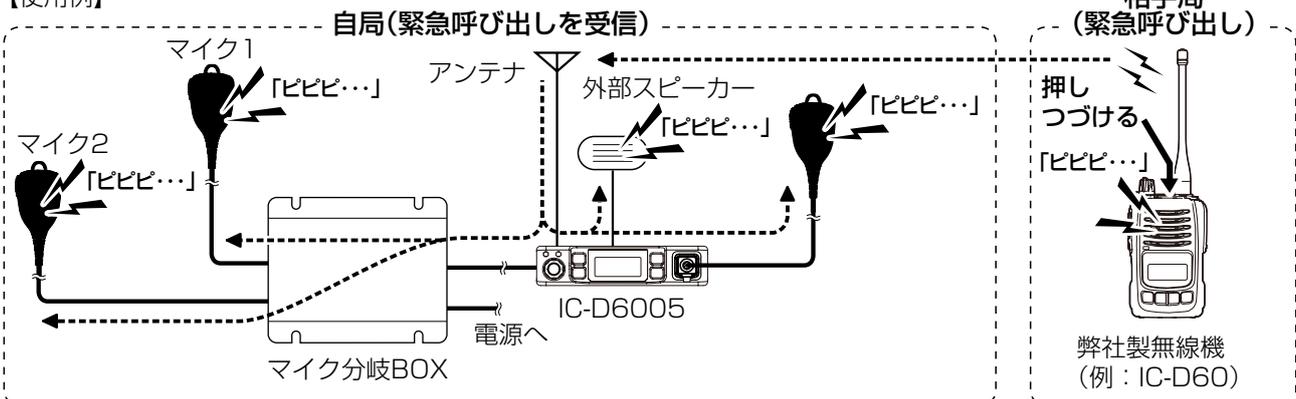


【緊急呼び出しを受けたときの動作】

緊急呼び出しを受けると、自局のすべてのスピーカーから警告音が出力されます。

最初に【PTT】(送信)スイッチを押しつづけた自局のマイクロホンから応答できます。

【使用例】



■ 日常の保守と点検について

- ◎ 清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。
- ◎ 定期的に決まった位置の相手局と通話して、通話状態に変化がないかを調べてください。
- ◎ 音量が最小に調整されていないか、ツマミを回して、表示される音量レベルを確認してください。
- ◎ 車載でご使用になるときは、アンテナが確実に固定されていることを確認してください。

■ 初期状態に戻す(リセットする)には

下記の操作で、すべての設定が工場出荷時の状態になります。

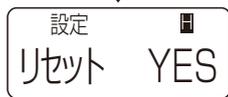
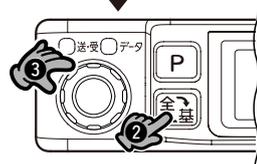
【操作のしかた】

- ① 詳細設定モードに移行します。(P7-1)
● 「Pビープ OFF」を表示します。
- ② [全根基]キーを1回押します。
● 「リセット NO」を表示します。
- ③ ツマミを回して、「リセット YES」表示を選択します。
- ④ [PTT](送信)スイッチを短く押します。
● 設定値がリセットされ、無線機が再起動します。

- ① 詳細設定モードに移行する



移行直後の表示(例:OFF)



【ご注意】

設定値がリセットされ再起動するまでの2秒間は、無線機の電源を切らないでください。

※リセットの途中で、エンジンを始動させるなどして、一時的に電源が切れると、故障の原因になることがあります。

■ ヒューズの交換について

DC電源ケーブル(付属品)には、2本のヒューズ(125V/5A)が使用されています。

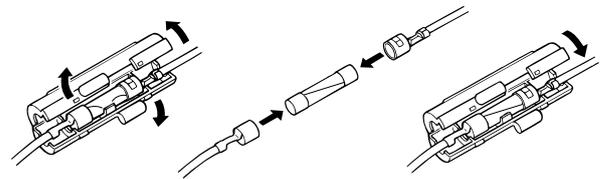
マイク分岐BOX(別売品:OPC-2330)をご使用の場合は、無線機のDC電源ケーブルとヒューズが異なりますので、間違えないようご注意ください。

◎ 無線機に使用するヒューズ : 125V/5A

◎ マイク分岐BOXに使用するヒューズ: 125V/2A

※ヒューズが切れて動作しなくなったときは、原因を取り除いてから新しいもの(付属品)と交換してください。

※下図のヒューズカバーには、「5A」、「2A」のシールが貼られています。



■ 従来製品との相互使用について

(2015年7月現在)

従来製品と相互に使用するときには、下記の弊社製無線機をお使いください。

◎ IC-D50* ◎ IC-D60

◎ IC-D5005* ◎ IC-D6005N

★本製品の緊急呼び出し機能(エマージェンシー)を使用する場合は、相互使用できません。

9 保守について

■ 故障かな?と思ったら

下記のような現象は故障ではありませんので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。

それでも異常があるときは、弊社サポートセンター(☎P9-3)までお問い合わせください。

| 現象 | 原因 | 処置 | 参照 |
|------------------------------|---|---|---------------|
| 電源が入らない | 接続端子の接触不良 | バッテリー、または卓上電源装置(別売品:PS-230A)との接続を確認する | — |
| | DC電源ケーブルのヒューズが切れている | 原因を取り除いたあとで、新品のヒューズと交換する | P9-1 |
| スピーカーから音が聞こえない | 音量が最小に調整されている | 無線機本体の音量レベルを確認する | P2-1 |
| | スピーカー出力の設定が正しくない | 詳細設定モードで、スピーカー出力の設定を確認する | P7-7 |
| | スピーカーマイク(付属品)、または外部スピーカー端子の接触、または接続されていない | スピーカーマイク、または外部スピーカーが正常に接続されてるか、ケーブルが断線していないかを点検する | — |
| 送信できない (プップッ・・・が鳴る) | 5分間の送信時間制限が過ぎたとき | 1分以上待ってから、もう一度送信する | P2-4 |
| | ほかの無線機が送信しているため、混信防止機能が動作している | [送・受] ランプ(緑色)が消灯してから送信する | P2-4 |
| 通話できない | 通話チャンネルが合っていない | 相手と同じ通話チャンネルに合わせる | P2-2 |
| | ユーザーコードを設定していない | 相手と同じユーザーコードを設定する | P3-1 |
| | 相手が秘話機能を使用していない、または自分の秘話IDと秘話キーの設定が異なる | 相手の秘話機能と秘話IDに設定された秘話キーを確認する | P4-1 |
| | 個別番号、またはグループ番号を間違えている | 個別番号、またはグループ番号を確認する | P5-2、 P5-3 |
| 相手から応答がない | 相手との距離がはなれすぎている | 場所を移動してから通話してみる | P2-4 |
| | 相手局が不在、または電源を切っている | 自局、または相手局の状態を確認する | — |
| 通話チャンネル選択と送信出力切り替え以外の設定ができない | 呼出用チャンネル(呼出CH)を設定している | 通話チャンネル(CH01~CH14、CH16~CH30)に変更する | P2-2 |
| 「キーロック」と表示される | ロック機能が動作している | ロック機能を解除する | P6-1 |
| モニター機能が使用できない | モニター機能を[P](プログラム)キーで動作するように設定していない。 | 詳細設定モードで、[P](プログラム)キー長押し動作を「モニタ」に設定する | P7-6 |
| スキャン機能が使用できない | スキャン機能を[P](プログラム)キーで動作するように設定していない。 | 詳細設定モードで、[P](プログラム)キー短押し、または[P](プログラム)キー長押し動作を「PRI」、「MC」に設定する | P7-6 |

9 保守について

■ アフターサービスについて

「■ 故障かな?と思ったら」(P9-2)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

● 保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

● 弊社製品のお問い合わせ先について

お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先:アイコム株式会社 サポートセンター
0120-156-313(フリーダイヤル)

◆ 携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、
06-6792-4949(通話料がかかります)

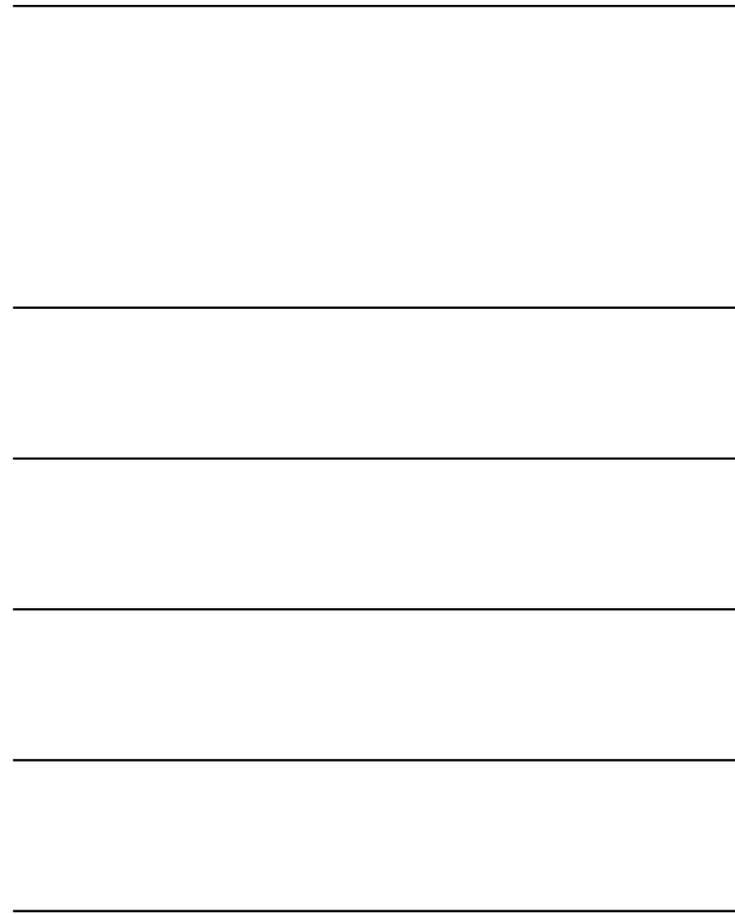
受付(平日 9:00~17:00)

電子メール:support_center@icom.co.jp

アイコムホームページ:<http://www.icom.co.jp/>

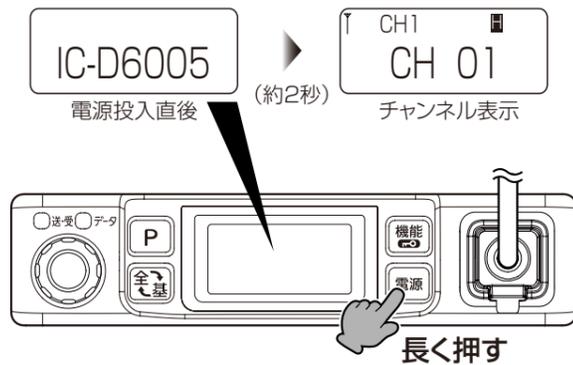
- 弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、別紙の「サービス受付窓口一覧」、または弊社ホームページ <http://www.icom.co.jp/> をご覧ください。

高品質がテーマです。

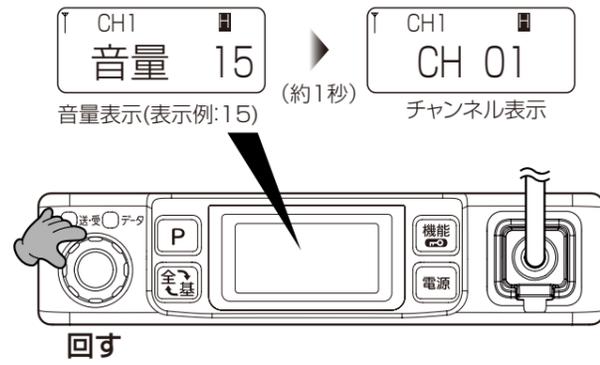


このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
 本書は、本製品の基本操作を説明しています。
 本書をお読みいただく前に、別紙の「ご注意と保守について」をよくお読みいただき、本製品を安全にご使用ください。

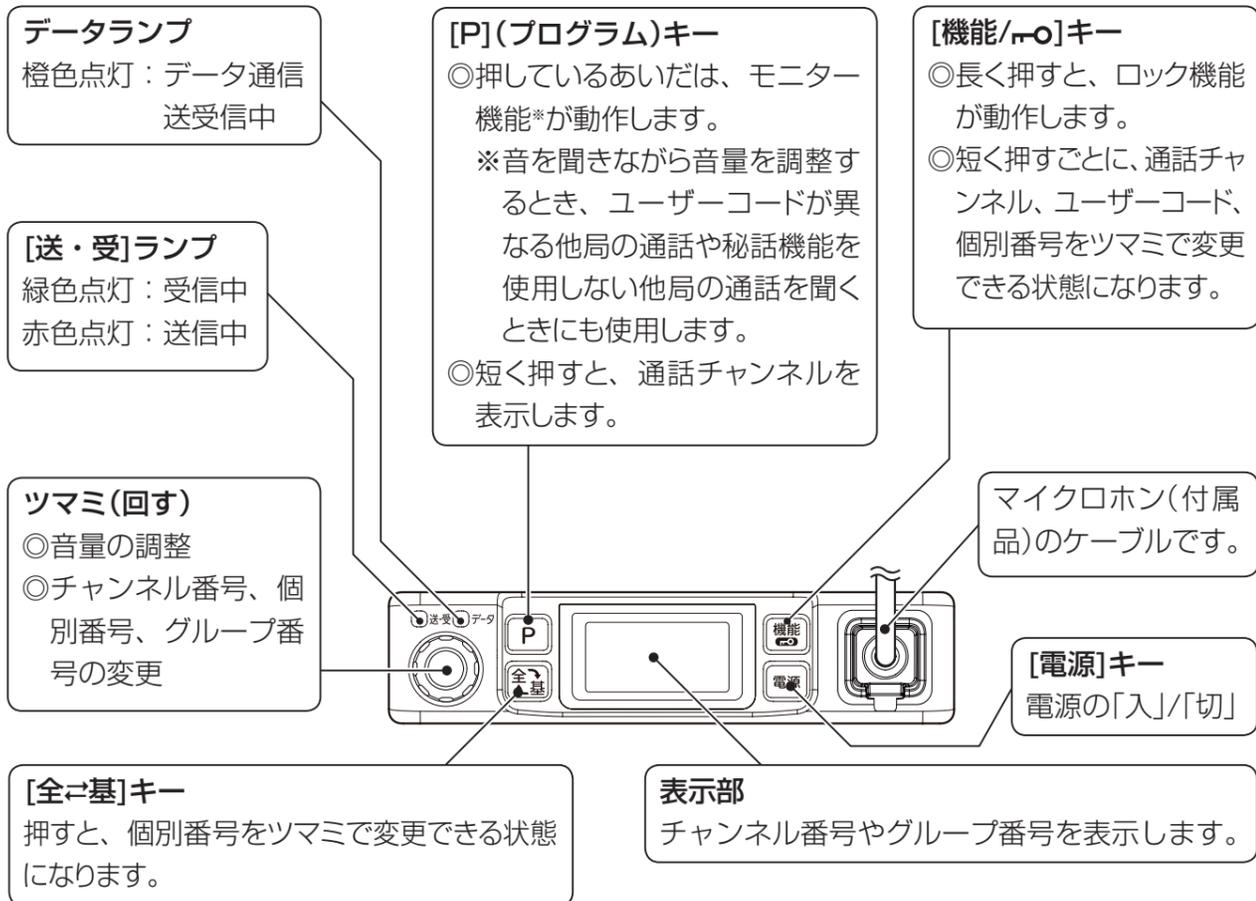
電源の入れかた



音量調整のしかた

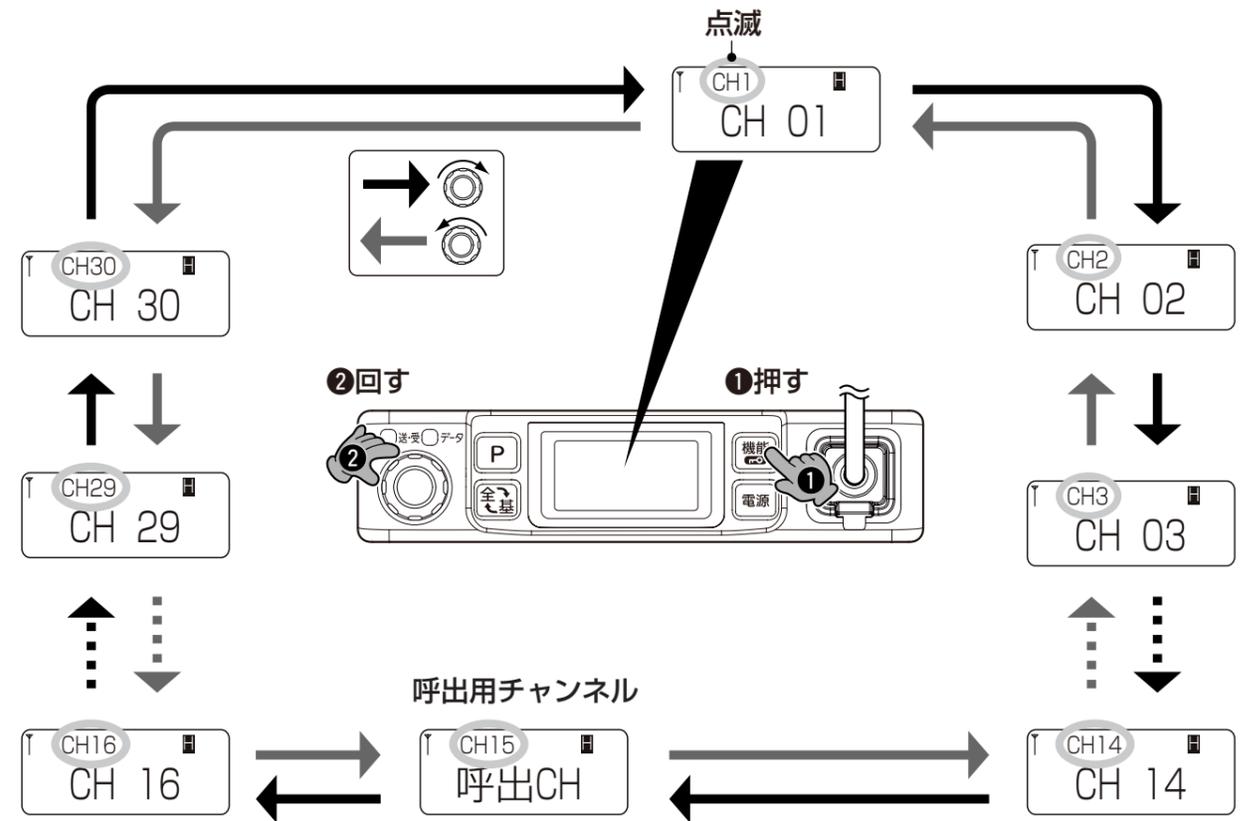


各部の名称と機能

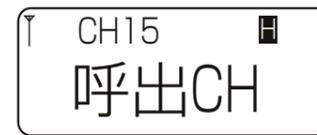


チャンネルを替えるには

【チャンネル切り替え操作図】



【通話チャンネルが決まっていない場合】
 「呼出CH」(呼出用チャンネル：CH15)に合わせます。



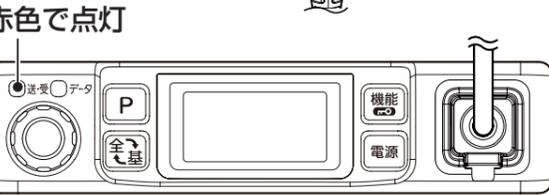
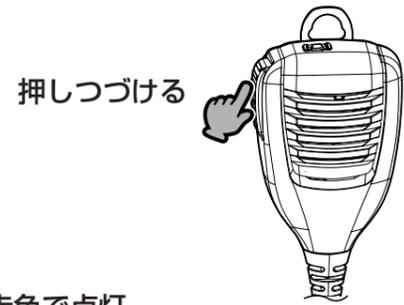
〈呼出用チャンネルについて〉
 このチャンネルは、一時的な呼び出しだけに使用します。
 ユーザーコードや秘話機能を使用できません。
 「呼出CH」で呼び出し後、通話をつづける場合は、空いている通話チャンネルに切り替えてから通話してください。

【通話チャンネルが決まっている場合】
 相手と同じ通話チャンネルに合わせます。
 ● 選択範囲：01～14、16～30



※通話チャンネルが異なるときは、通話できません。

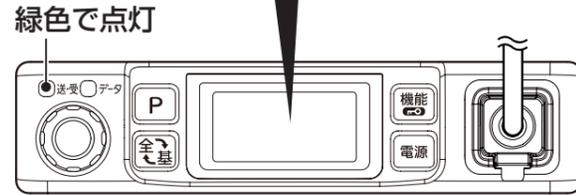
呼び出しをする



[PTT(送信)]スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。

- [PTT(送信)]スイッチを押しているあいだは、[送・受]ランプが赤色に点灯します。
- ※ [PTT(送信)]スイッチをはなすと、待ち受け状態になります。
- ※ 電波法により、「連続送信(通話状態)」が5分を超えると、通話を自動的に切断します。切断後、1分間は送信できません。

呼び出しを受ける

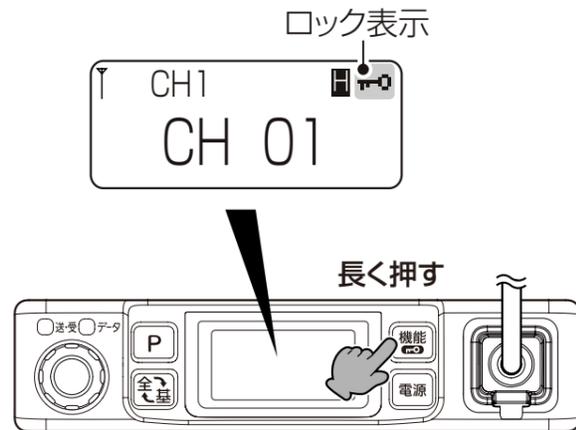


[PTT(送信)]スイッチをはなすと待ち受け状態になり、相手局が送信すれば、受信した音声がかかります。

- 受信中は、[送・受]ランプが緑色に点灯し、受信している電波状態を表示します。
- ※ 待ち受け状態のときは、[送・受]ランプが消灯します。

誤操作を防ぐときは(ロック機能)

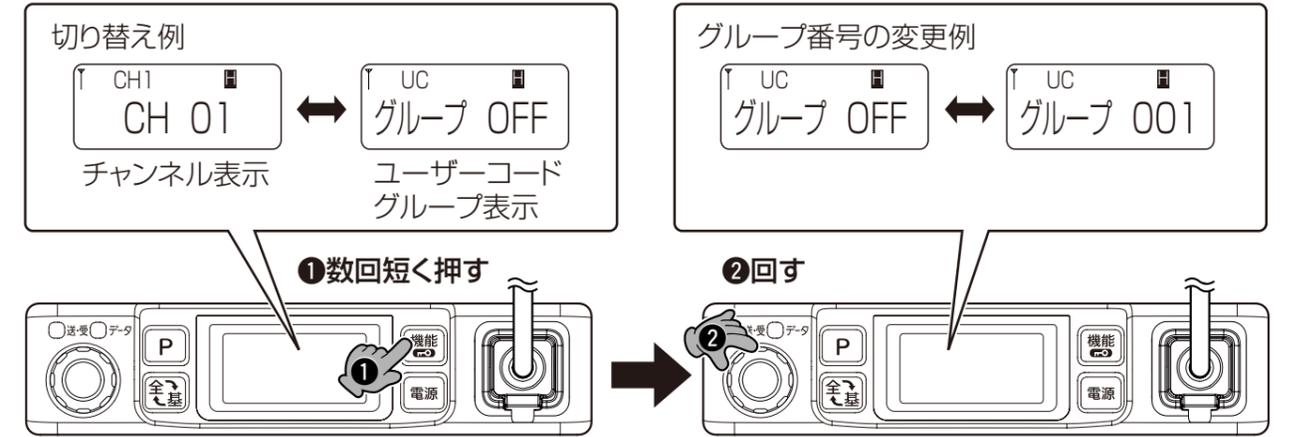
- [機能/⏏]キーを長く(約1秒)押します。
- ビープ音が「ピピッ」と鳴って、⏏を表示します。
- ※ 解除するときは、同じ操作をします。



グループ通話をするには

同じユーザーコードを設定する相手とだけ通話できます。
※ 通話チャンネルは、通話相手と同じに設定してください。

- ① 相手と同じ通話チャンネルを設定する。
- ② [機能/⏏]キーを数回短く押す。
※ 「グループ OFF」表示を選択します。
- ③ ツマミを回す。



本製品の詳細な説明や設定方法について

個別呼び出しや秘話機能など、詳細な設定が必要な場合は、お買い求めの販売店にご相談、または弊社ホームページに掲載されているIC-D6005取扱説明書(PDFファイル)をご覧ください。
アイコム株式会社 <http://www.icom.co.jp/>

車載型デジタル簡易無線機

IC-D6005

HM-206 #02(コマンドマイク)編

この無線機をご使用の際には、総務省総合通信局への無線局の登録申請が必要です。
必ず登録申請をして、登録状が手元に届いてからご使用ください。



HM-206 #02(別売品)接続時の写真です。

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本書は、本製品にHM-206 #02(別売品:コマンドマイク)を接続したとき、使用できる機能と操作について説明した取扱説明書です。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本機の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

HM-206 #02の接続で使用できる機能

◎空きチャンネルサーチ機能(☞P7-11)

◎録音/再生機能(☞P7-14)

◎GPS機能(☞P7-16)

◎ノイズキャンセル機能(☞P7-17)

取扱説明書の内容について

◎無線機本体に付属のスピーカーマイク(HM-204)でお使いになる場合の操作については、弊社ホームページに掲載されているIC-D6005取扱説明書(PDFファイル)をご覧ください。

◎本書に記載の操作や機能は、お買い上げの販売店であらかじめ設定をご依頼いただくことにより使用できる機能も含まれています。

登録商標/著作権について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴ、ポケットビーブ、コマンドマイクは、アイコム株式会社の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

本書の内容の一部、または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。

本製品のフォントは、モリサワのフォントを採用しております。

もくじ

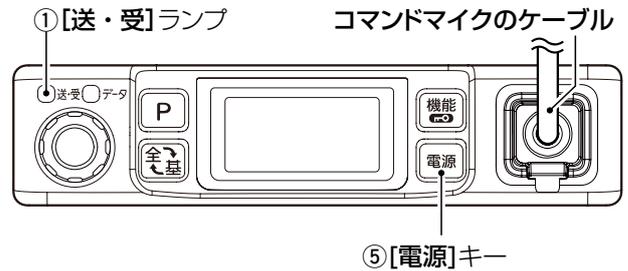
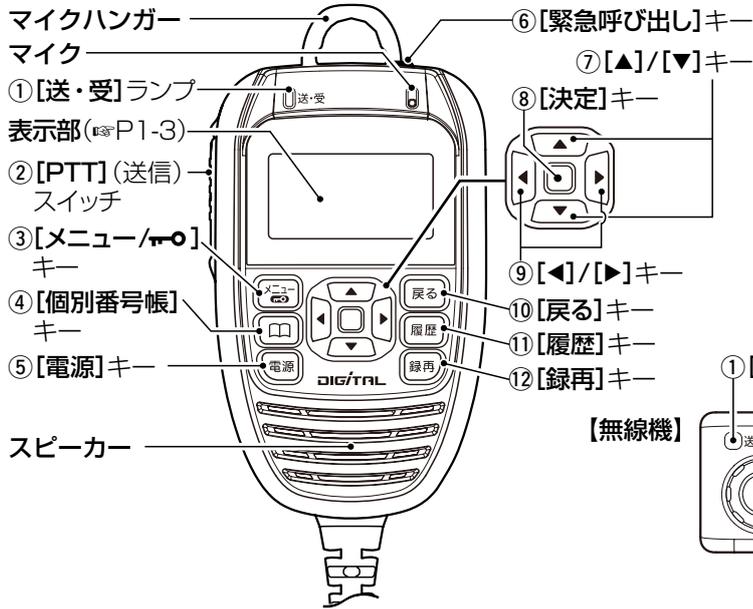
| | | | |
|-------------------------------|------------|----------------------------|------------|
| はじめに | i | 7.そのほかの機能について | 7-1 |
| 取扱説明書の内容について | i | ■ ロック機能 | 7-1 |
| 登録商標/著作権について | i | ■ 受信専用機能 | 7-1 |
| 1.各部の名称と機能 | 1-1 | ■ モニター機能 | 7-1 |
| ■ 前面部 | 1-1 | ■ ポケットビープ機能 | 7-1 |
| ■ HM-206 #02表示部 | 1-3 | ■ 呼び出しメロディー機能 | 7-2 |
| 2.電源の入れかたと音量調整 | 2-1 | ■ 着信表示 | 7-2 |
| 3.通話のしかた | 3-1 | ■ 受信電波強度通知機能 | 7-2 |
| ■ 通話するときのアドバイス | 3-2 | ■ 送信出力の切り替え機能 | 7-2 |
| 4.簡単なグループ通話のしかた | 4-1 | ■ ショートメッセージ機能 | 7-3 |
| ■ ユーザーコードを設定して通話するには | 4-1 | ■ 拡声器機能 | 7-6 |
| ■ 通話チャンネル毎にユーザーコードを設定して通話するには | 4-2 | ■ 発着信履歴機能 | 7-7 |
| 5.盗聴防止の設定をするには | 5-1 | ■ プライベートチャンネル機能 | 7-9 |
| ■ 秘話機能を設定するには | 5-1 | ■ プライベートチャンネルスキャン機能 | 7-9 |
| ■ 秘話機能を使用して通話するには | 5-2 | ■ メモリーチャンネルスキャン機能 | 7-10 |
| 6.個別呼び出し機能による通話 | 6-1 | ■ 空きチャンネルサーチ機能 | 7-11 |
| ■ 呼び出しかたの種類について | 6-1 | ■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー) | 7-12 |
| ■ 個別呼び出し機能を設定するには | 6-2 | ■ 録音/再生機能 | 7-14 |
| ■ 個別呼び出し機能で通話するには | 6-4 | ■ GPS機能 | 7-16 |
| | | ■ ノイズキャンセル機能 | 7-17 |
| | | 8.各種機能の設定 | 8-1 |
| | | ■ 設定一覧 | 8-1 |
| | | ■ 設定モードに移行するには | 8-1 |
| | | ■ 詳細設定モードに移行するには | 8-2 |
| | | ■ 設定のしかた | 8-2 |
| | | ■ 設定項目について | 8-3 |
| | | 9.初期状態に戻す(リセットする)には | 9-1 |

1

各部の名称と機能

■ 前面部

[コマンドマイク :HM-206 #02]



★印の機能は、お買い上げの販売店で設定されている場合だけ、動作します。

| | |
|---|--|
| ① | <p>[送・受] ランプ 緑色に点灯: 受信中 赤色に点灯: 送信中 橙色に点滅: 着信時★</p> |
| ② | <p>[PTT] (送信) スイッチ 押しているあいだは送信状態、はなすと待ち受け状態に切り替わります。</p> |
| ③ | <p>[メニュー/ON/OFF] キー ◎短く押すと、メニュー画面を表示します。 ◎長く押すごとに、ロック機能を「ON」/「OFF」します。(P7-1)</p> |
| ④ | <p>[個別番号帳] キー ◎個別呼び出し機能が設定されている場合、押すごとに、全体/基地/個別/グループ番号を選択する画面に切り替わります。(P6-4) ◎個別番号、またはグループ番号の選択は、[▲]/[▼] キーで選択します。</p> |
| ⑤ | <p>[電源] キー 長く(約1秒)押すごとに、電源を「入」/「切」します。</p> |
| ⑥ | <p>[緊急呼び出し] キー★ 緊急呼び出し機能が設定されている場合、長く(5秒以上)押すと、緊急呼び出しを開始します。(P7-13)</p> |
| ⑦ | <p>[▲]/[▼] キー 通話チャンネル番号、個別番号、グループ番号、発信履歴、着信履歴、録音履歴、ショートメッセージ★などを選択します。</p> |

| | |
|---|--|
| ⑧ | <p>[決定] キー 押すと、選択した内容を確定します。</p> |
| ⑨ | <p>[◀]/[▶] キー ◎押すと、音量が変わります。 ◎メニュー画面などで、1つ下の階層に進むときは[▶] キー、1つ上の階層に戻るときは[◀] キーを押します。</p> |
| ⑩ | <p>[戻る] キー ◎メニュー画面、着信/発信/録音履歴を表示する画面などで、短く押すと、1つ上の階層に戻ります。 ◎通話後、短く押すと、強制的に終話します。</p> |
| ⑪ | <p>[履歴] キー ◎短く押すごとに、着信/発信/録音履歴を表示する画面に切り替わります。 ◎ショートメッセージを発信、または受信した場合は、[▲]/[▼] キーで発信、または着信履歴を選択して、[▶] を押すと内容を確認できます。 ◎録音/再生機能が設定されている場合は、[▲]/[▼] キーで録音履歴を選択して、[▶] を押すと内容を再生します。</p> |
| ⑫ | <p>[録再] キー ◎短く押すごとに、発信音声、および着信音声の録音一時停止と再開が切り替わります。 ◎長く押すと、最新の録音内容が再生されます。</p> |

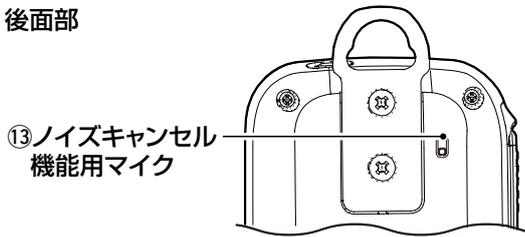
(P次ページにつづく)

1 各部の名称と機能

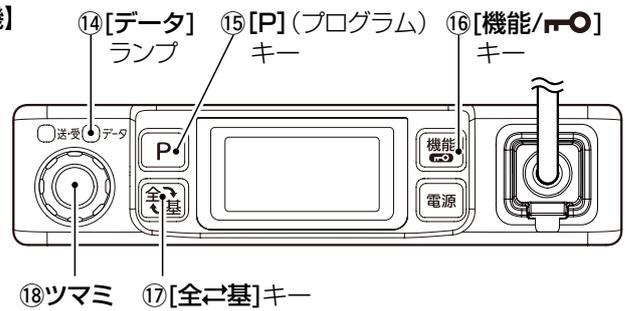
■ 前面部(つづき)

【コマンドマイク：HM-206 #02】

後面部



【無線機】



★印の機能は、お買い上げの販売店で設定されている場合だけ、動作します。

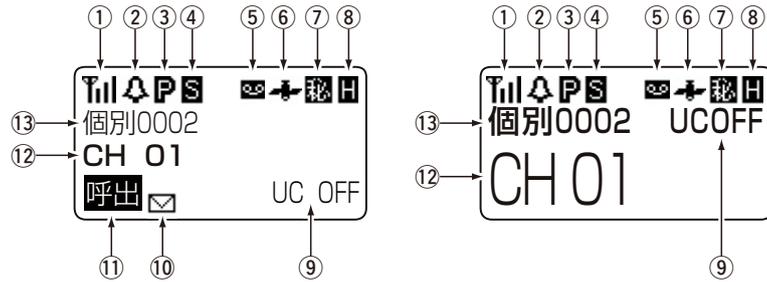
| | |
|---|---|
| ⑬ | <p>ノイズキャンセル機能用マイク 周囲のノイズを検出するために使用します。ノイズキャンセル機能が設定されているとき、このマイクから入った周囲のノイズを使用して、前面部のマイクから入った周囲のノイズを打ち消します。設定されているときは、通話する音声に含まれる低音域のノイズの軽減に効果があります。</p> |
| ⑭ | <p>【データ】ランプ★ 橙色に点灯：データ通信で送信、または受信中</p> |
| ⑮ | <p>【P】(プログラム)キー 下記は、工場出荷時やユーザーリセット時の動作です。 ◎短く押し、コマンドマイク(HM-206 #02)の表示が通話チャンネル表示に戻ります。 無線機本体の表示は、変化しません。 ◎押し続けているあいだは、モニター機能が動作します。 (☞P7-1) ※モニター機能とは、音を聞きながら音量を調整するとき、またはユーザーコードが異なる他局の通話や秘話機能を使用しない他局の通話を聞くときに使用します。 ※モニター機能は、ロック機能(☞P7-1)動作中でも使用できます。 ※詳細設定モードから、【P】(プログラム)キーを短く押したときと、長く押したときに動作する機能を変更できます。(☞P8-2、P8-7)</p> |

| | |
|---|--|
| ⑯ | <p>【機能/電源】キー コマンドマイク(HM-206 #02)が接続されているときは、動作しません。</p> |
| ⑰ | <p>【全基】キー コマンドマイク(HM-206 #02)が接続されているときは、動作しません。</p> |
| ⑱ | <p>ツマミ 音量が変わります。</p> |

1 各部の名称と機能

■ HM-206 #02表示部

待ち受け中、⑨、⑫、⑬は、文字サイズの設定により、右図のどちらかの大きさを表示されます。



★印の表示は、お買い上げの販売店で設定されている場合だけ、表示されます。

| | | | | | |
|----|--|--|----|-------------------|---|
| ① | | 受信している電波の強度を、下図の3段階(目安)で表示します。 弱 中 強 ※「↑」は、電源が入っているときは常に表示されています。 | ⑧ | | 各通話チャンネルの送信出力(High/Low)設定を表示します。 5Wのときに表示します。 |
| ② | | ポケットビープ機能が設定されているとき表示します。(P7-1) 呼び出しを受けると、点滅します。 | | | 1Wのときに表示します。 |
| ③ | | Pベル機能(P8-3)が設定されているときに表示します。 | ⑨ | UC OFF | 送信禁止チャンネルを選択したときに表示します。 |
| ④ | | プライベートチャンネルスキャン機能(P7-9)、メモリーチャンネルスキャン機能(P7-10)、空きチャンネルサーチ機能(P7-11)のいずれかが動作中に点滅します。 | ⑩★ | | ショートメッセージを送信、または受信したときに表示します。 (P7-3) |
| ⑤ | | 再生できる音声、コマンドマイク(HM-206 #02)に録音されているときに表示します。 | ⑪ | | 個別呼び出し機能で通話中に表示します。 (P6-1) また、全体/グループ呼び出しで送信や着信したときにも表示します。 |
| | | 発信音声、および着信音声の録音中に点滅します。 | | | 個別/基地局呼び出しで送信したときに表示します。 |
| | | 発信音声、および着信音声の録音を一時停止させたときに表示します。 | | | ショートメッセージを受信したときや自局宛での個別呼び出しを受けたときに表示します。 |
| ⑥★ | | コマンドマイク(HM-206 #02)に内蔵されたGPSレシーバーの受信状態を表示します。 消灯:GPS機能(P7-16)を使用していないとき 点滅:自局の位置情報を受信(測位)中 点灯:自局の位置情報の測位が完了 | ⑫ | CH (例:CH 01) | 待ち受け状態のとき、通話チャンネル番号を表示します。 ※お買い上げの販売店で名称表示が設定されている場合は、通話チャンネル番号の代わりに設定された名称を表示します。 |
| ⑦ | | 秘話機能が設定されているときに表示します。(P5-1) | ⑬ | 個別 (例:個別 0002) | 個別呼び出し機能が設定されているときは、個別呼び出しの選択状態(全体/基地/個別/グループ)と、選択した個別番号、基地局番号、グループ番号を表示します。 ※お買い上げの販売店で名称表示が設定されている場合は、個別番号、基地局番号、グループ番号の代わりに設定された名称を表示します。 |

2

電源の入れかたと音量調整

1 電源を入れる

【電源】キーを長く(1秒以上)押します。

- 「ピー」と鳴り、選択されている通話チャンネル番号を読み上げます。



ICOM
IC-D6005
起動コメント表示



自局0001
自局番号の表示例



UCOFF
CH 01
通話チャンネル表示例

【自局番号の表示について】

個別呼び出し機能(☞P6-1)が設定されているときだけ、表示されます。

なお、自局番号に名称が設定されている場合は、その自局番号の代わりに、名称が表示されます。

【名称表示とコマンドマイクの文字サイズについて】

通話チャンネル番号、個別番号の代わりに、名称を表示させたり、コマンドマイク(HM-206 #02)の表示文字サイズを変更(初期設定値:大)したりできます。

※変更は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※文字サイズを「小」に変更することで、全角7文字(半角14文字)まで表示できます。

下図の表示は、個別呼び出し機能をONに設定したときの個別番号名称(食品倉庫、食品倉庫他局02)と通話チャンネル番号名称(営業連絡、営業連絡用CH)の表示例です。

食品倉庫 UCOFF
営業連絡

文字サイズ:大

食品倉庫他局02
営業連絡用CH
UC OFF

文字サイズ:小

※無線機本体の表示文字サイズは、変更できません。

無線機本体の名称表示は、全角4文字(半角8文字)までです。

※お買い上げの販売店で外字が設定されている場合、HM-206 #02(コマンドマイク)を接続したときは、外字を無線機とコマンドマイクに表示できません。

2 音量を調整する

【<】/【>】キーを押すと、音量を調整できます。

相手の音声聞きやすい音量レベルに調整してください。

- 0~32の範囲で調整します。



音量: 20
— [Progress Bar] +

音量表示(表示例:20)

【ご注意】

音量が最小のときは、操作音(ピーブ音)や警告音、通話チャンネル番号案内の音声や受信した音声などは、聞こえません。

【ご参考】チャンネル番号音声案内機能について

電源を入れたときや、チャンネル番号を変更したとき、選択された通話チャンネル番号を読み上げます。

※使用しないときは、詳細設定モードの[チャンネル番号音声案内]項目で設定を「OFF」にできます。

(☞P8-9)

相手と同じ通話チャンネルに合わせるだけの非常に簡単な通話のしかたについて説明しています。

1 通話チャンネルを合わせる

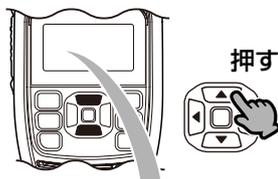
【▲】/【▼】キーを押して、通話相手と同じ通話チャンネルを選択します。

●選択範囲:

CH 01～CH 14、

CH 16～CH 30

※通話チャンネルの上限(例: CH 01)、または下限(例: CH 30)を選択したときは、「ピピッ」と鳴ります。



通話チャンネルの選択
(例:CH 01)

【呼出用チャンネルについて】

呼出用チャンネル(CH15)は、「呼出CH」と表示されます。

このチャンネルは、一時的な呼び出しにだけ使用しますので、グループ通話(☞P4-1)や秘話機能(☞P5-1)、個別呼び出し機能(☞P6-1)による通話に使用できません。

「呼出CH」で呼び出した相手と通話をつづける場合は、空いている通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)に変更してから通話してください。



呼出用チャンネル表示

2 呼び出しをする(送信する)

【ご注意】

【送・受】ランプが緑色に点灯しているときは、音声聞こえなくても、ほかの無線局が通話していることがあります。

この状態で、【PTT】(送信)スイッチを押しても、混信防止(キャリアセンス)機能(☞P3-2)が動作して、送信できないようになっています。

※【送・受】ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。

消灯を確認



【PTT】(送信)スイッチを押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

●【PTT】(送信)スイッチを押しているあいだは、【送・受】ランプが赤色に点灯します。

赤色に
点灯

押し
つづける



送信中の表示(例:CH01)

3 呼び出しを受ける(受信する)

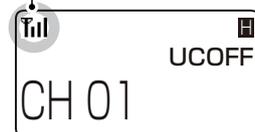
【PTT】(送信)スイッチをはずすと待ち受け状態になります。

◎待ち受け状態のときは、【送・受】ランプが消灯しています。

◎電波を受信中は、【送・受】ランプが緑色に点灯します。

緑色に
点灯

電波状態



受信中の表示(例:CH01)

※ 音声聞こえなくても、ほかの無線局が通話しているときは、【送・受】ランプが緑色に点灯します。

【応答するときには】

【送・受】ランプが消灯し、待ち受け状態になってから、【PTT】(送信)スイッチを押します。

3 通話のしかた

■ 通話するときのアドバイス

1. 送信時間制限装置について

1回の送信で連続して通話できる時間は、「5分以内」と電波法で定められています。

制限時間の10秒前になると、ビープ音が「ピッ」と鳴ります。

連続通話時間が5分になると、警告音が「ブッ」と鳴って、自動的に送信を停止します。

※送信を自動停止すると、1分間は通話できません。

通話を再開する場合は、1分後に[PTT](送信)スイッチを押してください。

2. 混信防止(キャリアセンス)機能について

無線局の運用では、同じ通話チャンネルで自分が送信中のときにほかの人が送信すると混信を受け通話ができない場合があります。

また、逆にほかの人が通話中のチャンネルで送信すると、その通話を妨害することになります。

このような混信を防止するために、同じチャンネルで一定レベルの電波を本製品が受信している場合は、通話中とみなし、送信できないよう、自動的に制御する機能をキャリアセンスといいます。

キャリアセンスは、本製品が送信を開始するときに動作します。

3秒以上通話が途切れた場合、本製品が通話を終了したと判断し、次の送信開始時からキャリアセンスの機能が動作します。

なお、ほかの電子機器からの電波を受信した場合(混信や妨害波を含む)についてもキャリアセンスが動作し送信できないことがありますが、故障ではありません。

本製品は、電波法によりこのキャリアセンスの搭載が義務付けられています。

3. 電波干渉について

比較的せまいエリアで、多くの局が通話するような状態では、電波の干渉(相互変調)による混信が発生することがあります。

このような混信は、グループごとに通話チャンネルの組み合わせを適切に設定することで防止できます。

4. 通話範囲について

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信しにくくなる場合があります。

◇通話範囲は、周囲の建物などの状況により異なりますので、下記の数値を目安に通話してください。

(送信出力:5W時)

見通しのよい場所 : 約1~10km

市街地や建物内 : 約1~3km

◇通話範囲であっても、山や建物などが障害物となって、通話しにくくなる場合があります。

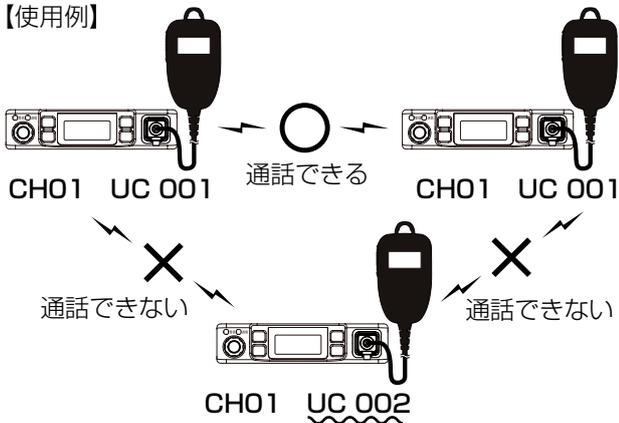
そのときは、場所を少し移動して通話してください。

また、テレビやラジオなどの家電製品、パソコン、および電話機などの近くで使用すると、雑音が発生したり、誤動作したりすることがありますので、はなれてご使用ください。

4 簡単なグループ通話のしかた

複数の通話相手と同じユーザーコード(UC)を設定するだけで、通話グループが簡単に構成できます。
通話チャンネル(☞P3-1)とユーザーコードが一致したすべての相手と通話できます。

【使用例】



※秘話機能や個別呼び出し機能とも併用できます。

【「呼出CH」選択時のご注意】

「呼出CH」(呼出用チャンネル: CH15) 選択時は、ユーザーコードを使用できないため、本章の操作はできません。



呼出用チャンネル表示

【ご参考】ユーザーコードの設定方法変更について

通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)ごとに異なるユーザーコードを使用する場合は、「■ 通話チャンネル毎にユーザーコードを設定して通話するには」(☞P4-2)でユーザーコードの設定を変更してください。

■ ユーザーコードを設定して通話するには

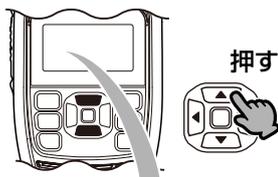
ユーザーコードを000から001に変更することを例に、操作手順を説明します。

1 通話チャンネルを合わせる

【▲】/【▼】キーを押して、通話相手と同じ通話チャンネルを選択します。

●選択範囲:

CH 01～CH 14、
CH 16～CH 30



通話チャンネルの選択
(例:CH 01)

2 ユーザーコードを設定する

①【メニュー/☐○】キーを短く押します。

●メニュー画面が表示されます。



②【決定】キーを押します。

●ユーザーコードの設定状態が表示されます。



③【個別番号帳】キーを押します。

●ユーザーコードの数字が白黒反転表示になり、編集できる状態になります。



④【▶】キーを2回押します。

●編集できる桁(白黒反転表示)が右端に移動します。



⑤【▲】/【▼】キーを押して、ユーザーコードを設定します。(例:001)

●選択範囲:OFF(000)、001～511



⑥【決定】キーを押します。

●ユーザーコードの変更が確定されます。



⑦【戻る】キーを2回押します。

●通話チャンネル表示に戻ります。



ユーザーコード(例:001)

4 簡単なグループ通話のしかた

■ ユーザーコードを設定して通話するには
(つづき)

3 呼び出しをする(送信する)

【ご注意】

【送・受】ランプが緑色に点灯しているときは、音声が聞こえなくても、ほかの無線局が通話していることがあります。

この状態で、【PTT】(送信)スイッチを押しても、混信防止(キャリアセンス)機能(☞P3-2)が動作して、送信できないようになっています。

※【送・受】ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。

消灯を確認



【PTT】(送信)スイッチを押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

●【PTT】(送信)スイッチを押しているあいだは、【送・受】ランプが赤色に点灯します。



送信中の表示(例:CH01)

4 呼び出しを受ける(受信する)

【PTT】(送信)スイッチをはなすと、待ち受け状態になります。

○待ち受け状態のときは、【送・受】ランプが消灯しています。

○電波を受信中は、【送・受】ランプが緑色に点灯します。

※音声が聞こえなくても、ほかの無線局が通話しているときは、

【送・受】ランプが緑色に点灯します。



受信中の表示(例:CH01)

【応答するときは】

【送・受】ランプが消灯して、待ち受け状態になってから、【PTT】(送信)スイッチを押します。

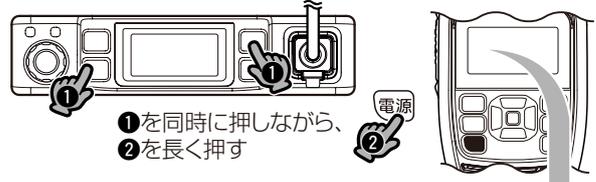
■ 通話チャンネル毎にユーザーコードを設定して通話するには

通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用できます。CH04のユーザーコードを000から002に変更することを例に、操作手順を説明します。

1 詳細設定モードにする

① 本製品の電源を切ります。

② 【全⇄基】キーと【機能/電源】キーを同時に押しながら、【電源】キーを押しつづけます。



③ 「詳細設定」と表示され、「ピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。

※ 詳細設定モードに移行しているときは、呼び出しを受信できません。

詳細設定

2 ユーザーコードで「チャンネル毎」を選択する

① 【▲】/【▼】キーを繰り返し押して、「ユーザーコード」を選択します。



② 【決定】キーを押します。



③ 【▲】/【▼】キーを繰り返し押して、「チャンネル毎」を選択します。



④ 【決定】キーを押します。

● 「チャンネル毎UC」が表示されます。



4 簡単なグループ通話のしかた

■ 通話チャンネル毎にユーザーコードを設定して通話するには(つづき)

3 ユーザーコードを設定する

- ①【▲】/【▼】キーを繰り返し押し、「チャンネル毎UC」を選択します。



- ②【決定】キーを押します。

- チャンネル番号とユーザーコードが表示されます。



- ③【▲】/【▼】キーを繰り返し押し、チャンネル番号を選択します。(例:CH 04)

- 選択範囲:CH 01~CH 14、CH 16~CH 30



- ④【個別番号帳】キーを押します。

- ユーザーコードの数字が白黒反転表示になり、編集できる状態になります。



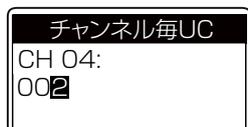
- ⑤【▶】キーを2回押します。

- 編集できる桁(白黒反転表示)が右端に移動します。



- ⑥【▲】/【▼】キーを押して、ユーザーコードを設定します。(例:002)

- 選択範囲:OFF(000)、001~511



- ⑦【決定】キーを押します。

- ユーザーコードの設定が確定されます。



※ほかのチャンネル番号のユーザーコードも編集するときは、③~⑦を繰り返します。

※【戻る】キーを押すと、手順①の画面に戻ります。

4 選択した設定を有効にする

【PTT】(送信)スイッチを押します。

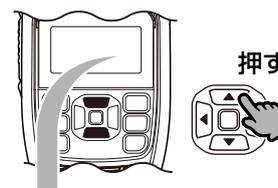
- 詳細設定モードが解除され、ユーザーコードが変更されます。



5 通話チャンネルを合わせる

【▲】/【▼】キーを押して、通話相手と同じ通話チャンネルを選択します。

- 選択範囲:
CH 01~CH 14、
CH 16~CH 30



ユーザーコードが設定された通話チャンネルの選択
(例:CH 04、UC002)

4 簡単なグループ通話のしかた

- 通話チャンネル毎にユーザーコードを設定して通話するには(つづき)

6 呼び出しをする(送信する)

【ご注意】

【送・受】ランプが緑色に点灯しているときは、音声が聞こえなくても、ほかの無線局が通話していることがあります。

この状態で、【PTT】(送信)スイッチを押しても、混信防止(キャリアセンス)機能(※P3-2)が動作して、送信できないようになっています。

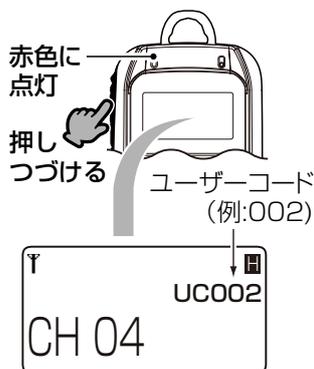
※【送・受】ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。

消灯を確認



【PTT】(送信)スイッチを押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

- 【PTT】(送信)スイッチを押しているあいだは、【送・受】ランプが赤色に点灯します。



送信中の表示(例:CH04)

7 呼び出しを受ける(受信する)

【PTT】(送信)スイッチをはなすと、待ち受け状態になります。

◎待ち受け状態のときは、【送・受】ランプが消灯しています。

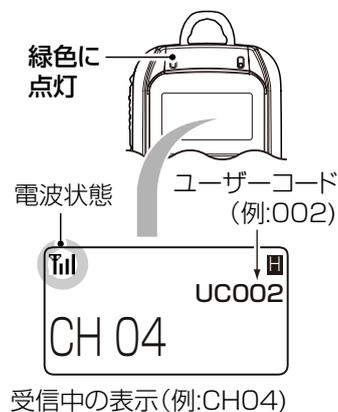
◎電波を受信中は、【送・受】ランプが緑色に点灯します。

※音声が聞こえなくても、ほかの無線局が通話しているときは、

【送・受】ランプが緑色に点灯します。

【応答するとき】

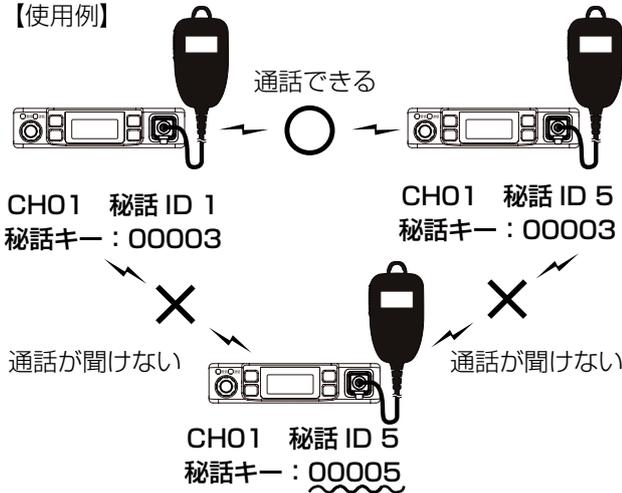
【送・受】ランプが消灯して、待ち受け状態になってから、【PTT】(送信)スイッチを押します。



5 盗聴防止の設定をするには

秘話機能を使用すると、ほかの相手に通話内容が傍受されるのを防止できます。
通話チャンネルと秘話IDに設定された秘話キーが一致した相手と通話できます。

【使用例】



※ 秘話ID(1~20)ごとに異なる秘話キー(00001~32767)を設定できます。

※ 秘話キーが同じ相手であれば、秘話IDが異なる場合でも通話できます。

※ ユーザーコードや個別呼び出し機能とも併用できます。

【「呼出CH」選択時のご注意】

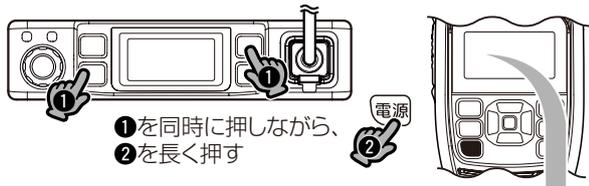
「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)を選択したときは、設定した秘話機能が無効になります。

■ 秘話機能を設定するには

この章の説明で使用する設定値は、上図の【使用例】に記載の値を使用しています。

1 詳細設定モードにする

- ① 本製品の電源を切ります。
- ② **[全基]**キーと**[機能/電源]**キーを同時に押しながら、**[電源]**キーを押しつづけます。



- ③ 「**詳細設定**」と表示され、「**ビピッ**」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。

※ 詳細設定モードに移行しているときは、呼び出しを受信できません。



【ご注意】

機密を要する重要な通話にご使用になることは、おすすめできません。

また、無線機間の通話は、電波を使用している関係上、第三者による盗聴を完全に阻止できませんので、ご注意ください。

2 秘話 IDを選択する

- ① **[▲]/[▼]**キーを繰り返し押し、「秘話」を選択します。
- ② **[決定]**キーを押します。
- ③ **[▲]/[▼]**キーを繰り返し押し、秘話IDを選択します。
 - 選択範囲: OFF、キーID1 ~ キーID20



秘話ID選択時の表示
(例:キーID1)

3 秘話キーを設定する

- ① **[個別番号帳]**キーを押します。
 - キーID1の秘話キーを編集する画面が表示されます。
- ② **[▲]/[▼]**キーを繰り返し押し、秘話キーを選択します。
 - 選択範囲:00001~32767
 - ※ 編集する桁を移動するときは、**[◀]/[▶]**キーを短く押します。
- ③ **[決定]**キーを押します。
 - 秘話キーが確定されます。
- ④ **[決定]**キーを押します。
 - 秘話IDが確定されます。



秘話キー編集時の表示
(例:00003)



秘話ID確定時の表示
(例:キーID1)

4 選択した設定を有効にする

[PTT](送信)スイッチを押します。

- 詳細設定モードが解除され、秘話機能の設定が有効になります。



秘話機能設定時の表示
(例:CH 01)

5 盗聴防止の設定をするには

■ 秘話機能を使用して通話するには

秘話機能を使用して通話をする手順です。

※5-1ページで、秘話IDに設定した秘話キーを下記で選択した通話チャンネルに使用できます。

1 通話チャンネルを合わせる

[▲]/[▼]キーを押して、通話相手と同じ通話チャンネルを選択します。

●選択範囲:

CH 01～CH 14、
CH 16～CH 30



2 呼び出しをする(送信する)

【ご注意】

[送・受]ランプが緑色に点灯しているときは、音声聞こえなくても、ほかの無線局が通話していることがあります。

この状態で、[PTT] (送信) スイッチを押しても、混信防止(キャリアセンス)機能(※P3-2)が動作して、送信できないようになっています。

※[送・受]ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。

消灯を確認



[PTT] (送信) スイッチを押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

● [PTT] (送信) スイッチを押しているあいだは、[送・受]ランプが赤色に点灯します。

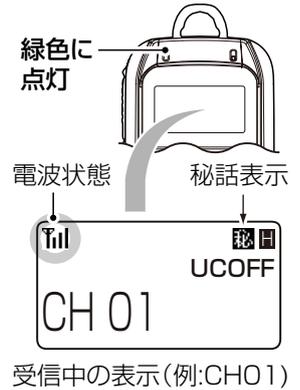


3 呼び出しを受ける(受信する)

[PTT] (送信) スイッチをはずすと、待ち受け状態になります。

◎待ち受け状態のときは、[送・受]ランプが消灯しています。

◎電波を受信中は、[送・受]ランプが緑色に点灯します。



※ 音声聞こえなくても、ほかの無線局が通話しているときは、[送・受]ランプが緑色に点灯します。

※ 他局が自分と異なる秘話キーを使用している場合は、秘話処理された電子音が聞こえます。

【応答するときは】

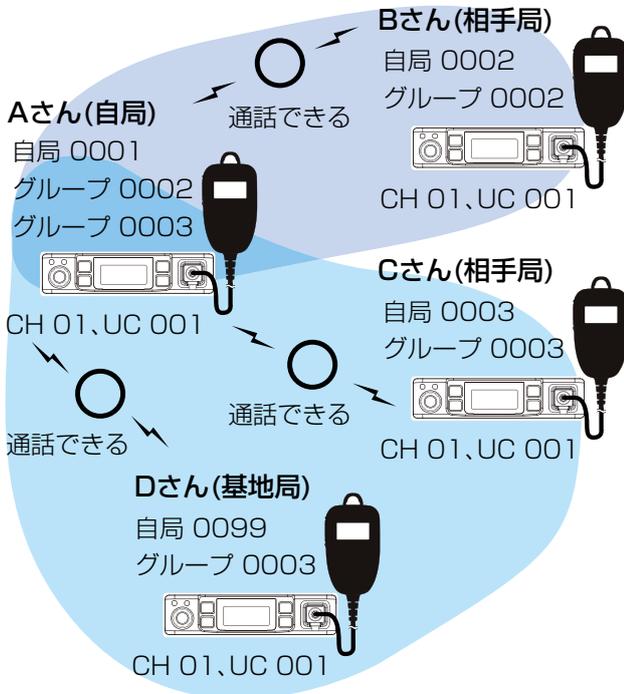
[送・受]ランプが消灯して、待ち受け状態になってから、[PTT] (送信) スイッチを押します。

■ 呼び出しのかたの種類について

個別呼び出しの種類について、下図を例に説明します。

【使用例】

下図の   は、Aさん(自局)が呼び出しできるグループを意味します。



※ グループ呼び出しで着信させるには、あらかじめ、目的のグループ番号にメンバー指定の設定が必要です。相手側でメンバー指定されていないグループ番号に呼び出しをしても、着信しません。(P6-3)

【「呼出CH」表示での機能制限について】

呼出用チャンネル(CH15)は、「呼出CH」と表示されます。このチャンネルは、一時的な呼び出しにだけ使用しますので、グループ通話(P4-1)や秘話機能(P5-1)、個別呼び出し機能(P6-1)による通話に使用できません。



呼出用チャンネル表示

呼び出しのかたには、次の4種類の方法があります。

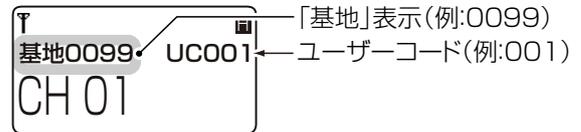
◎全体呼び出し



全体呼び出し表示(例:CH01)

通話チャンネル(例:CH 01)とユーザーコード(例:UC 001)が同じ相手局(例:Bさん/Cさん/Dさん)を一斉に呼び出します。

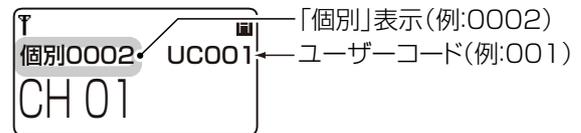
◎基地局呼び出し



基地局呼び出し表示(例:CH01)

通話チャンネル(例:CH 01)とユーザーコード(例:UC 001)が同じで、呼び出す基地局(例:Dさん)の自局番号(例:0099)を指定して呼び出します。

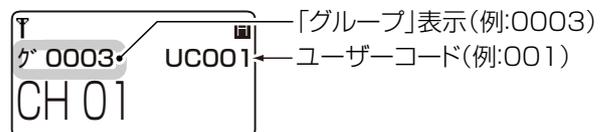
◎個別呼び出し



個別呼び出し表示(例:CH01)

通話チャンネル(例:CH 01)とユーザーコード(例:UC 001)が同じで、呼び出す相手局(例:Bさん)の自局番号(例:0002)を指定して呼び出します。

◎グループ呼び出し



グループ呼び出し表示(例:CH01)

通話チャンネル(例:CH 01)とユーザーコード(例:UC 001)が同じで、メンバー指定されたグループ番号(例:0003)に所属するすべての相手(例:Cさん/Dさん)を呼び出します。

★同じグループ番号で、そのグループ番号にメンバー指定を設定している受信局だけが、送信局からの音声を聞けます。

メンバー指定の変更は、詳細設定モードから設定できます。

6 個別呼び出し機能による通話

■ 個別呼び出し機能を設定するには

通話に使用するすべての無線機で設定が必要です。

※説明で使用する設定値は、6-1ページの【使用例】に記載の値を使用しています。

1 詳細設定モードにする

- ① 本製品の電源を切ります。
- ② [全⇄基]キーと[機能/Ⓜ-○]キーを同時に押しなが、[電源]キーを押しつづけます。



- ③ 「詳細設定」と表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。
- ※ 詳細設定モードに移行しているときは、呼び出しを受信できません。



2 個別呼び出し機能を「ON」にする

- ① [▲]/[▼]キーを繰り返し押しして、「個別呼出」を選択します。
- ② [決定]キーを押します。
- ③ [▲]/[▼]キーを繰り返し押しして、「ON」を選択します。
- ④ [決定]キーを押します。



※ 個別呼び出し機能で使用するすべての無線機(使用例: Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)に設定してください。

3 自局番号を設定する

自局番号とは、自分が個別呼び出しを受けるための番号です。

- ① [▲]/[▼]キーを繰り返し押しして、「自局番号」を選択します。
- ② [決定]キーを押します。
- ③ [▲]/[▼]キーを繰り返し押しして、自局番号を選択します。
 - 選択範囲: 個別0001～個別0245
- ④ [決定]キーを押します。



自局番号表示
(例: 個別0001)

【設定例】

個別呼び出し機能で使用するすべての無線機(使用例: Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)に設定してください。

Aさん(自局) : 0001 Bさん(相手局) : 0002
Cさん(相手局) : 0003 Dさん(基地局) : 0099

4 基地局番号を設定する

基地局番号とは、基地局として指定された局の番号です。

- ① [▲]/[▼]キーを繰り返し押しして、「基地局番号」を選択します。
- ② [決定]キーを押します。
- ③ [▲]/[▼]キーを繰り返し押しして、基地局番号を選択します。
 - 選択範囲: 個別0001～個別0245
- ④ [決定]キーを押します。



基地局番号表示
(例: 個別0099)

6 個別呼び出し機能による通話

■ 個別呼び出し機能を設定するには(つづき)

5 グループ呼び出しを設定する

ここで指定したグループ番号の相手から呼び出しがあったとき、着信を許可するグループ番号を指定します。

① **[▲]/[▼]**キーを繰り返し押し
して、「グループ設定」を選択
します。



② **[決定]**キーを押します。

③ **[▲]/[▼]**キーを繰り返し押し
して、指定するグループ番号
を選択します。



- 選択範囲: グ0001～
グ0010

④ 選択したグループ番号(例:
グ 0002)を表示した状態
で、**[決定]**キーを押します。



メンバー指定の状態

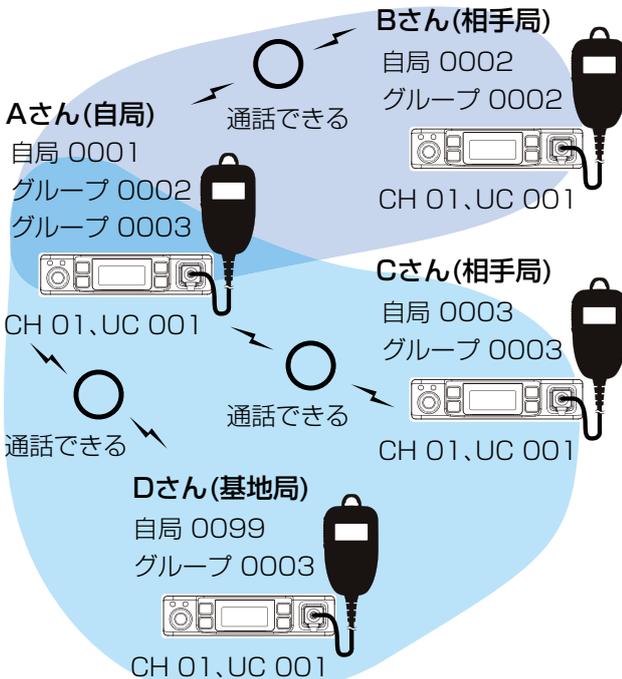
- メンバー指定を意味する「」を表示します。
- ※ 複数のグループからの呼び出しを受けるときは、
③と④の操作を繰り返します。

【メンバー指定するグループ番号の例】

グループ呼び出しで使用するすべての無線機(使用例:Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)にメンバー指定してください。

- Aさん(自局) : グループ0002/グループ0003
- Bさん(相手局) : グループ0002
- Cさん(相手局) : グループ0003
- Dさん(基地局) : グループ0003

図の  は、Aさん(自局)が呼び出しできるグループを意味します。



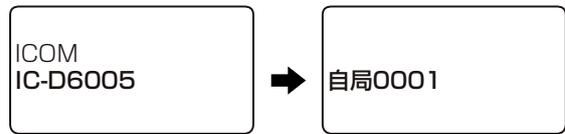
6 変更した設定値を確定する

2～5 のステップで変更し
た設定値を確定するために、
[PTT](送信)スイッチを押し
ます。



- 詳細設定モードが解除さ
れ、「IC-D6005」が表示されたあと、設定した自局番
号(約1秒)が表示されます。

【自局番号表示例】



電源投入直後

自局番号の表示例

- ※ 自局番号表示後に表示される内容は、電源を切る前の表示
(通話チャンネル/個別番号/グループ番号)によって異なり
ます。

6 個別呼び出し機能による通話

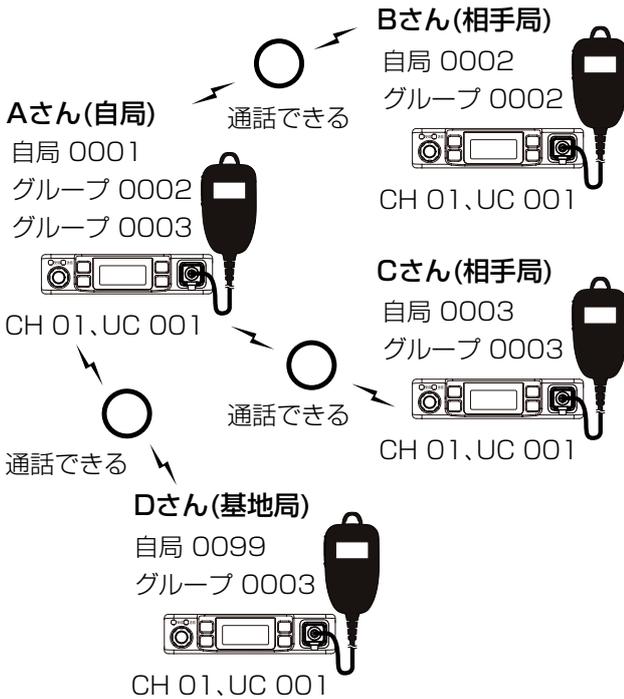
■ 個別呼び出し機能で通話するには

個別番号(相手の自局番号)やグループ番号を指定して相手局と通話する方法について、説明します。

※ 個別呼び出し機能がすべての無線機に設定(※P6-2～P6-3)されているものとして説明しています。

【Aさんから呼び出す場合の使用例】

通話チャンネル番号と、呼び出す相手(全体/基地/個別/グループ番号)を選択してから送信します。

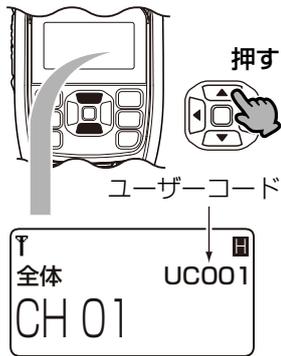


1 通話チャンネルを合わせる

【▲】/【▼】キーを押して、通話相手と同じ通話チャンネルを選択します。

(表示例: 全体呼び出し)

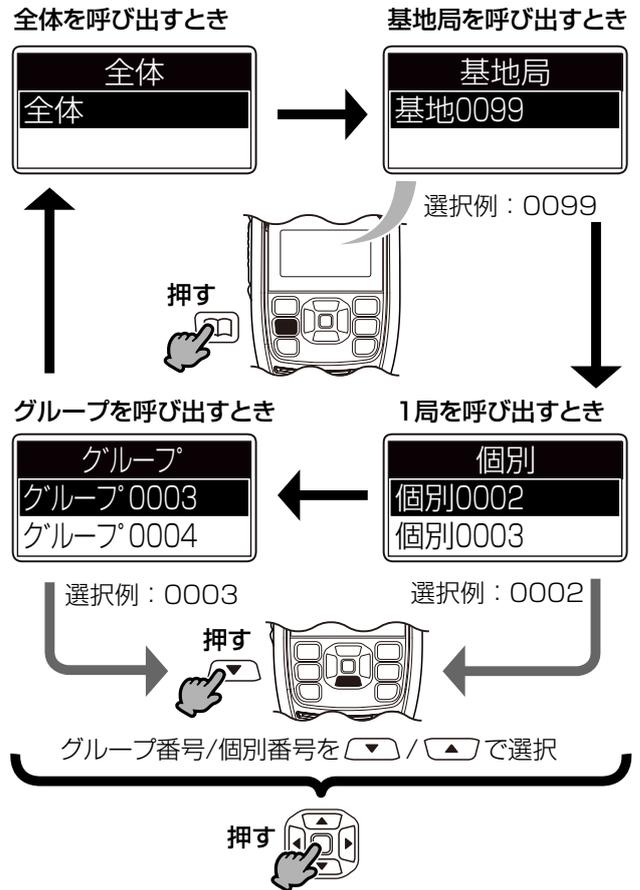
※ 選択した通話チャンネルで表示されるユーザーコードと異なる相手とは、通話できません。



ユーザーコードが設定された通話チャンネルの選択
(例: CH 01、UC001)

2 全体/基地/個別/グループ番号の選択

① 下記の操作で、呼び出す相手を選択します。



② 選択されていることを確認します。

◎ 全体を選択した場合

「全体」表示



◎ 基地局を選択した場合

「基地」表示

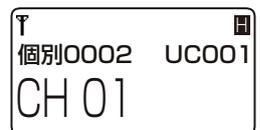
(例: 基地0099)



◎ 1局(個別)を選択した場合

「個別」表示

(例: 個別0002)



◎ グループ番号を選択した場合

「グループ」表示

(例: グ 0003)



6 個別呼び出し機能による通話

■ 個別呼び出し機能で通話するには(つづき)

3 呼び出しをする(送信する)

【ご注意】

【送・受】ランプが緑色に点灯しているときは、音声がかえなくても、ほかの無線局が通話していることがあります。

この状態で、【PTT】(送信)スイッチを押しても、混信防止(キャリアセンス)機能(※P3-2)が動作して、送信できないようになっています。

※【送・受】ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。

消灯を確認



【PTT】(送信)スイッチを押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

- 【PTT】(送信)スイッチを押しているあいだは、【送・受】ランプが赤色に点灯します。



全体呼び出しで送信



基地局呼び出しで送信



個別呼び出しで送信



グループ呼び出しで送信

【相手局が通話圏内かどうかを確認するには】

基地局、または個別番号を選択したあと、【PTT】(送信)スイッチを短く押します。

- 通話圏内にいる場合、「ピッ」と鳴り、【送・受】ランプが緑色に1回点滅します。通話圏外など、相手に電波が届かない状態が5秒つづくと、基地局、または個別番号を選択したときの表示に戻ります。

緑色に1回点滅



短く押す

「ピッ」

4 呼び出しを受ける(受信する)

【PTT】(送信)スイッチをはなすと、待ち受け状態になります。

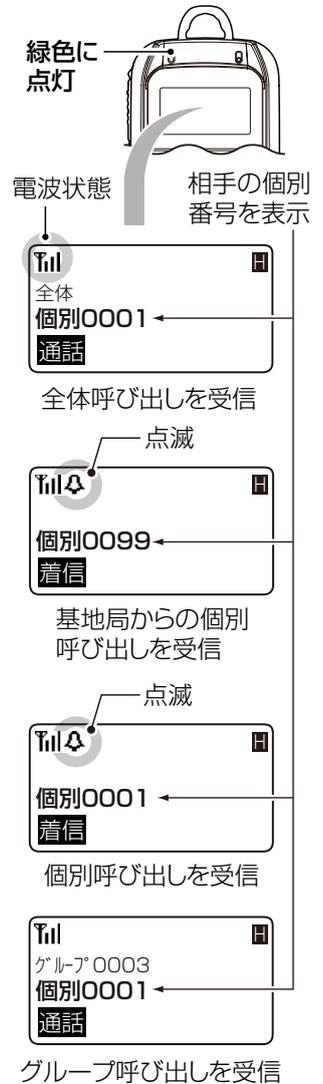
◎待ち受け状態のときは、【送・受】ランプが消灯しています。

◎電波を受信中は、【送・受】ランプが緑色に点灯します。

※音声がかえなくても、ほかの無線局が通話しているときは、【送・受】ランプが緑色に点灯します。

【応答するときには】

【送・受】ランプが消灯して、待ち受け状態になってから、【PTT】(送信)スイッチを押します。



全体呼び出しを受信

基地局からの個別呼び出しを受信

個別呼び出しを受信

グループ呼び出しを受信

7 そのほかの機能について

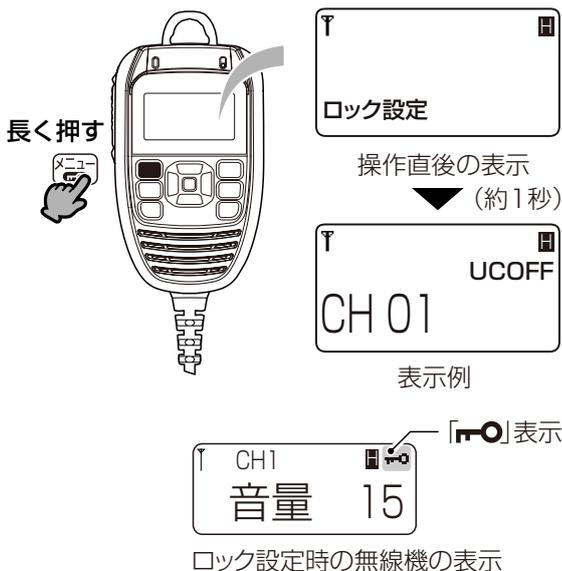
■ ロック機能

電源を入れなおしたり、不用意に、コマンドマイク(HM-206 #02)のキー、無線機のキーやツマミに触れたりしても、設定や表示が変わらないようにします。

【操作のしかた】

「ビピッ」と鳴るまで、[メニュー/Ⓜ]キーを長く(約1秒)押しします。

※ 同じ操作をすると、解除できます。



〈ロック中にできる操作〉

- ◎ ロック機能の解除
- ◎ 送信/受信の切り替え
- ◎ 電源のON/OFF
- ◎ モニター機能のON/OFF
- ※ エマージェンシー機能(☞P7-13)は、ロック中でも操作ができます。
- ※ 音量調整もロックする場合は、詳細設定モードの[キーロック時音量](☞P8-8)で設定を変更できます。

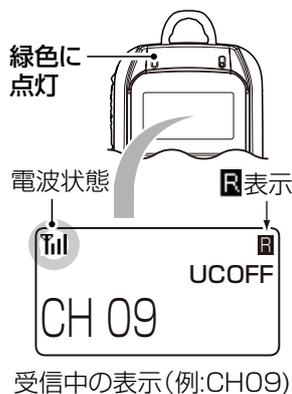
■ 受信専用機能

移動機への呼び出しや応答を禁止したいときなど、無線機の通話チャンネルを受信専用で使用できます。

※ 「📶」表示された通話チャンネルでは、呼び出しや応答ができません。

※ 受信専用機能をご使用になるには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。



■ モニター機能

モニター機能は、次のような場合に使用します。

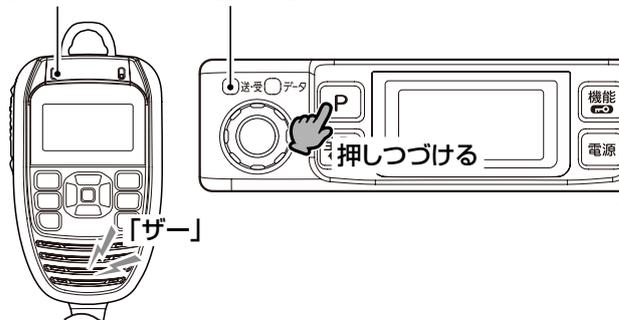
- ◎ 信号を受信していない状態で、「ザー」という音を聞きながら音量を調整するとき
- ◎ ユーザーコード、個別番号、グループ番号が異なる他局の通話を聞くととき
- ※ 他局が秘話機能を使用している場合は、秘話処理された電子音が聞こえるだけです。

【操作のしかた】

[P](プログラム)キーを押しているあいだ、モニター機能が動作します。

※ [P](プログラム)キーの動作が、モニター機能以外の操作に割り当てられているときは、動作しません。

[P](プログラム)キーを押しているあいだ緑色に点灯



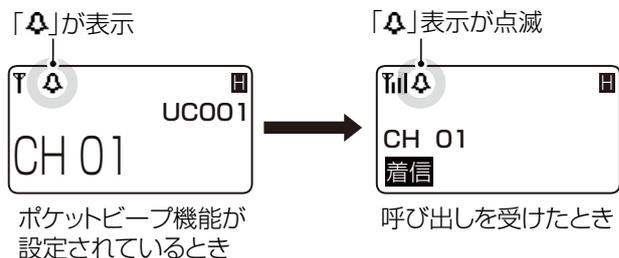
■ ポケットビープ機能

ユーザーコードや個別呼び出し機能が設定されている場合、使用できる機能です。

呼び出しを受けたとき、「📶」表示が点滅に変わります。同時に、ビープ音、またはメロディーで通知します。

※ ポケットビープ機能をご使用になるには、設定が必要です。

詳細設定モードから設定を変更できます。(☞P8-3)



◎ ユーザーコードと個別呼び出し機能を併用している場合も、基地局呼び出し、または個別呼び出しを受けると「📶」表示が点滅に変わります。

◎ 呼び出しを受けたとき、ビープ音、またはメロディーを停止するときは、[電源]キーや無線機本体のツマミ以外の操作で停止できます。

◎ ポケットビープ機能が設定されていない状態で、基地局呼び出し、または個別呼び出しを受けたときは、ビープ音、またはメロディーは鳴らず、呼び出した相手の個別番号と、「📶」表示の点滅だけになります。

7 そのほかの機能について

■ 呼び出しメロディー機能

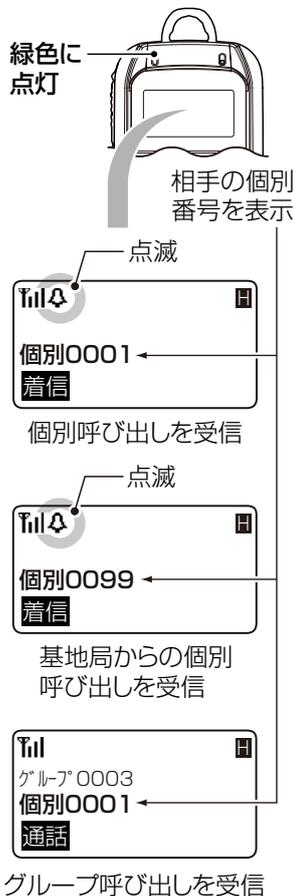
個別呼び出し、またはグループ呼び出しを受けたとき、Pベル機能、ポケットビープ機能、呼出着信音機能★の呼び出し音をメロディー(9種類)に設定できます。

※Pベル機能、ポケットビープ機能のメロディーを変更する場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※呼出着信音機能★の呼び出し音をメロディーに変更する場合は、詳細設定モードから設定できます。(P8-6)

※呼び出しを受けたとき、メロディーを停止するときは、[電源]キーや無線機本体のツマミ以外の操作で停止できます。

★呼出着信音機能とは、個別番号(最大10局)、グループ番号(最大10局)で、異なる呼び出し音が設定できる機能です。



■ 着信表示

ユーザーコードや個別呼び出しを受けたとき、[送・受]ランプが橙色に点滅します。

[戻る]キーを押すと、点滅が停止します。

※ご使用になるには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。



■ 受信電波強度通知機能

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信信号の強度が弱くなり、相手の音声が届かない状態になると、「ピンポン」と通知音が鳴ります。

※通知音が鳴ったときは、場所を移動して通話してください。

受信信号の強度が強くなり、ふたたび信号を受信できるようになると、通知音は止まります。

※受信電波強度通知機能をご使用になるには、設定が必要です。

詳細設定モードから設定を変更できます。(P8-1)

■ 送信出力の切り替え機能

無線機の送信出力を切り替えできる機能です。

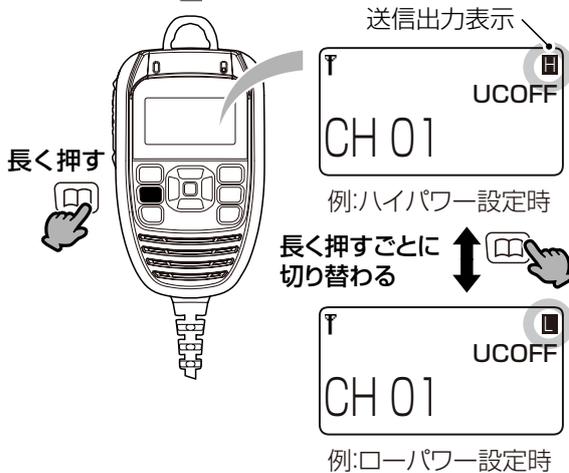
※送信出力の切り替え機能をご使用になるには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【操作のしかた】

「ピピッ」と鳴るまで、[個別番号帳]キーを長く(約1秒)押しします。

※長く(約1秒)押しすごとに、ハイパワー(5W:[H])とローパワー(1W:[L])が切り替わります。



7 そのほかの機能について

■ ショートメッセージ機能

個別呼び出し機能で呼び出しをするとき、あらかじめ設定されたショートメッセージを送信できます。

※ショートメッセージを送信するには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※ショートメッセージの受信だけに使用する場合は、個別呼び出し機能(☞P6-1)が設定されていれば、受信できます。

【ショートメッセージの送りかた】

下記の1～4の手順で操作します。

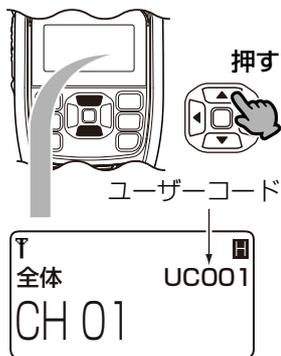
※受信したショートメッセージの確認方法は、5の手順(☞P7-5)で説明しています。

1 通話チャンネルを合わせる

[▲]/[▼]キーを押して、通話相手と同じ通話チャンネルを選択します。

(表示例:全体呼び出し)

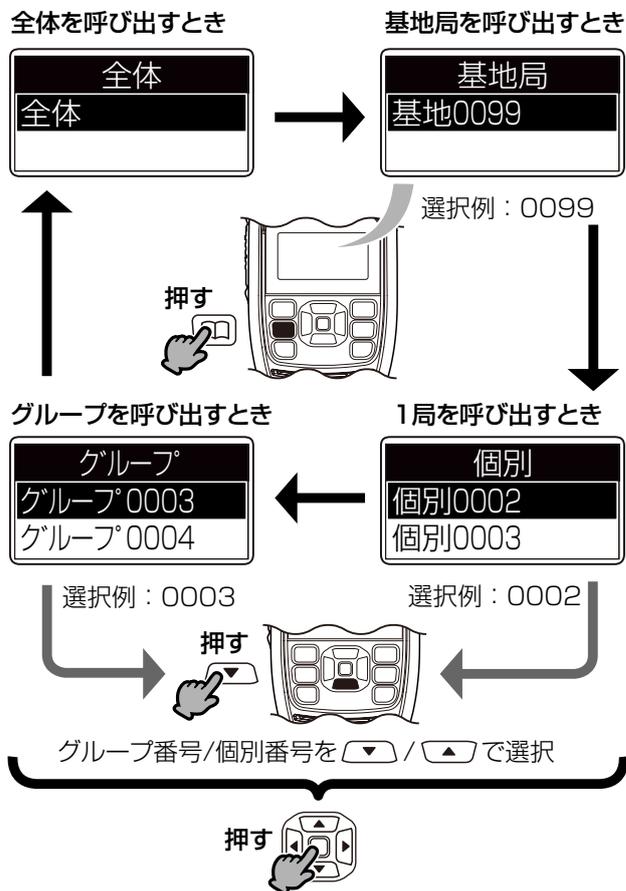
※選択した通話チャンネルで表示されるユーザーコードと異なる相手とは、通話できません。



ユーザーコードが設定された通話チャンネルの選択
(例:CH 01、UC001)

2 全体/基地/個別/グループ番号の選択

①下記の操作で、呼び出す相手を選択します。



②選択されていることを確認します。

◎全体を選択した場合

「全体」表示



◎基地局を選択した場合

「基地」表示

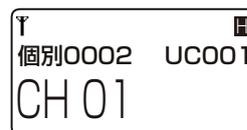
(例:基地0099)



◎1局(個別)を選択した場合

「個別」表示

(例:個別0002)



◎グループ番号を選択した場合

「グループ」表示

(例:グ 0003)



7 そのほかの機能について

■ ショートメッセージ機能

【ショートメッセージの送りかた】(つづき)

3 メッセージの選択

①【メニュー/□○】キーを短く押します。

- メニュー画面が表示されます。

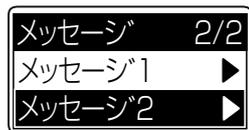


②【決定】キーを押します。

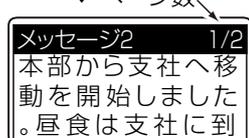
- 選択できるメッセージの番号(例:メッセージ1、メッセージ2)を表示します。



例:メッセージ1が選択された状態



例:メッセージ2が選択された状態



例:送信する内容
1/2ページ目

【ご参考】

登録されたメッセージ(例:メッセージ2)を確認する場合は、【決定】キーを押します。

次に、【▲】/【▼】キーを押すと、全文章を確認できます。

4 ショートメッセージを送る

【ご注意】

【送・受】ランプが緑色に点灯しているときは、音声が聞こえなくても、ほかの無線局が通話していることがあります。

この状態で、【PTT】(送信)スイッチを押しても、混信防止(キャリアセンス)機能(※P3-2)が動作して、送信できないようになっています。

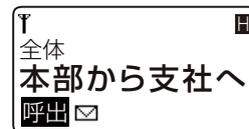
※【送・受】ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。

消灯を確認



メッセージの内容が表示された状態で、【PTT】(送信)スイッチを押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

- 【PTT】(送信)スイッチを押しているあいだは、【送・受】ランプが赤色に点灯します。同時に、メッセージが通話相手に送信されます。



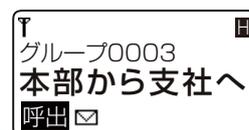
全体呼び出しで送信



基地局呼び出しで送信



個別呼び出しで送信



グループ呼び出しで送信

【メッセージを送りなおすには】

手順3の操作に戻って、メッセージを選択してから、呼び出しをしてください。

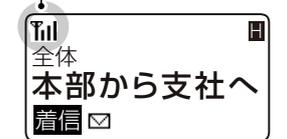
7 そのほかの機能について

■ ショートメッセージ機能

【ショートメッセージの送りかた】(つづき)

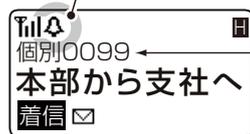
5 受信したショートメッセージの確認

- ① ショートメッセージ付きの個別呼び出しを受信すると、メッセージの先頭部分を、右図のように、表示します。



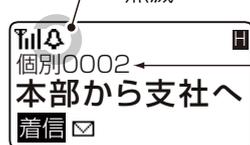
電波状態

全体呼び出しを受信



点滅

基地局からの個別呼び出しを受信



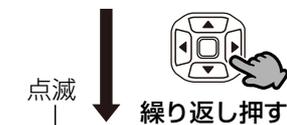
点滅

個別呼び出しを受信



グループ呼び出しを受信

- ② [◀]/[▶] キーを押すと、メッセージの内容を確認できます。

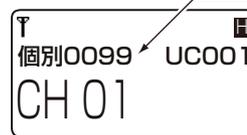


メッセージの確認
(例:個別呼び出しを受信)

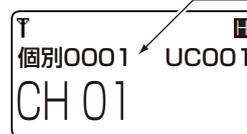
- ③ [戻る] キーを押します。
● 呼び出しを受けた相手の個別番号表示に戻ります。
※ [戻る] キーを押すまで、応答できません。



全体への応答



基地局への応答



個別への応答



グループへの応答

- ④ [PTT] (送信) スイッチを押しながら、マイクに向かって、通話相手に応答します。
● [PTT] (送信) スイッチを押しているあいだは、[送・受] ランプが赤色に点灯します。



7 そのほかの機能について

■ 拡声器機能

[P] (プログラム) キーに拡声器機能が割り当てられているとき、本製品を拡声器として使用できます。

※使用するには、詳細設定モードから、[P] (プログラム) キーの[Pキー短押し]、または[Pキー長押し]の動作を「拡声器」に設定してください。

※拡声器機能をお使いになるときは、必ず別売品の外部スピーカー(SP-30、SP-35)を無線機に接続してください。

※拡声器機能がONの状態、自局宛ての呼び出しを受信したときは、拡声器機能が解除され、通常の通話ができます。

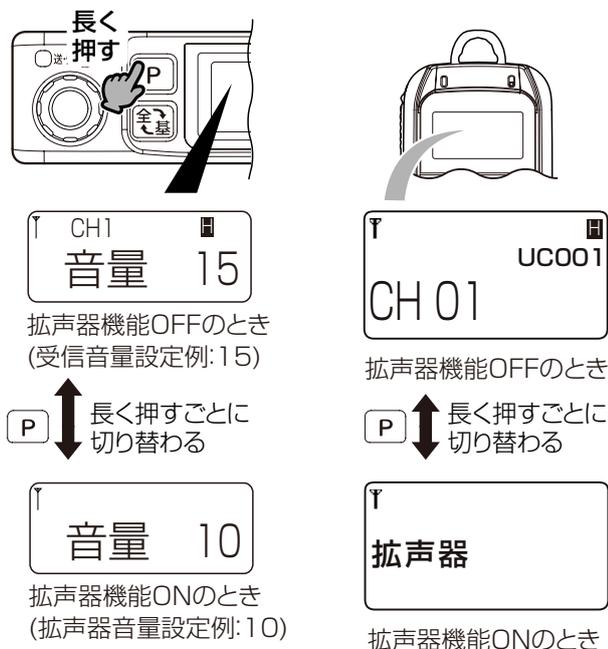
外部スピーカーの設定は、呼び出しを受信したとき、相手の音声が無線機に接続されたマイクロホンから聞けるように、設定モードの[スピーカー出力]項目(☞P8-9)から、設定を「全てのSP」、または「SPマイクのみ」に変更してください。

【操作のしかた】

本書では、[P] (プログラム) キーを長く押ししたとき、動作するように割り当てられているものとして説明します。

- ① [P] (プログラム) キーを長く押しします。
 - 「拡声器」とコマンドマイク(HM-206 #02)に表示されます。

切り替えるときは、無線機本体を操作します。



※拡声器機能OFFのときは、受信音量を調整できます。
拡声器機能ONのときは、拡声器音量を調整できます。

- ② [PTT] (送信) スイッチを押しながら、マイクロホン(HM-206 #02)に向かって話します。

●外部スピーカーから、音声が出力されます。

※音声は、送信されません。



【マイク分岐BOX使用时】

マイク分岐BOX(別売品:OPC-2330)に接続しているマイクロホン(HM-204)からも拡声器の音声が聞こえます。

※マイク分岐BOXに接続したマイクロホンは、拡声器のマイクとして使用できません。

※マイク分岐BOX(別売品:OPC-2330)については、弊社ホームページに掲載されているIC-D6005取扱説明書(PDFファイル)をご覧ください。

- ③ 無線で呼び出したい場合は、[P] (プログラム) キーを長く押しします。

●拡声器機能が解除されます。

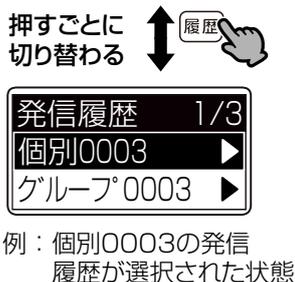
※拡声器の使用中は、呼び出しができません。

■ 発着信履歴機能

個別呼び出し、およびグループ呼び出しを送受信したとき、個別番号(相手の自局番号)やグループ番号、ショートメッセージや相手の位置情報が記憶されます。記憶された個別番号は、呼び出しに利用できます。
 ※発着信履歴機能をご使用になるには、設定が必要です。設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【発着信履歴を使用して、呼び出しをするには】

- ①【履歴】キーを繰り返し押し、「着信履歴」、または「発信履歴」を選択します。
 ※設定されていない場合や履歴がない場合は、選択できません。



- ②発信履歴、または着信履歴が2件以上の場合は、【▲】/【▼】キーを押して選択します。
 ※上から順に最新の履歴として記憶されています。



- ③呼び出す相手の履歴を選択した状態で、【PTT】(送信)スイッチを押しながら、相手に呼びかけます。
 ●【送・受】ランプが赤色に点灯します。

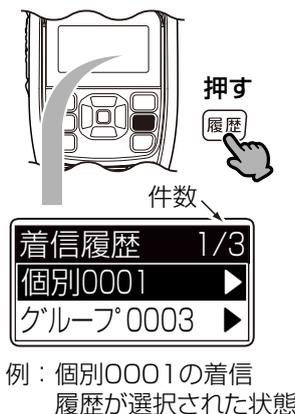


【発着信履歴件数と履歴の消去について】

- ◎発信履歴、着信履歴を各10件まで記憶できます。10件を超えると、古い履歴から削除されます。
- ◎全体呼び出しの場合は、着信履歴を記憶しません。
- ◎発着信履歴の消去は、設定モードからできます。(☎P8-5)

【発着信履歴からショートメッセージを確認するには】

- ①【履歴】キーを繰り返し押し、「着信履歴」、または「発信履歴」を選択します。
 ※設定されていない場合や履歴がない場合は、選択できません。
 ※発信履歴、または着信履歴が2件以上の場合は、【▲】/【▼】キーを押して選択します。



- ②【決定】キーを押します。
 ●ショートメッセージが表示されます。
 ※【PTT】(送信)スイッチを押すと呼び出せません。
 ※履歴に登録されたショートメッセージは、送れません。



【発着信履歴の内容や件数に異常があるときは】

設定モードの【発着履歴消去】項目(☎P8-5)から履歴を消去してください。それでも改善しない場合は、全設定を初期化(☎P9-1)してください。

7 そのほかの機能について

■ 発着信履歴機能(つづき)

【発信履歴からGPS情報の送信時間を確認するには】

① **【履歴】** キーを繰り返し押し、「発信履歴」を選択します。

※設定されていない場合や履歴がない場合は、選択できません。

※発信履歴が2件以上ある場合は、**【▲】**/**【▼】** キーを押して選択します。



発信履歴表示を選択
(例:個別0099)

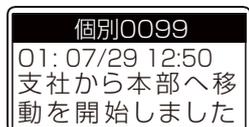


ショートメッセージなし



位置情報を送信した時刻の発信履歴表示例

ショートメッセージあり



位置情報とショートメッセージを送信した時刻の発信履歴表示例

② **【決定】** キーを押します。

●GPS情報を送信した時刻が表示されます。

※GPS衛星からの信号を測位できない状態で送信したときは、時刻は履歴として表示できません。

※ショートメッセージと併せて送信したときの履歴では、その内容も確認できます。

【着信履歴からGPS情報を確認するには】

① **【履歴】** キーを繰り返し押し、「着信履歴」を選択します。

※設定されていない場合や履歴がない場合は、選択できません。

※着信履歴が2件以上ある場合は、**【▲】**/**【▼】** キーを押して選択します。



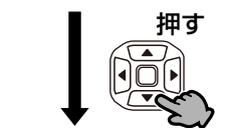
着信履歴表示を選択
(例:個別0001)



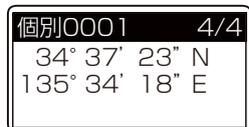
ページ数



位置情報とショートメッセージを受信した時刻の受信履歴表示例



相手との距離と方位の表示例



相手の緯度と経度の表示例

② **【決定】** キーを押します。

●GPS情報を受信した時刻が表示されます。

※ショートメッセージと併せて受信したときの履歴では、その内容も表示されます。

③ GPS情報が表示されるまで、**【▼】** キーを繰り返し押しします。

7 そのほかの機能について

■ プライベートチャンネル機能

特定の通話チャンネルをプライベートチャンネル(例:呼出CH)に設定することで、よく利用する通話チャンネル(例:CH 05)との切り替えが簡単になります。

※使用するには、詳細設定モードから、[P-CH機能]の設定(初期設定値:OFF)を「ON」、[P] (プログラム)キーの[Pキー短押し]、または[Pキー長押し]の動作を「P-CH」に設定してください。(☞P8-7)

※プライベートチャンネル番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、[P] (プログラム)キーの操作は無効です。

[操作のしかた]

◎[P-CH]を[Pキー短押し]に設定した場合

[P] (プログラム)キーを短く押すごとに、通話チャンネル(例:CH 05)とプライベートチャンネル(例:呼出CH)が切り替わります。

◎[P-CH]を[Pキー長押し]に設定した場合

[P] (プログラム)キーを長く(約1秒)押すごとに、通話チャンネル(例:CH 05)とプライベートチャンネル(例:呼出CH)が切り替わります。

無線機本体の[P]キーを押します。



通話チャンネル番号
(設定例:CH5)

↓ [P]キー



プライベートチャンネル表示

↓ 約1秒後



プライベートチャンネル番号★
(設定例:呼出CH)



通話チャンネル番号
(設定例:CH5)

↓ [P]キー



プライベートチャンネル番号★
(設定例:呼出CH)

★工場出荷時やユーザーリセット時、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)がプライベートチャンネルに設定されています。

詳細設定モードから設定を変更できます。(☞P8-1)

■ プライベートチャンネルスキャン機能

よく利用する通話チャンネル(例:CH 05)を受信しながら、プライベートチャンネル番号(例:呼出CH)を一定の時間ごとに受信(監視)できます。

※使用するには、詳細設定モードから、[P-CH機能]の設定(初期設定値:OFF)を「ON」、[P] (プログラム)キーの[Pキー短押し]、または[Pキー長押し]の動作を「P-CHスキャン」に設定してください。(☞P8-7)

[操作のしかた]

◎[P-CHスキャン]を[Pキー短押し]に設定した場合

[P] (プログラム)キーを短く押します。

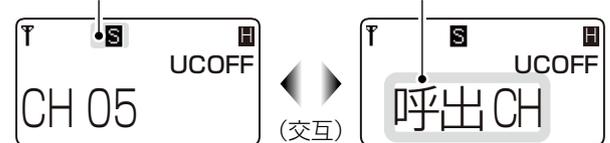
◎[P-CHスキャン]を[Pキー長押し]に設定した場合

[P] (プログラム)キーを長く(約1秒)押します。

「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)をプライベートチャンネルに設定したときは、下記のように切り替わります。

スキャン中点滅

例:呼出用チャンネル



通話チャンネル番号

プライベートチャンネル番号

[プライベートチャンネルスキャンを解除するには]

コマンドマイク(HM-206 #02)の[決定]

キーを押します。



※スキャン開始と同じ操作でもスキャンを解除できます。

※電源を入れなおしても、解除されません。

[プライベートチャンネルスキャンの動作について]

◎プライベートチャンネルスキャン中は「S」が表示され点滅します。

◎プライベートチャンネル番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、スキャンしません。

◎スキャン中は、通話チャンネルで待ち受け中、2秒ごとにプライベートチャンネルをスキャンします。スキャン中に緊急呼び出しをすると、スキャン動作を解除して、通話チャンネルで緊急信号を送信します。

◎電波を受信中は、詳細設定モードのスキャン停止時間とスキャン再開時間の設定にしたがってスキャンします。(☞P8-8)

このとき、緊急呼び出しをすると、スキャン動作が解除されます。

◎プライベートチャンネル(☞P8-7)に上空用チャンネル(CH S1~CH S5)が設定されている場合は、上空用チャンネルをプライベートチャンネルスキャンの対象にできます。

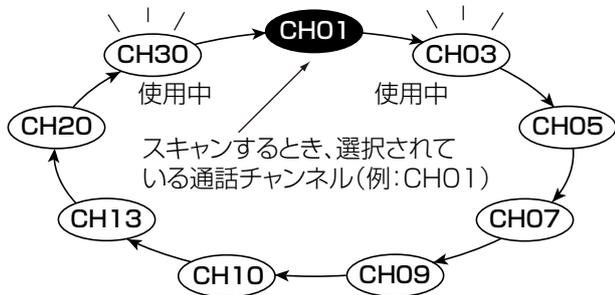
※上空用チャンネルの設定は販売店にご依頼ください。

◎スキャン中に呼び出す場合は、通話チャンネルで送信します。

7 そのほかの機能について

■ メモリーチャンネルスキャン機能

通話チャンネルを自動で切り替えて、使用中の通話チャンネルを探し出す機能です。



○ は、スキャンの対象に設定された通話チャンネル

※スキャン対象外の通話チャンネル(例:CH01)が選択されている状態でスキャンを開始させたときは、その通話チャンネルも含めてスキャンします。

※使用するには、詳細設定モードから、**[P]**(プログラム)キーの[Pキー短押し]、または[Pキー長押し]の動作を「M-CHスキャン」に設定してから、[スキャン/サーチCH]でスキャンの対象にするチャンネルを設定してください。(P8-7、P8-8)

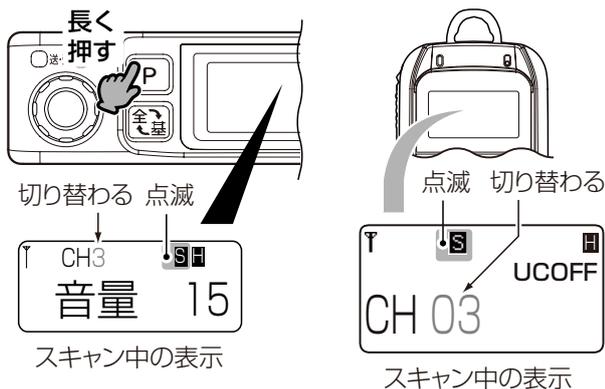
※本書では、**[P]**(プログラム)キーを長く押したとき、動作するように割り当てされているものとして説明します。

【操作のしかた】

[P](プログラム)キーを長く押します。

●スキャンを開始します。

スキャンするときは、無線機本体を操作します。



【メモリーチャンネルスキャンを解除するには】

[P](プログラム)キーを長く、またはコマンドマイク(HM-206 #02)の**[決定]**キーを押します。

●スキャンをする直前に選択されていた通話チャンネルを表示します。

※電源を入れなおしても、スキャンは解除されません。

解除するときは、下記のどちらかで操作します。



スキャンを解除したときの表示



スキャンを解除したときの表示

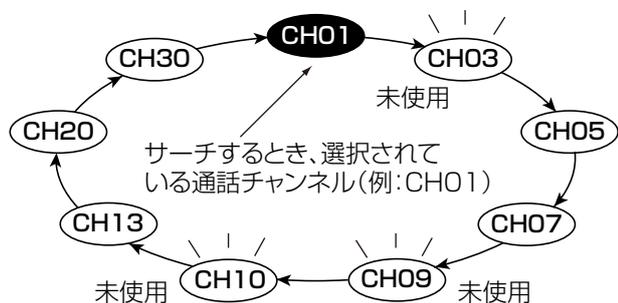
【メモリーチャンネルスキャンの動作について】

- ◎スキャンの対象に設定された通話チャンネルが1件だけで、その通話チャンネルと同じ番号を選択しているときは、スキャンしません。
- ◎スキャン中に緊急呼び出しなど、送信をすると、スキャン動作を解除して、スキャンをする直前に選択されていた通話チャンネルで呼び出しをします。
- ◎スキャン中は、個別呼び出しや緊急呼び出しを正しく受信できないことがあります。
- ◎受信状態が10秒つづいたら、スキャンを再開します。10秒経過するまでに信号がなくなり、その状態が5秒つづいたら、スキャンを再開します。スキャン停止時間と再開時間の設定変更については、お買い上げの販売店にご依頼ください。

7 そのほかの機能について

■ 空きチャンネルサーチ機能

通話チャンネルを自動で切り替えて、使用していない通話チャンネルを探し出す機能です。



※【P】(プログラム)キーに空きチャンネルサーチ機能が割り当てられているとき、使用できます。

なお、空きチャンネルサーチ機能が割り当てられている場合でも、コマンドマイク(HM-206 #02)が接続されていないときは、動作しません。

※使用するには、詳細設定モードから、【P】(プログラム)キーの[Pキー短押し]、または[Pキー長押し]の動作を「E-CHサーチ」に設定してから、[スキャン/サーチCH]でサーチの対象にするチャンネルを設定してください。
(P8-7、P8-8)

※本書では、【P】(プログラム)キーを長く押したとき、動作するように割り当てされているものとして説明します。

【空きチャンネルサーチの動作について】

◎サーチの対象に設定された通話チャンネルが1件だけで、その通話チャンネルと同じ番号を選択しているときは、サーチしません。

◎サーチ中、または右図のようなサーチ結果が表示されている状態では、【決定】キーを押して、その表示を解除するまで、送信や緊急呼び出しができません。



空きチャンネルサーチ完了時の表示例

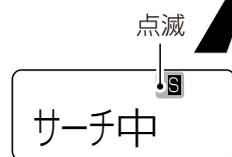
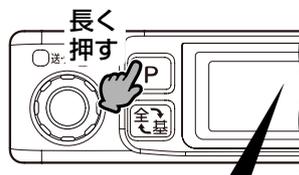
また、自局宛での呼び出しを受けたときも、【送・受】ランプが点灯しますが、サーチする前の表示に戻すまで、音声は聞こえません。

【操作のしかた】

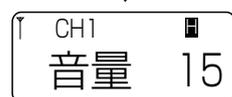
【P】(プログラム)キーを長く押しします。

●サーチ中を表示します。

サーチを開始するときは、無線機本体を操作します。



サーチ中の表示



サーチ終了後の表示



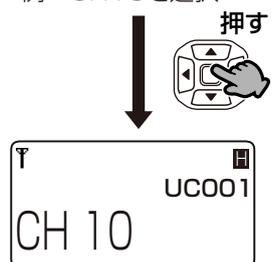
サーチ中の表示



空きチャンネルサーチ完了時の表示例



例：CH10を選択



例：CH10を表示

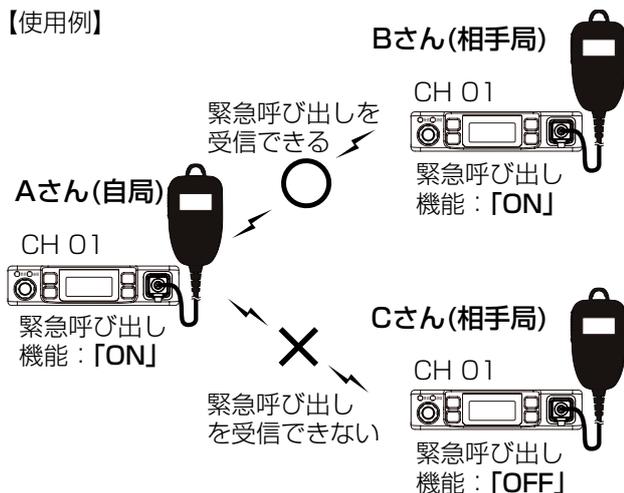
■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)

迅速な連絡が必要な場合、自分と同じ通話チャンネルで緊急呼び出し機能が設定された相手に、緊急表示と警告音で通知できます。

※緊急呼び出し機能をご使用になるには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【使用例】



△警告

緊急呼び出し機能(エマージェンシー)は、大きな音量の警告音が連続で鳴ります。

【◀/▶】キーを押して、適切な音量レベルになっていることを確認してください。

【緊急呼び出し機能を正しく使用するには】

◎呼び出し用IDが一致する相手局を一斉に呼び出すことができます。

工場出荷時、すべての無線機に同じ呼び出し用IDが設定されていますので、変更が必要な場合は、お買い上げの販売店に、ご依頼ください。

◎緊急呼び出し機能は、送信側と受信側の無線機に設定されているとき、使用できる機能です。

送信側と受信側の両方に設定されていないときは、緊急呼び出しの送信や受信、応答ができません。

◎個別呼び出し機能(※P6-1)が設定されていない無線機から、個別呼び出し機能が設定されている無線機へ緊急呼び出しはできません。

緊急呼び出し機能を使用するときは、送信側と受信側の両方に個別呼び出し機能を設定してください。

下記のような場合、正しく設定されていても緊急呼び出しが通知されなかったり、通知されても警告音が鳴らなかったりすることがあります。

- ◎音量が最小に設定されている場合
- ◎警告音を鳴らさない設定がされている場合
- ◎電波状況の悪化により電波が届かない場合

【マイク分岐BOXを使用しているときは】

マイク分岐BOX(別売品:OPC-2330)に接続しているマイクロホン(HM-204)からも緊急呼び出しができます。

※マイク分岐BOX(別売品:OPC-2330)については、弊社ホームページに掲載されているIC-D6005取扱説明書(PDFファイル)をご覧ください。

7 そのほかの機能について

■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)つづき

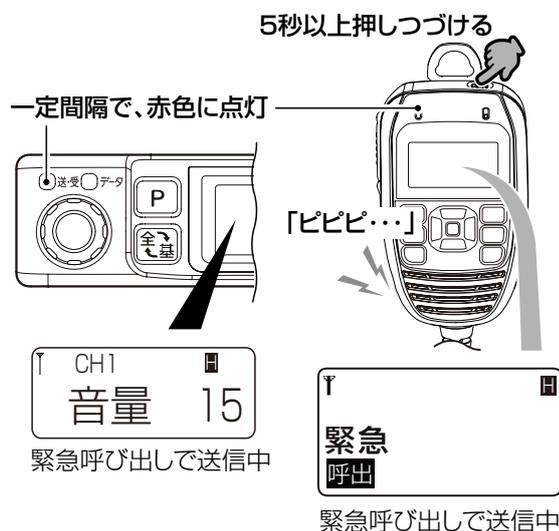
【緊急呼び出しのしかた】

コマンドマイク(HM-206 #02)の**【緊急呼び出し】**キーを長く(5秒以上)押しと、個別呼び出し機能が設定された自分と同じ通話チャンネルの相手へ一斉に緊急呼び出しをします。

※緊急呼び出しに使用する通話チャンネルが、あらかじめ指定されていない場合は、緊急呼び出しの前に、緊急呼び出しをする相手と同じ通話チャンネル番号を選択してください。

①**【緊急】**と表示されるまで、コマンドマイク(HM-206 #02)の**【緊急呼び出し】**キーを長く(5秒以上)押しします。

- 【緊急】**表示の点滅と同時に、警告音が「ピピピ…」と鳴って、一定の間隔ごとに**【送・受】**ランプが赤色に点灯します。



②その状態で、相手局から応答があるのを待ちます。

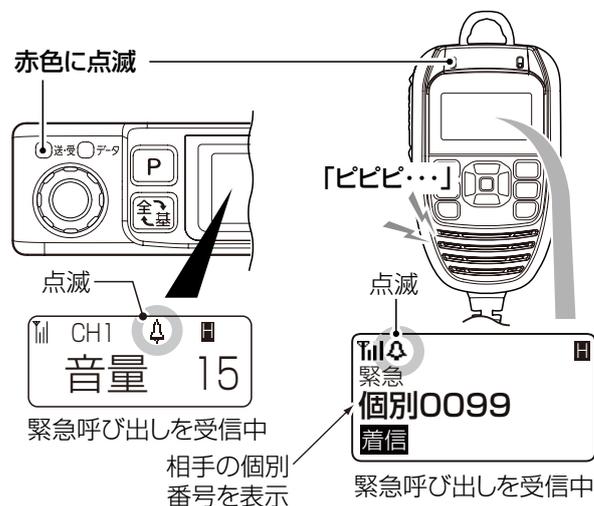
- 応答があると、「呼出」表示が**【通話】**表示に変わり、**【送・受】**ランプが緑色に点灯します。
個別呼び出し機能使用時は、応答した相手の個別番号も併せて表示されます。
- ※応答がない場合は、電源を切ると緊急呼び出しが停止します。

③通話をつづけます。

- 何も操作しない状態が5秒つづくと、終話して、緊急呼び出しをする前の状態に戻ります。

【緊急呼び出しを受けたときは】

- ①警告音が「ピピピ…」と鳴って、**【送・受】**ランプが赤色に点滅します。
また、「緊急」と「相手局番号」を表示します。



②**【PTT】**(送信)スイッチを押して、応答します。

- 応答すると、「着信」表示が**【通話】**表示に変わり、警告音が停止します。
- ※応答しない場合は、電源を切ると緊急呼び出しが停止します。

③通話をつづけます。

- 何も操作しない状態が5秒つづくと、終話して、緊急呼び出しを受信する前の状態に戻ります。

7 そのほかの機能について

■ 録音/再生機能

送信したときの通話、および自局宛ての通話を自動録音、および再生できます。

※録音された最新の内容(最大5分間の録音)は、録音履歴を消去するまで、保持されます。

5分を超えた内容は、その時点で1番古い録音内容を消去しながら録音されます。

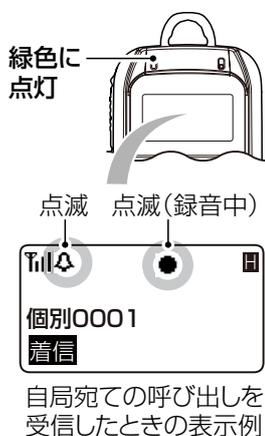
※録音/再生機能の使用、および設定モードから録音履歴を消去できるようにするには、設定が必要です。詳細設定モードから設定を変更できます。(P8-10)

1 呼び出しを受ける(録音開始)

自局宛ての通話を受信すると、自動で録音を開始します。

●【送・受】ランプが緑色に点灯すると同時に、「●」が点滅します。

※自局から呼び出しをした場合でも、呼び出しを受けたときと同様に、「●」が点滅して、自動で録音を開始します。



2 応答する(録音継続)

①【送・受】ランプが消灯し、待ち受け状態を確認します。

●【●】は、点滅をつづけます。

②【PTT】(送信)スイッチを押しながら、マイクに向かって、通話相手に応答します。

●【送・受】ランプが赤色に点灯します。
【●】は、点滅をつづけます。



3 終話する(録音終了)

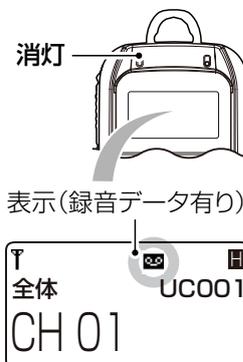
通話が終わったら、【PTT】(送信)スイッチをはなします。

●【送・受】ランプが消灯します。

その後、何も操作しない状態が5秒つづく、「●」が消灯し、「●」が表示されます。

表示は、終話後表示設定★で指定されている表示(例:全体)に戻ります。

★終話後表示設定の変更は、詳細設定モードから設定を変更できます。



終話したときの表示例

(P8-5)

【録音/再生機能の動作について】

◎送信したときの通話、および自局宛ての通話を受信すると自動で録音を開始します。

※個別呼び出し機能を使用時、他局間の通話や呼び出しの音声は出力されますが、録音されません。

◎ユーザーコードや個別番号が一致しない場合など、音声が出力されない通信は、録音されません。

そのとき、再生中の場合は、再生をつづけます。

◎終話するまでの通話を1件として録音します。

録音を一時停止をすると、送信中や受信中に再開しても、別の1件として録音されます。

◎録音時間の合計が5分を超えた場合には、その時点で1番古い録音内容を消去しながら録音されます。

録音件数は、録音時間の合計が5分以内であれば、最大30件です。

◎再生中に自局宛の呼び出しを受信した場合は、再生が停止されると同時に受信音声が出力され、録音を開始します。

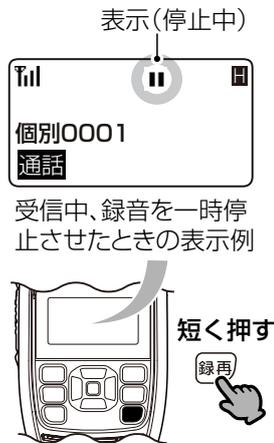
◎緊急呼び出しを送信、または受信したとき、警告音が「ピピピ…」と鳴っているあいだは、「●」が点滅していますが、録音はされません。

応答されたら、録音を開始します。

■ 録音/再生機能(つづき)

【録音を一時停止するには】

待ち受け時、送信、または受信中に、**【録再】**キーを短く押すごとに、録音一時停止と再開が切り替わります。



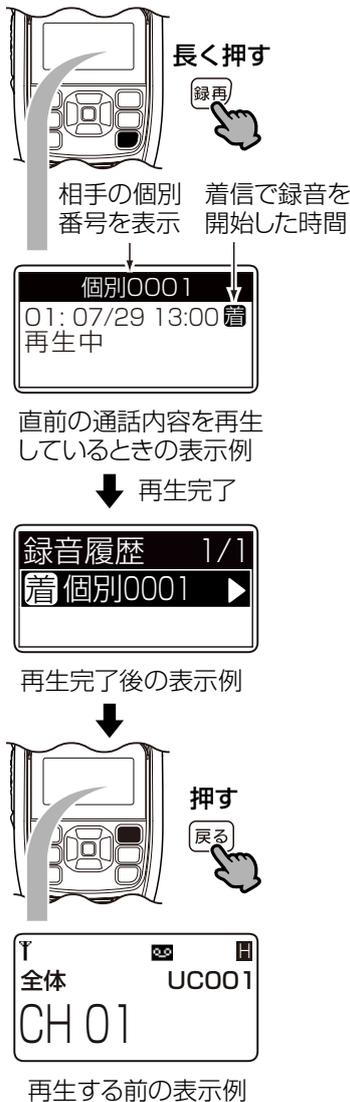
受信中、録音を一時停止させたときの表示例

【直前に録音された内容を再生するには】

① 通話チャンネル番号表で、**【録再】**キーを長く押します。

- 再生が開始されます。

② 再生する前の表示に戻すときは、**【戻る】**キーを押します。



直前の通話内容を再生しているときの表示例

再生完了



再生完了後の表示例



再生する前の表示例

【録音履歴から再生するには】

① **【履歴】**キーを繰り返し押し、「録音履歴」を選択します。

※設定によっては、「着信履歴」→「発信履歴」→「録音履歴」の順に切り替わります。
※設定されていない場合や履歴がない場合は、選択できません。



録音履歴を選択したときの表示例

② 録音履歴が2件以上の場合は、**【▲】**/**【▼】**キーを押して選択します。

※上から順に最新の履歴として記憶されています。



不在着信の録音履歴を選択したときの表示例

③ **【決定】**キーを押します。

- 再生が開始されます。



不在時の通話内容を再生しているときの表示例

④ 再生する前の表示に戻すときは、**【戻る】**キーを押します。



再生する前の表示例

【「着」、「発」、「不」の説明】

「着」：自局宛での着信に回答して、終話するまでの通話

「発」：自局から呼び出しをして、終話するまでの通話

「不」：自局宛での着信に回答できず、終話したときの通話

7 そのほかの機能について

■ GPS機能

自局の位置情報(緯度/経度)を表示したり、相手局に自局の位置情報を送信したりできる機能です。

相手局の位置情報を受信したときは、相手局との距離と方位を表示できます。

※GPS機能をご使用になるには、送信側と受信側の無線機に設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※「」が点滅から点灯に変わると、受信(測位)完了です。

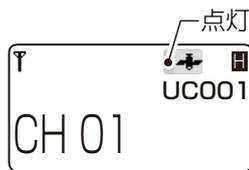
点滅している状態では、位置情報の表示や送信、発着信履歴使用時の時刻表示ができません。

※本製品が設置されている場所や建物の周辺環境によって、GPS衛星からの信号を測位できない場合があります。

※位置管理システムなどのマッピングには対応していません。

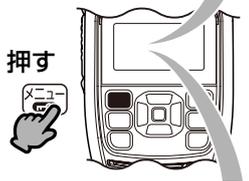
【自局の位置情報を確認するには】

- ①「」が点灯(測位が完了)していることを確認します。

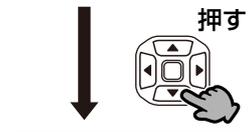


測位完了時の表示

- ②【メニュー/】キーを短く押します。
●メニュー画面が表示されます。



- ③【】/【】キーを押して、「GPS情報」を選択します。



GPS情報を選択

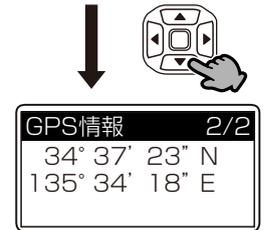
- ④【決定】キーを押します。

- 測位日時と追尾衛星数(表示例 SAT:05)を表示します。



測位日時と追尾衛星数(SAT)の表示例

- ⑤【】キーを押すと、緯度と経度を表示します。



緯度と経度の表示例

- ⑥待ち受け時の表示に戻るときは、【戻る】キーを2回押します。



【相手局から位置情報(緯度/経度)を受信したときの表示】

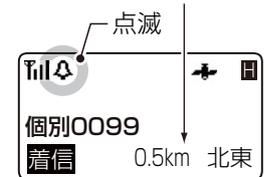
GPS機能が設定されているとき、相手局の位置情報を受信すると、相手局との距離と方位を表示します。

※発着信履歴機能が設定されているときは、発着信履歴から、相手局の位置情報を確認できます。(P7-8)

※個別呼び出し機能がOFFの場合は、着信表示(P7-2)が設定されていて、ユーザーコードが同じ相手からの呼び出しを受信したときだけ、位置情報を表示できます。

※通話相手との距離が近距離(200m以内)のときは、自局との距離と方位が相手局に表示されないことがあります。

例:相手局が自局より北東へ0.5km先にいることを表示



相手局から位置情報付きで、個別呼び出しを受けたときの表示例

7 そのほかの機能について

■ GPS機能(つづき)

【自局の位置情報(緯度/経度)を送信するには】

✚が点灯している状態で、
【PTT】(送信)スイッチを押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

- 【PTT】(送信)スイッチを押しているあいだは、【送・受】ランプが赤色に点灯します。
※同時に、自局の位置情報が通話相手に送信されます。



自局の位置情報付きで、個別呼び出しをしたときの表示例

【ご参考】

位置情報(緯度/経度)が通話相手に送られるのは、最初に呼び出し、または応答をしたときだけです。

通話中は、終話するまで、最新の位置情報が送られますので、通信開始時と位置情報が異なることがあります。

【送信時のご注意】

【PTT】(送信)スイッチを押すと、位置情報を送出後に音声を送信されます。

「ピピッ」と鳴ってから、通話相手に呼びかけてください。

■ ノイズキャンセル機能

周囲の雑音を抑えて、雑音の少ない音声にして通話する機能です。

※使用するには、詳細設定モードからの設定が必要です。
(P8-10)

※右図のマイクから入った周囲のノイズを使用して、前面部のマイクから入った周囲のノイズを打ち消すことで、送信音声に含まれるノイズ(特に低音域)を軽減します。

ノイズキャンセル機能用マイク



【ご注意】

送信するときは、ノイズキャンセル HM-206 #02(後面)機能用のマイクが指でふさがらないように、コマンドマイク(HM-206 #02)を持ってください。

「設定モード」、または「詳細設定モード」から、本製品の各機能を変更する方法について説明します。

■ 設定一覧

コマンドマイク(HM-206 #02)に表示される設定項目について説明しています。

設定モード、詳細設定モードによって、設定できる項目が異なります。

以下の一覧表を参考に、必要な項目を設定してください。

□欄は、設定モードでも変更できる設定項目です。

| 機能名称 | 初期値 | 参照 |
|-----------------------------|----------|-------|
| Pベル ^{*2} | OFF | P8-3 |
| ポケットビープ | OFF | P8-3 |
| 秘話 | OFF | P8-3 |
| 秘話キー ^{*8} | 00001 | P8-3 |
| 送信出力切替 | HIGH | P8-4 |
| マイクゲイン | 0dB | P8-4 |
| ユーザーコード | チャンネル共通 | P8-4 |
| チャンネル毎ユーザーコード ^{*1} | OFF | P8-4 |
| 個別呼出 | OFF | P8-4 |
| 自局番号 ^{*2} | 0001 | P8-4 |
| 基地局番号 ^{*2} | 0099 | P8-4 |
| グループ設定 ^{*2} | グループ0001 | P8-5 |
| 終話後表示 ^{*2} | 全体 | P8-5 |
| 優先個別番号 ^{*2*4} | 0099 | P8-5 |
| 発着信履歴消去 ^{*2} | しない | P8-5 |
| 呼出着信音 ^{*2*7} | 0001 | P8-6 |
| P-CH機能 | OFF | P8-7 |
| P-CH ^{*3} | 呼出 | P8-7 |
| Pキー短押し | ホーム | P8-7 |
| Pキー長押し | モニタ | P8-7 |
| スキャン/サーチCH ^{*5} | CH 01 | P8-8 |
| スキャン停止時間 ^{*6} | 10秒 | P8-8 |
| スキャン再開時間 ^{*6} | 5秒 | P8-8 |
| 通話後動作 ^{*6} | スキャン解除 | P8-8 |
| キーロック時音量 | 無効 | P8-8 |
| スピーカー出力 | 自動 | P8-9 |
| チャンネル番号音声案内 | ON | P8-9 |
| 受信電波強度通知機能 | OFF | P8-9 |
| 妨害波アラーム | OFF | P8-9 |
| マイクコントラスト | 12 | P8-9 |
| 本体コントラスト | 12 | P8-9 |
| バックライト | 常時点灯 | P8-9 |
| マイク表示輝度 | 4 | P8-10 |
| 本体表示輝度 | 4 | P8-10 |
| 録音再生機能 | OFF | P8-10 |
| 録音履歴消去 ^{*9} | しない | P8-10 |
| ノイズキャンセル | OFF | P8-10 |
| ユーザーリセット | しない | P8-10 |

*1 ユーザーコードの設定が「チャンネル毎」の場合だけ表示されます。

*2 個別呼び出しの設定が「ON」の場合だけ表示されます。

*3 プライベートチャンネル機能の設定が「ON」の場合だけ表示されます。

*4 終話後表示の設定が「優先個別」の場合だけ表示されます。

*5 [P](プログラム)キー短押し、または[P](プログラム)キー長押しの設定が

「M-CHスキャン」、または「E-CHサーチ」のとき、設定できます。

*6 [P](プログラム)キー短押し、または[P](プログラム)キー長押しの設定が

「P-CHスキャン」、または「M-CHスキャン」のとき、設定できます。

*7 ポケットビープの設定が「OFF」のとき、設定できます。

*8 秘話が「キー ID1」～「キー ID20」のとき、表示されます。

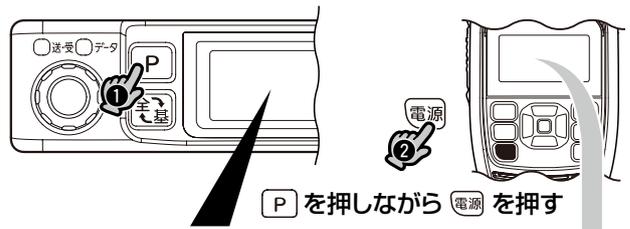
*9 録音再生機能の設定が「ON」の場合だけ表示されます。

■ 設定モードに移行するには

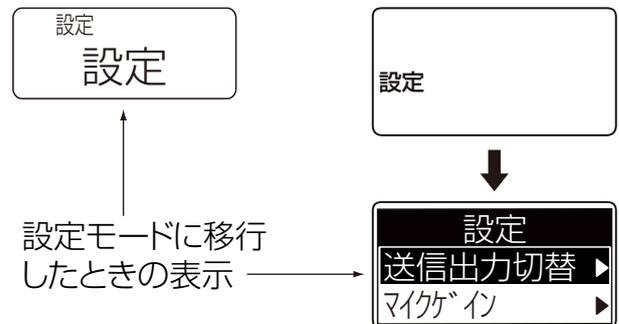
【操作のしかた】

① 本製品の電源を切ります。

② [P](プログラム)キーを押しながら、[電源]キーを押しつづけます。



[P] を押しながら [電源] を押す



③ 「設定」と表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。

● 設定項目が表示されます。

※設定モードを解除するまで通話できません。

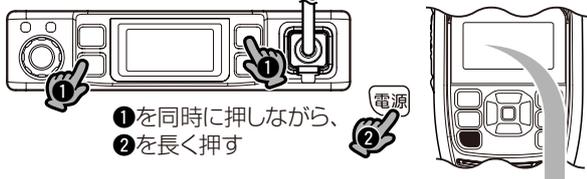
④ 「■ 設定のしかた」(P8-2)の操作をすると、設定値を変更できます。

8 各種機能の設定

■ 詳細設定モードに移行するには

【操作のしかた】

- ① 本製品の電源を切ります。
- ② [全⇄基]キーと[機能/Ⓜ-O]キーを同時に押しながら、[電源]キーを押しつづけます。



- ①を同時に押しながら、
- ②を長く押す

- ③ 「詳細設定」と表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。

- 設定項目が表示されます。

※設定モードを解除するまで通話できません。

- ④ 「■ 設定のしかた」の操作をすると、設定値を変更できます。



■ 設定のしかた

設定モード、または詳細設定モードに移行後、下記の手順で各機能の設定を変更できます。

【操作のしかた】

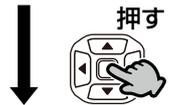
- ① [▲]/[▼]キーを繰り返し押しして、設定項目(例:スピーカー出力)を選択します。



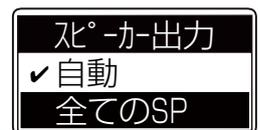
設定モードの表示例



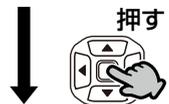
例:スピーカー出力を選択したとき



現在の設定値



変更する設定値を選択
(選択例:全てのSP)



設定値確定後の表示



設定モード解除

- ② [決定]キーを押します。

- 現在の設定値(例:自動)が表示されます。

- ③ [▲]/[▼]キーを繰り返し押しして、設定値を選択します。(例:全てのSP)

- ④ [決定]キーを押します。

- 設定値が確定されます。

※ほかの機能も変更するときは、①～④の操作を繰り返します。

- ⑤ 設定モードを解除するときは、[PTT] (送信) スイッチを押します。

※設定値を変更後に、電源を切った場合でも、設定値が確定されます。

8 各種機能の設定

■ 設定項目について

Pベル (初期設定値:OFF)



Pベル機能を設定します。

Pベル機能を使用すると、呼び出し(全体/個別/グループ)を受けたとき、応答するまで相手の音声をミュート(聞こえないように)します。

※ [個別呼出]を「ON」に設定したときに表示されます。

- OFF : Pベル機能を使用しない
- ブザーON : 個別、グループ、または全体呼び出しを受信したとき、音声をミュートしてブザーが鳴る
- メロディON: 個別、グループ、または全体呼び出しを受信したとき、音声をミュートしてメロディーが鳴る
- ブザーOFF : 個別、グループ、または全体呼び出しを受信したとき、音声をミュートするがブザーは鳴らない

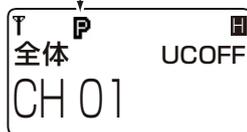
【ブザーON、メロディON、ブザーOFFに設定した場合】

◎右図のように、表示部には、「P」が表示されます。

◎ポケットビープ機能と併用する場合、基地局/個別呼び出しを受けたとき、Pベル機能のブザー(ピー音、3回)、またはメロディー音(1回)が鳴ったあとに、ポケットビープ機能で設定された呼び出し音、またはメロディー音(3回)が鳴ります。

また、「ブザーOFF」に設定すると、基地局/個別呼び出しを受けても、ポケットビープ機能で設定された呼び出し音やメロディー音は鳴りません。

Pベル表示



Pベル機能設定時の表示(例:CH 01)

ポケットビープ (初期設定値:OFF)



ユーザーコードによる呼び出し、または個別呼び出し機能による個別呼び出しを受けたとき、呼び出し音のパターンを設定します。

※グループ、または全体呼び出しを受けたときは、ポケットビープが「OFF」以外に設定されていても鳴りません。

- OFF : ポケットビープを使用しない
- 30回 : 「トルルル」と音が30回連続で鳴る
- 3回 : 「トルルル」と音が3回連続で鳴る
- 1分毎 : 「トルルル」と音が3回連続で鳴ったあと、1分ごとに1回鳴る
- 連続 : 「トルルル」と音が3回連続で鳴ったあと、2秒ごとに1回鳴る
- ピー : 「ピー」と音が1回鳴る
- ピピピ : 「ピピピ」と音が1回鳴る
- メロディ : あらかじめ設定されたメロディー音が鳴る

秘話 (初期設定値:OFF)



通話を他者に聞かれないようにする秘話機能を設定します。

【秘話IDの設定】

- OFF : 秘話機能を使用しない
- キーID1～キーID20 : 秘話機能を使用し、秘話キーが設定された[キーID1～キーID20]のメモリーを選択する

【秘話キーの設定】

選択した秘話ID(キーID1～キーID20)が表示された状態で、【個別番号帳】キーを押すと、「秘話キー」が表示されます。

※【戻る】キーを押すと、秘話IDの設定画面に戻ります。

- 選択範囲:00001～32767

【「呼出CH」選択時のご注意】

「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)を選択したときは、ここで設定した秘話機能が無効になります。

【ご注意】

送信側と受信側に異なる秘話IDを設定していても、それぞれの[キーID1～キーID20]にメモリーされている秘話キーが同じ場合は音声が聞こえます。

8 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

送信出力切替 (初期設定値:HIGH)

| |
|--|
| 送信出力切替 |
| LOW |
| <input checked="" type="checkbox"/> HIGH |

送信出力を設定します。

- LOW : 送信出力を1Wに設定する
- HIGH : 送信出力を5Wに設定する
- チャンネル毎 : チャンネルごとに送信出力を設定する
※チャンネルごとに送信出力を設定するには、お買い上げの販売店にご依頼ください。

マイクゲイン (初期設定値:0dB)

| |
|---|
| マイクゲイン |
| -3dB |
| <input checked="" type="checkbox"/> 0dB |

マイクの感度を設定します。

- 選択範囲: -15dB(低)~0dB(中)~9dB(高)
※3dB単位で選択できます。
- ※周囲の騒音が大きい場所では、低い値に設定し、大きめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。
- また、周囲の雑音が小さい場所では、高い値に設定し、小さめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。

ユーザーコード (初期設定値:チャンネル共通)

| |
|---|
| ユーザーコード |
| チャンネル毎 |
| <input checked="" type="checkbox"/> チャンネル共通 |

通話チャンネル共通のユーザーコードを使用するか、通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用するかを設定します。

- チャンネル毎 : 通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用する
- チャンネル共通 : 通話チャンネル共通のユーザーコードを使用する

チャンネル毎ユーザーコード (初期設定値:OFF)

| |
|-----------|
| チャンネル毎UC |
| CH 01 OFF |
| CH 02 OFF |
| CH 03 OFF |

チャンネルごとのユーザーコードを設定します。

※この項目は、ユーザーコードの設定が「チャンネル毎」の場合だけ表示されます。(P4-2)

- CHの選択範囲 : CH 01~CH 14、CH 16~CH 30、CH S1~CH S5*
- ※「CH 呼出」は、ユーザーコードを設定できません。
- ★上空用チャンネル(CH S1~CH S5)の設定は、販売店にご依頼ください。
- UCの選択範囲 : OFF、001~511

個別呼出 (初期設定値:OFF)

| |
|---|
| 個別呼出 |
| <input checked="" type="checkbox"/> OFF |
| ON |

同じ通話チャンネルを使用する相手のうち、通話したい相手だけを呼び出す機能を設定します。

- OFF : 使用しない
- ON : 使用する

自局番号 (初期設定値:個別0001)

| |
|--|
| 自局番号 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 個別0001 |
| 個別0002 |

この項目で設定する自局番号で個別呼び出しを受けると着信します。

※[個別呼出]を「ON」に設定したときに表示されます。

- 選択範囲*: 個別0001~個別0245
- ★個別9999まで設定したい場合は、販売店にご依頼ください。

基地局番号 (初期設定値:個別0099)

| |
|--|
| 基地局番号 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 個別0099 |
| 個別0100 |

個別呼び出しに使用する基地局の個別番号を個別番号設定の内容から設定します。

※[個別呼出]を「ON」に設定したときに表示されます。

- 選択範囲*: 個別0001~個別0245
- ★個別9999まで設定したい場合は、販売店にご依頼ください。

8 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

グループ設定 (初期設定値:グループ0001)



個別呼び出しに使用するグループの参加/不参加を設定します。

※ [個別呼出]を「ON」に設定したときに表示されます。

- 選択範囲*: グ0001～グ0010
- ★ 選択範囲の変更については、販売店にご依頼ください。

グループを選択して[決定]キーを押すごとに「グループID」、「メンバーとなるグループID」の切り替えができます。

- 「」なし: グループID
このグループ番号の呼び出しは受けません。
(このグループ番号を選択して、呼び出すことはできます。)
 - 「」あり: メンバーとなるグループID
このグループ番号を呼び出すことも、呼び出しを受けることもできます。
- ※「メンバーとなるグループID」選択時、表示部に「」が点灯します。

終話後表示 (初期設定値:全体)



通話が終わった(待ち受け状態)とき、表示部の表示をどの状態にするかを設定します。

※ [個別呼出]を「ON」に設定したときに表示されます。

- 通話前表示: 通話前に表示していた内容を、再度表示する
- 通話中表示: 通話中に表示していた内容を、そのまま継続して表示する
- 全体 : 全体呼び出し表示[全体]を表示する
- 基地局 : [基地局番号]で表示された個別番号を表示する
- 個別 : [個別番号]を表示する
- グループ : [グループ番号]を表示する
- 着信履歴 : 着信履歴を表示する
- 発信履歴 : 発信履歴を表示する
- 優先個別 : [優先個別番号]で表示された個別番号を表示する
- ホーム : 通話チャンネルを表示する

優先個別番号 (初期設定値:個別0099)



同じ通話チャンネルを使用する相手のうち、通話したい相手だけを呼び出す機能を設定します。

通話が終わった(待ち受け状態)とき、表示部に表示する個別番号を設定します。

- 選択範囲 : 個別0001～個別0245
: グループ0001～グループ0010

※ 選択範囲の変更については、販売店にご依頼ください。

※ [個別呼出]を「ON」に設定し、終話後表示を「優先個別」に設定したときに表示されます。

発着信履歴消去 (初期設定値:しない)



自局番号の設定/基地局番号の設定/グループ設定を変更したとき、この機能で発着信履歴を削除してください。

※ [個別呼出]を「ON」に設定したときに表示されます。

- しない : 履歴を削除しない
- 消去する : 履歴を削除する

※「消去する」を選択後、[戻る]キーを押して、ほかの設定項目に移動したときは、発着信履歴を消去しないと認識され、「発着履歴消去」を選択したときの状態に戻ります。

8 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

呼出着信音 (初期設定値:OFF)

呼び出しを受けた相手の個別番号、グループ番号ごとに、異なる呼び出し音のパターンを設定します。

※ [ポケットビープ]を「OFF」、および[個別呼出]を「ON」に設定したときに表示されます。

※ 全体呼び出しを受けたときは、呼び出し音が「OFF」以外に設定されていても鳴りません。

- OFF : 使用しない
- 30回 : 「トルルル」と音が30回連続で鳴る
- 3回 : 「トルルル」と音が3回連続で鳴る
- 1分毎 : 「トルルル」と音が3回連続で鳴ったあと、1分ごとに1回鳴る
- 連続 : 「トルルル」と音が3回連続で鳴ったあと、2秒ごとに1回鳴る
- ピー : 「ピー」と音が1回鳴る
- ピピピ : 「ピピピ」と音が1回鳴る
- X0ディ1~9 : 設定した番号のメロディー音が鳴る

【呼び出し音のパターンを変更するには】

- ① [▲]/[▼]キーを繰り返し押し、相手の個別番号、またはグループ番号を選択します。

- 選択範囲:

個別0001~個別0010、
グ0001 ~グ0010

- ② [決定]キーを押します。

- 「OFF」(初期設定値)が表示されます。

- ③ [▲]/[▼]キーを繰り返し押し、呼び出し着信音を選択します。

- ④ [決定]キーを押します。

※ほかの呼び出し音も設定するときは、①~④を繰り返します。



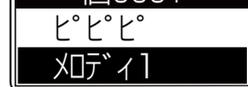
個別番号(選択例)



グループ番号(選択例)



選択した番号の表示



着信音(設定例)

呼出着信音(つづき)

【個別番号、グループ番号を変更するには】

設定されている呼び出し音のパターンに対する個別番号、またはグループ番号を変更するときは、下記の操作で変更できます。

- ① [▲]/[▼]キーを繰り返し押し、変更する個別番号、またはグループ番号を選択します。

- ② [個別番号帳]キーを押します。

- ③ 個別番号を編集するときは、[◀]/[▶]キーを短く押し、編集できる桁に移動し、[▲]/[▼]キーを押して番号を変更します。

グループ番号を編集するときは、[▲]/[▼]キーを押して番号を選択します。

- ④ [決定]キーを押します。

※ほかの番号も設定するときは、①~④を繰り返します。

※例のように、番号が同じ場合は、1番上の行に表示された番号の呼び出し音が鳴ります。



個別番号(選択例)



個別番号編集表示



個別番号(変更例)



個別0002から呼び出しを受けると、「X0ディ1」が鳴るように変更した例



グループ番号(選択例)



グループ番号編集表示



グループ番号(変更例)



グループ0002から呼び出しを受けると、「ピピピ」と鳴るように変更した例

8 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

P-CH機能 (初期設定値:OFF)



プライベートチャンネル機能を設定します。

- OFF :使用しない
- ON :使用する

※「ON」に設定すると、[P](プログラム)キーによるプライベートチャンネルへの切り替え操作が有効になります。

P-CH (初期設定値:呼出CH)



通話チャンネルからプライベートチャンネルにする番号を設定します。

※ [P-CH機能](プライベートチャンネル機能)を「ON」に設定したときに表示されます。

- 選択範囲:CH 01~CH 14,呼出CH, CH 16~CH 30, CH S1~CH S5*

★上空用チャンネル(CH S1~CH S5)の設定は、販売店にご依頼ください。

Pキー短押し (初期設定値:ホーム)



[P](プログラム)キーを短く押したときの動作を設定します。

Pキー長押し (初期設定値:モニター)



[P](プログラム)キーを長く押したときの動作を設定します。

- 無効 :動作しない
- P-CHスキャン :プライベートチャンネルスキャンの開始
- M-CHスキャン :メモリーチャンネルスキャンの開始
- E-CHサーチ :空きチャンネルサーチの開始
- 音声案内 :通話チャンネル番号の読み上げ
- 周波数表示 :通話チャンネル番号表示(名称)と周波数表示を切り替える
- P-CH :通話チャンネル番号表示とプライベートチャンネル番号表示を切り替える
- 拡声器 :拡声器の動作開始/停止を切り替える
- ホーム :通話チャンネル表示に戻す
※コマンドマイク(HM-206 #02)が接続されているとき、無線機本体の表示は、変化しません。
- ツマミ切替 :無線機本体のツマミの動作(音量/通話チャンネル)を切り替える
- モニター :押しているあいだだけモニター機能(※P7-1)が動作する([P](プログラム)キー長押しに対して設定できます。)

※「P-CHスキャン」選択時、プライベートチャンネル番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、スキャンしません。

※「M-CHスキャン」選択時、設定したチャンネルが1件だけの場合、そのチャンネル番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、スキャンしません。

8 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

スキャン/サーチCH (初期設定値: CH01)

メモリーチャンネルスキャン、または空きチャンネルサーチの対象にする通話チャンネルを設定します。

※ [P] (プログラム) キー短押し、または [P] (プログラム) キー長押しを、「M-CHスキャン」、または「E-CHサーチ」に設定したときに表示されます。

【設定のしかた】

① [▲]/[▼] キーを繰り返し押し、スキャン、またはサーチの対象にする通話チャンネル番号を選択します。

- 選択範囲: CH 01～CH 14、呼出CH、CH 16～CH 30、CH S1～CH S5*



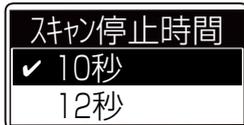
② [決定] キーを短く押すごとに、指定と解除が切り替わります。

- 指定すると、「✓」が点灯します。



★ 上空用チャンネル(CH S1～CH S5)の設定は、販売店にご依頼ください。

スキャン停止時間 (初期設定値: 10秒)



電波を受信中、プライベートチャンネルスキャン、またはメモリーチャンネルスキャンを停止する時間を設定します。

※ [P] (プログラム) キー短押し、または [P] (プログラム) キー長押しを、「P-CHスキャン」、または「M-CHスキャン」に設定したときに表示されます。

- 選択範囲: 2秒～20秒(2秒単位)、停止保持

※ 「停止保持」を選択したときは、受信信号がなくなるまで、スキャンを停止します。

※ 受信信号がなくなると、[スキャン再開時間]の設定にしたがって、スキャンを再開します。

スキャン再開時間 (初期設定値: 5秒)



スキャン停止時間が経過する前に電波が途切れたとき、スキャンが再開するまでの時間を設定します。

※ [P] (プログラム) キー短押し、または [P] (プログラム) キー長押しを、「P-CHスキャン」、または「M-CHスキャン」に設定したときに表示されます。

- 即時 : すぐにスキャンを再開
- 1秒～5秒 : 設定時間後にスキャンを再開
- 再開しない : スキャン停止時間が経過する前に電波が途切れたとき、スキャンを再開しない

通話後動作 (初期設定値: スキャン解除)



スキャン中、[PTT] (送信) スイッチを操作したときのスキャン動作を設定します。

※ [P] (プログラム) キー短押し、または [P] (プログラム) キー長押しを、「P-CHスキャン」、または「M-CHスキャン」に設定したときに表示されます。

- スキャン再開 : 数秒後、スキャンを再開
- スキャン解除 : スキャンを解除

キーロック時音量 (初期設定値: 無効)



ロック機能動作中の音量操作についての設定です。

- 無効 : 音量操作を無効にする
- 有効 : 音量操作を有効にする

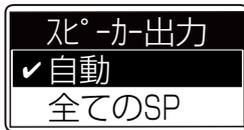
【設定変更時のご注意】

ロック機能が「ON」で電源を切り、詳細設定モードに移行して、「キーロック時音量」の設定を変更したときだけ、ロック機能が「OFF」になります。

8 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

スピーカー出力 (初期設定値:自動)



外部スピーカーを接続したとき、スピーカーマイク(弊社製)から受信音を出力するかしないかの設定です。

- 自動 :外部スピーカーだけに音を出す
- 全てのSP :外部スピーカーとスピーカーマイクの両方に音を出す
- SPマイクのみ:スピーカーマイクだけに音を出す

【ご注意】

市販の外部スピーカー(ステレオプラグ)を接続すると、外部スピーカーから音が出ないことがあります。

※別売品の外部スピーカー(SP-30、SP-35)をご使用ください。

チャンネル番号音声案内 (初期設定値:ON)



通話チャンネル番号を読み上げる機能の設定です。

- OFF :使用しない
- ON :電源を入れたときや、チャンネルを変更したときに、選択されたチャンネル番号を読み上げる

※「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)選択時は、「呼び出し」と読み上げます。

※上空用チャンネル(CH S1~CH S5)選択時は、チャンネル番号の前に、「上空」を付けて読み上げます。

受信電波強度通知機能 (初期設定値:OFF)



受信電波強度通知機能の設定です。

- OFF :通知しない
- ON :通話がつづけられない状態まで受信信号の強度が弱くなると、ピープ音(ピンポン)が鳴る

妨害波アラーム (初期設定値:OFF)



妨害波アラームの設定です。

- OFF :使用しない
- ON :使用する

※下記の電波を受信したとき、妨害波とみなして、警告音(ブツ)が鳴ります。

警告音は、妨害波を受信しているあいだ1秒間隔で鳴りつづけます。

◎自局とユーザーコードが異なる電波を受信したとき

◎自局と秘話機能ON/OFFの設定が異なる電波を受信したとき

マイクコントラスト (初期設定値:12)



本体コントラスト (初期設定値:12)

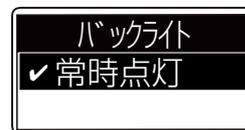


表示部のコントラスト(濃淡)を調整します。

- 選択範囲:0(淡)~25(濃)

※【個別番号帳】キーを長く押しと、初期設定値に戻ります。

バックライト (初期設定値:常時点灯)



送信以外の操作をすると、表示部とキーの照明を自動点灯させるかさせないかを設定します。

- 常時消灯 :点灯しない
- 操作時点灯:送信以外の操作をすると、照明が約5秒間点灯する
- 常時点灯 :電源を切るまで消灯しない

8 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

マイク表示輝度 (初期設定値:4)



本体表示輝度 (初期設定値:4)



表示部と各キーの照明の明るさを設定します。

- 選択範囲: 1~7

録音再生機能 (初期設定値:OFF)



自局宛の通話を録音、および再生する機能を設定します。

- OFF : 使用しない
- ON : 使用する

録音履歴消去 (初期設定値:しない)



録音された通話履歴を消去します。

※ [録音再生機能]を「ON」に設定したときに表示されます。

- しない : 履歴を削除しない
- 消去する : 履歴を削除する

※「消去する」を選択後、[戻る]キーを押して、ほかの設定項目に移動したときは、録音履歴を消去しないと認識され、「録音履歴消去」を選択したときの状態に戻ります。

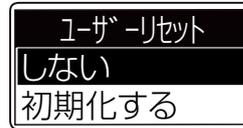
ノイズキャンセル (初期設定値:OFF)



送信音声に含まれるノイズ(特に低音域)を軽減する機能を設定します。

- OFF : 使用しない
- ON : 使用する

ユーザーリセット (初期設定値:しない)



すべての設定を工場出荷時の状態に戻す(リセット)ときの設定と操作です。

- しない : [決定]キーを押しても、初期化しない
- 初期化する : [決定]キーを押すと、初期化する

※「初期化する」を選択後、[戻る]キーを押して、ほかの設定項目に移動したときは、初期化しないと認識され、「ユーザーリセット」を選択したときの状態に戻ります。

【ご注意】

◎リセット操作をする前に、お買い上げの販売店にご相談ください。

リセットすると、設定内容によっては、設定モードや詳細設定モードで再設定できない内容もリセットされ、お使いの環境で通話できなくなることがあります。

◎設定値がリセットされ再起動するまでの2秒間は、無線機の電源を切らないでください。

※リセットの途中で、エンジンを始動させるなどで、一時的に電源が切れると、故障の原因になることがあります。

9

初期状態に戻す(リセットする)には

下記の操作で、すべての設定が工場出荷時の状態になります。

【操作のしかた】

- ① 設定モードに移行します。
(☞P8-1)



設定モード移行直後の表示

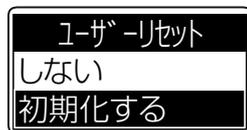
- ② [▲]/[▼]キーを繰り返し押し、「ユーザーリセット」を選択します。



- ③ [決定]キーを押します。

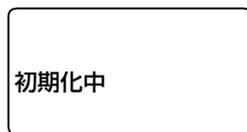
ユーザーリセットを選択したとき

- ④ [▼]キーを押して、「初期化する」を選択します。



初期化するを選択したとき

- ⑤ [決定]キーを押します。
● 「初期化中」と表示され、設定値がリセットされたあと、無線機が再起動します。



【ご注意】

- ◎ リセット操作をする前に、お買い上げの販売店にご相談ください。
リセットすると、設定内容によっては、設定モードや詳細設定モードで再設定できない内容もリセットされ、お使いの環境で通話できなくなることがあります。
- ◎ 設定値がリセットされ再起動するまでの2秒間は、無線機の電源を切らないでください。
※リセットの途中で、エンジンを始動させるなどして、一時的に電源が切れると、故障の原因になることがあります。

高品質がテーマです。

